大東市埋蔵文化財調査報告第38集

北条西遺跡

—北条２・６丁目所在共同住宅建設に伴う発掘調査報告書—

２０１４年3月
大東市教育委員会

序　文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部の低地では古くは河内湖、近世の中頃までは深野池と呼ばれた大きな池が市域の４分の１を占め、その後はその池も大和川の付替えにより新田として開発され、一昔前までは広大な田園風景が広がる豊かな自然環境に恵まれていました。

わたしたちの先人達はそのような環境と共存しながら個性豊かな歴史や文化を育み、その足跡が、当時のコミュニティの中心であり、その地域の歴史と共に歩んできた神社、寺院をはじめ、遺跡、古文書、絵画、彫刻、地域固有の伝統的な行事など、様々な歴史、文化的遺産として現在に残されています。

今回、報告する北条西遺跡は、生駒山西麓を南北に縦貫する東高野街道周辺に広がる、弥生時代から中世にかけての集落遺跡として知られ、この遺跡の調査によって特に弥生、古墳時代の集落の様相が明らかにされるものと期待されています。

今回の発掘調査におきましては、弥生時代から飛鳥、奈良時代にいたる集落跡を確認することができ、特に古墳時代では、渡来人の活動を示唆する韓式系土器や初期須恵器が多数出土し、当時、河内湖の東岸部であったこの地域特有の歴史的様相がうかがえ、市域の歴史を理解するうえで、貴重な成果を得ることができたと思われます。

今後、これらの成果につきましては活用、公開していくとともに、本書が本市の歴史を知る基礎資料となり、市民の方々が歴史や文化財に対する理解を深めるための一助になれば幸いに存じます。

教育委員会では、今後も先人より受け継いできました貴重な文化財を大切に保存、活用し、未来を担うこれからの世代に引き継いでいく所存でありますので、市民の方々におかれましては本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり多大なご理解、ご協力を賜りました事業者の方をはじめ、関係機関、各位に厚くお礼申し上げます。

平成２６年３月

大東市教育委員会
教育長　亀 岡 治 義

例　言

１．本書は大阪府大東市北条２丁目８７６－１番地における共同住宅建設に伴う北条西遺跡発掘調査（略号：ＨＪＮ９４－１）、および北条２丁目８６８－１、８６７－２、同６丁目８６９－４番地における共同住宅建設に伴う北条西遺跡発掘調査（略号：ＨＪＮ９６－１）の報告書である。

２．両発掘調査業務については山本利雄氏より依頼を受け、大東市教育委員会が実施し、その係る費用については同氏がこれを負担した。記して感謝の意を表します。

３．ＨＪＮ９４－１調査における現地調査は平成６年４月１５日から同年６月８日にかけて実施し、調査面積は４５５㎡である。また、ＨＪＮ９６－１調査における現地調査は平成８年１１月７日から同年１２月１６日にかけて実施し、調査面積は４２８㎡である。

４．両発掘調査業務は大東市教育委員会歴史民俗資料館、中逵健一（現、生涯学習課）が担当した。

５．本書における方位は、ＨＪＮ９４－１調査では磁北で示している。また、ＨＪＮ９６－１調査では座標北で示し、座標については日本測地系における国土座標第Ⅵ系である。また、標高についてはそれぞれT.P. 値（東京湾平均海面値）を用いている。

６．発掘調査業務における現地調査、整理作業等については下記の方々の参加を得た。
（敬称略、五十音順）
（ＨＪＮ９４－１）
大谷聡、甲斐範浩、川崎昌美、小堀直子、谷崎光子、萩野登、樋口里美、宮田八重子
村尾奈津子、吉野正泰
（ＨＪＮ９６－１）
小堀直子、谷崎光子、樋口里美、宮田八重子、村尾奈津子、吉野正泰

７．ＨＪＮ９６－１調査における基準点、水準点の設置については阪急航空株式会社に委託した。

８．本書の執筆および編集は担当者が行い、データー作成、遺物写真撮影、印刷および製本については教育委員会の監督指示のもと、株式会社地域文化財研究所に委託した。

９．今回の調査に関わる出土遺物及び写真、実測図等の記録資料は、大東市教育委員会において保管している。

本 文 目 次

序文
例言
第１章　遺跡の歴史的環境 …… 1
第２章　調査に至る経緯と方法 …… 5
第３章　ＨＪＮ９４－１調査 …… 7
　第１節　調査成果 …… 7
　第２節　遺構と遺物 …… 7
第４章　ＨＪＮ９６－１調査 …… 23
　第１節　調査成果 …… 23
　第２節　遺構と遺物 …… 23
第５章　まとめ …… 43
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　大東市位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図（S=1/10,000） …… 2
第３図　調査地位置図（S=1/5,000） …… 5
第４図　ＨＪＮ９４－１調査区区割図（S=1/400） …… 6
第５図　ＨＪＮ９６－１調査区区割図（S=1/400） …… 6
第６図　Ｂ区土層断面図（S=1/80） …… 9
第７図　Ｂ区第１遺構面全体図（S=1/100） …… 12
第８図　ＳＤ－Ｂ１０３遺物出土状況図（S=1/40） …… 13
第９図　ＳＰ－Ｂ１１２遺物出土状況図（S=1/20） …… 13
第10図　ＳＤ－Ａ１０１遺物出土状況図（S=1/30） …… 13
第11図　ＳＫ－Ａ１０１平・断面図（S=1/60） …… 13
第12図　Ａ区第１・Ｂ区第２遺構面全体図 …… 14
第13図　Ａ区第２・Ｂ区第３遺構面全体図 …… 14
第14図　Ａ区第１・Ｂ区第２遺構面柱材出土状況図（S=1/40） …… 15
第15図　ＳＫ－Ａ２０４上層遺物出土状況図（S=1/40） …… 15
第16図　ＳＫ－Ａ２０４下層平・断・遺物出土状況図（S=1/40） …… 15
第17図　ＳＫ－Ｂ３０２平・断・遺物出土状況図（S=1/40） …… 15
第18図　ＳＫ－Ｂ３０１平・断・遺物出土状況図（S=1/40） …… 16
第19図　ＳＫ－Ｂ３０５平・断・遺物出土状況図（S=1/40） …… 16
第20図　Ａ区第２・Ｂ区第３遺構面柱材出土状況図（S=1/40） …… 16

第21図　Ｂ区第１・Ａ区第１・Ｂ区第２遺構面出土遺物実測図（S=1/4）…… 17
第22図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（１）（S=1/4）…… 18
第23図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（２）（S=1/4）…… 19
第24図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（３）（S=1/4）…… 20
第25図　Ａ区第２・Ｂ区第３遺構面出土遺物実測図（S=1/4）…… 21
第26図　包含層出土遺物実測図（S=1/4）…… 22
第27図　Ｂ区土層断面図（S=1/80）…… 24
第28図　第１遺構面全体図 …… 31
第29図　第２遺構面全体図 …… 31
第30図　Ａ区第１遺構面・各溝（ＳＤ）断面図（S=1/40）…… 32
第31図　Ｂ区第１遺構面・各溝（ＳＤ）断面図（S=1/40）…… 32
第32図　Ａ区第２遺構面・各溝（ＳＤ）断面図（S=1/40）…… 32
第33図　ＳＤ－Ａ２０３平・遺物出土状況図（S=1/20）…… 32
第34図　ＳＤ－Ａ２０７平・断・遺物出土状況図（S=1/30）…… 33
第35図　ＳＫ－Ａ２０４平・断・遺物出土状況図（S=1/30）…… 33
第36図　ＳＫ－Ａ２１３平・断・遺物出土状況図（S=1/20）…… 33
第37図　ＳＫ－Ａ２１４平・遺物出土状況図（S=1/30）…… 33
第38図　Ａ区第２遺構面・各土坑（ＳＫ）平・断面図（S=1/60）…… 34
第39図　Ａ区ＳＩ－Ａ２０１遺物出土状況図（S=1/20）…… 34
第40図　ＳＫ－Ｂ２０４平・断・遺物出土状況図（S=1/20）…… 34
第41図　ＳＫ－Ｂ２０５平・断・遺物出土状況図（S=1/20）…… 34
第42図　ＳＫ－Ｂ２０７平・断・遺物出土状況図（S=1/20）…… 35
第43図　Ｂ区第２遺構面・各土坑（ＳＫ）平・断面図（S=1/40）…… 35
第44図　Ｂ区側溝Ｉ内遺物出土状況図（S=1/20）…… 35
第45図　Ａ区第１遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）…… 36
第46図　Ｂ区第１遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）…… 36
第47図　Ａ区第２遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）…… 37
第48図　Ａ・Ｂ区第２遺構面各遺構出土遺物実測図（１）（S=1/4）…… 38
第49図　Ａ・Ｂ区第２遺構面各遺構出土遺物実測図（２）
・包含層出土遺物実測図（１）（S=1/4）…… 39
第50図　Ａ・Ｂ区包含層出土遺物実測図（２）（S=1/4）…… 40
第51図　Ａ・Ｂ区包含層出土遺物実測図（３）（S=1/4）…… 41
第52図　Ａ・Ｂ区包含層出土遺物実測図（４）
・その他出土遺物実測図（S=1/4）…… 42

表目次

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表 …… 47

図版目次

図版１　ＨＪＮ９４－１遺構（１）
１．Ａ区第１遺構面全景（南西より）　２．Ａ区第２遺構面全景（南西より）
図版２　ＨＪＮ９４－１遺構（２）
１．ＳＤ－Ａ１０１出土遺物　２．ＳＫ－Ａ１０１（南より）
３．畦畔（北より）　４．ＳＰ－Ａ１１２根石（南より）
５．ＳＫ－Ａ２０４上層（西より）　６．ＳＫ－Ａ２０４上層遺物出土状況
７．ＳＫ－Ａ２０４下層（南より）　８．ＳＰ－Ａ２５４柱材（南より）
図版３　ＨＪＮ９４－１遺構（３）
１．Ｂ区第１遺構面全景（北西より）　２．Ｂ区第２遺構面全景（北西より）
３．Ｂ区第３遺構面全景（北西より）
図版４　ＨＪＮ９４－１遺構（４）
１．ＳＤ－Ｂ１０２（西より）　２．ＳＰ－Ｂ１１２遺物出土状況（南より）
３．ＳＰ－Ｂ２２２根石（南より）　４．ＳＰ－Ｂ２３６柱材（東より）
５．ＳＤ－Ｂ３０３（北東より）　６．ＳＫ－Ｂ３０１（南西より）
７．ＳＫ－Ｂ３０１柱材　８．ＳＫ－Ｂ３０２（南より）
９．ＳＫ－Ｂ３０５（北より）
図版５　ＨＪＮ９４－１出土遺物（１）
図版６　ＨＪＮ９４－１出土遺物（２）
図版７　ＨＪＮ９４－１出土遺物（３）
図版８　ＨＪＮ９４－１出土遺物（４）
図版９　ＨＪＮ９６－１遺構（１）
１．Ａ区第１遺構面全景（西より）　２．ＳＤ－Ａ１０１（東より）
３．ＳＤ－Ａ１０３（東より）　４．ＳＸ－Ａ１０１（南より）
５．ＳＸ－Ａ１０１銭貨出土状況
図版10　ＨＪＮ９６－１遺構（２）
１．Ｂ区第１遺構面南半部（西より）　２．Ｂ区第１遺構面北半部（西より）
３．ＳＸ－Ｂ１０１（南より）

図版11　ＨＪＮ９６－１遺構（３）

１．Ａ区第２遺構面全景（西より）

２．ＳＤ－Ａ２０７遺物出土状況（１）（南東より）

３．ＳＤ－Ａ２０７遺物出土状況（２）（南東より）

４．ＳＤ－Ａ２０７遺物出土状況（３）（南東より）

５．ＳＫ－Ａ２０４（西より）

図版12　ＨＪＮ９６－１遺構（４）

１．Ａ区ＳＩ－Ａ２０１遺物出土状況（西より）

２．ＳＰ－Ａ２１４５（南より）

３．ＳＫ－Ａ２１４遺物出土状況

４．ＳＫ－Ａ２１４遺物出土状況（１）－①

５．ＳＫ－Ａ２１４遺物出土状況（１）－②

６．ＳＫ－Ａ２１４遺物出土状況（１）－③

７．ＳＫ－Ａ２１３（西より）

８．ＳＫ－Ａ２１３遺物出土状況（南より）

図版13　ＨＪＮ９６－１遺構（５）

１．Ｂ区第２遺構面南半部（西より）

２．Ｂ区第２遺構面北半部（西より）

図版14　ＨＪＮ９６－１遺構（６）

１．ＳＫ－Ｂ２０４（南より）

２．ＳＫ－Ｂ２０５（東より）

３．ＳＫ－Ｂ２０５遺物出土状況

４．ＳＫ－Ｂ２０７（南より）

５．ＳＰ－Ｂ２７２（南より）

６．ＳＢ－Ｂ２０１（西より）

７．ＳＢ－Ｂ２０２（東より）

８．Ｂ区側溝Ｉ遺物出土状況（南より）

図版15　ＨＪＮ９６－１出土遺物（１）

図版16　ＨＪＮ９６－１出土遺物（２）

図版17　ＨＪＮ９６－１出土遺物（３）

図版18　ＨＪＮ９６－１出土遺物（４）

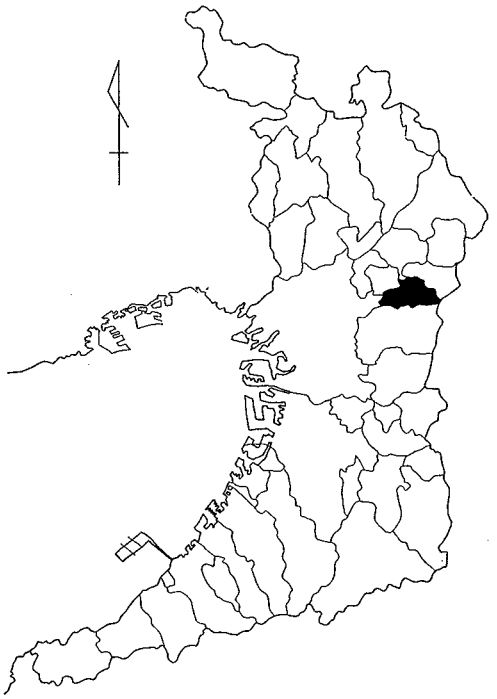
図版19　ＨＪＮ９６－１出土遺物（５）

図版20　ＨＪＮ９６－１出土遺物（６）

第１章　遺跡の歴史的環境

北条西遺跡は、昭和 46 ～ 47 年の北条小学校建設の際に旧石器、古墳時代後期の土師器、須恵器、中世の土師皿などが出土したことにより発見された遺跡で、当初は北条小学校を中心とした南北約 130 m、東西約 110 mの遺跡であった。しかし、以降の立会調査、試掘調査等により南西方向に向かって広がることが確認され、平成２年度には南北最大 370 m、東西約 570 mの広がりをもつ弥生時代から古墳時代の集落跡を中心とした遺跡として周知されるに至っている。

地形的には、北条小学校付近までの土石流段丘から扇状地、緩扇状地を経て、その西方の沖積地にかけて立地するもので、以下、市域の遺跡を中心に周辺の歴史的概観を述べる。



第１図　大東市位置図

《旧石器時代》

具体的な遺跡は確認されていないが、中垣内遺跡から昭和 34 年の東大阪変電所建設時にナイフ形石器、楔形石器が出土し、当遺跡では前述のとおり彫器、掻器が出土している。

《縄文時代》

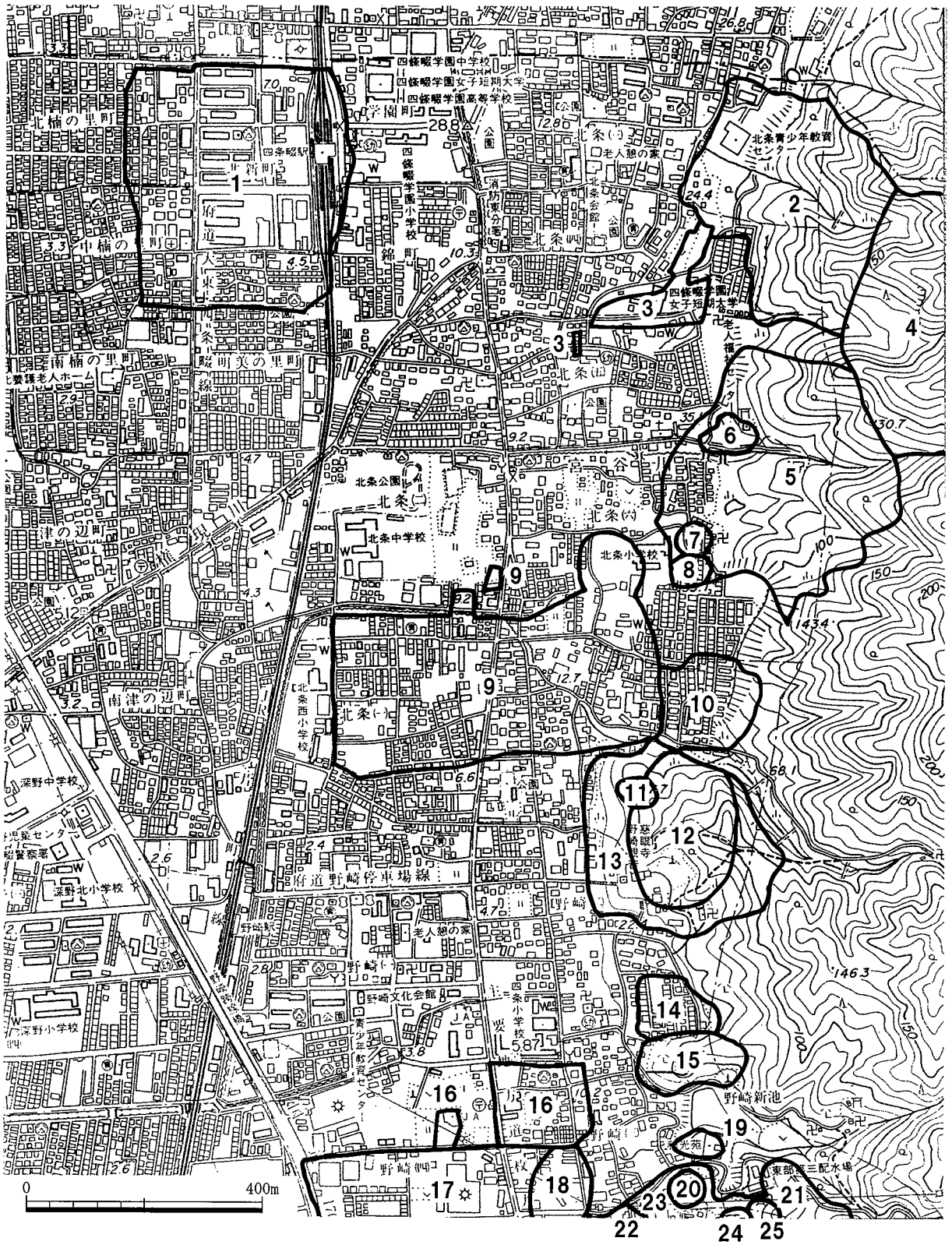
旧石器時代同様、具体的な遺跡としては確認されていないが、中垣内遺跡で北白川Ｃ式の深鉢を伴った縄文時代中期後半の土坑状の遺構が唯一確認されている。遺物はその大半が丘陵から扇状地にかけて立地する遺跡の包含層や、低地においても自然河川などから出土する状況で、前半の土器の出土は確認されていないが、鍋田川遺跡で削器、尖頭器、北新町遺跡で掻器、有舌尖頭器が出土しており、また、北条遺跡、宮谷古墳群からも有舌尖頭器が出土している。土器では北新町遺跡や鍋田川遺跡およびその周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認され、磨耗を受けず比較的遺存状態の良好な土器が多いことから周辺に集落の存在が想定される。また寺川浜遺跡からは東北南部の大洞ＢＣ式晩期土器片が出土しており、地域間交流を考える上で注目される。

《弥生時代》

市域においても集落跡としての遺跡が確認されるようになり、前～中期では、中垣内遺跡、当遺跡がある。また、市域西部の低地に所在する西諸福遺跡においても昭和 32 年の松下電器産業諸福工場建設予定地造成工事の際に中期前半の土器片が採集されている。後期では、竪穴住居を検出した北条遺跡、中垣内遺跡の東に隣接する鍋田川遺跡ではまとまった遺物が出土しており、また、寺川浜遺跡では後期から古墳時代初頭（庄内期）の水田跡が確認されている。

また、特筆すべきものとして、野崎遺跡内にあたる野崎観音の北側丘陵で昭和 33 年の野崎観音遊園地造成中の際に、幼児を埋葬したと考えられる後期の壺棺が出土している。

以上の状況から、後期旧石器時代から弥生時代にかけては、市域北部の権現川流域、および南部の鍋田川流域を中心とした歴史的展開がうかがえる。



1 北新町遺跡
2 墓谷古墳群
3 城ヶ谷遺跡
4 飯盛山城遺跡
5 宮谷古墳群
6 北条古墳
7 北条南古墳
8 北条遺跡
9 北条西遺跡
10 大将軍古墳
11 ヤタ山古墳
12 野崎遺跡
13 野崎城跡
14 福蓮寺古墳
15 福蓮寺遺跡
16 野崎条里遺跡
17 寺川浜遺跡
18 メノコ遺跡
19 峯垣内遺跡
20 市水道寺川配水場古墳
21 堂山古墳群
22 瓦堂遺跡
23 寺川遺跡
24 堂山下古墳
25 堂山上遺跡

第２図　周辺遺跡分布図（S=1/10,000）

《古墳時代》

当時、河内湖東岸に位置していたことから多数の集落が営まれるようになる。前期では中垣内遺跡で竪穴住居が確認され、遺物では直弧文を施した木製品や素文鏡が出土しており、また、東に隣接する鍋田川遺跡においても大量の前期土器や、昭和33年の砂防堰堤建設工事の際に採集された刻みが施された鹿角製品や占骨、滑石製の鏡を模した石製品など、鍋田川周辺に営まれた前期集落は祭祀的色彩の強い特徴的な様相を呈している。中期では、北新町遺跡において溝で区画された竪穴住居、大型倉庫が検出され、遺物では組紐文を有する器台などの初期須恵器、韓式系土器、木製の船材、敷居材を除いた木製扉材一式などが出土しており、その集落の性格について注目されるものであり、メノコ遺跡では鳥足文を施した陶質土器、土製の当具、また鍋田川遺跡からは韓式系土器、初期須恵器のほか、窯壁片なども出土しており、当遺跡からも韓式系土器、初期須恵器などが出土している。これらの状況は渡来系集団の存在を想定させるもので、先述の河内湖東岸という地理的環境が大きく影響しているものであり、市域における特徴的な様相の一つと言える。後期では、丘陵に多数の古墳群が形成されることから、その麓において先述の遺跡をはじめ多くの集落が営まれていたと考えられる。

古墳では多くの存在が推定されているものの、その詳細について明らかにされたものは少ないが、城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群などで調査が実施されており、特に中期の堂山1号墳では三角板革綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など大量の鉄製武器、武具類やこの古墳に特徴的な初期須恵器や円筒埴輪が出土していることから、この地域の有力な首長墓と考えられ、当時の北河内の社会構造、ひいては中央王権との関係、この地域の統治構造を捉えるうえで欠かせない古墳である。

《古代》

北新町遺跡では人面墨書土器や墨書土器、和鏡が出土し、寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器、直径約1mの木を刳り貫いた井筒や河川跡からはウマの骨一体分などが出土し、また鍋田川遺跡では石銙帯、金銅製の帯金具（巡方）などが出土するなど、周辺に官衙的集落の存在を想定させる。しかし、その具体的様相については明らかでないが、この時代における市域の特徴的な様相と言えるものである。また、古代寺院については、瓦堂遺跡で白鳳期の平瓦が出土している他、寺川浜遺跡、鍋田川遺跡において、白鳳から奈良時代にかけての軒丸瓦が出土しており、寺川浜遺跡では仏法法具あるいは六角形を有する特異な硯と考えられる遺物が出土しており、その存在は確実視されるものであり、今後の調査の進展に期待するものである。

《中世》

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、特に北新町遺跡では区画溝を伴う居館跡と考えられる建物群、御領遺跡では当時の池の西側に面した集落全体の実態が確認されている。また、市域西部の低地に位置する西諸福遺跡では、当時の生活文化をうかがえる天正13年（1585）銘のある卒塔婆や荷札木簡が出土している。

戦国期では戦国武将、三好長慶の飯盛城をはじめ、その支城とされる野崎城、当時の西欧でその名を知られたキリシタン武将の三箇頼照（洗礼名、サンチョ）の三箇城などが築城されている。飯盛城においては発掘調査に至る機会は少なく、狭小な面積での実施にとどまっていたが、本格的な縄張調査の結果、新たな曲輪なども発見され、南北約650m、東西約400mの大規模な城域であったことが明らかとなり、織田信長が台頭するまでは政治的な中心地であり、また、キリスト教布教においても重要な役割を担っていた。

《近世》

山間部では大坂城再建における石垣用石材の供給地であった石切場跡があり、低地部では、宝永元年(1704)、大和川付替えにより開発された新田の管理施設であった平野屋新田会所跡がある。近年までその景観を残していたが、その全面的な保存が困難であったことから、会所跡の全面的な発掘調査、また部分的保存とその詳細な調査において、その基礎構造の詳細が明らかにされている。

当時、市域の約25%を占めていた深野池が新田として開発されたことは、この地域の社会、経済に大変革をもたらしたものであり、この時期が大東市域における歴史的に最大の画期と言えるであろう。

【参考文献】

大東市　1973年 『大東市史』

大東市教育委員会　1987年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集

大東市教育委員会　1990年 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集

大東市教育委員会　1994年 『北新町遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第10集

大東市教育委員会　1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集

大東市教育委員会　1997年 『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集

大東市教育委員会　1998年 『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集

大東市教育委員会　1999年 『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集

大東市教育委員会　2000年 『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集

大東市教育委員会　2004年 『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第20集

大東市教育委員会　2005年 『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第22集

大東市教育委員会　2008年 『鍋田川遺跡Ⅱ』大東市埋蔵文化財調査報告第26集

大東市教育委員会　2008年 『鍋田川遺跡Ⅲ』大東市埋蔵文化財調査報告第28集

大東市教育委員会　2010年 『平野屋新田会所跡確認調査概要報告書』 大東市埋蔵文化財調査報告第30集

大東市教育委員会　2012年 『寺川浜遺跡Ⅰ』大東市埋蔵文化財調査報告第31集

大東市教育委員会　2012年 『石切場跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第32集

大東市教育委員会　2012年 『平野屋新田会所跡発掘調査概要』大東市埋蔵文化財調査報告第33集

大東市教育委員会　2013年 『平野屋新田会所跡』大東市埋蔵文化財調査報告第34集

大東市教育委員会　2013年 『飯盛山城遺跡測量調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第35集

大東市北新町遺跡調査会　1986年 『大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
(府営四条畷住宅建替にともなう埋蔵文化財発掘調査)

大東市北新町遺跡調査会　1991年 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
(府営大東北新町住宅建て替えに伴う埋蔵文化財発掘調査)

大東市北新町遺跡調査会　1997年 『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』(府営大東北新町住宅建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査)

大阪府教育委員会　1992　大東市中垣内所在『鍋田川遺跡発掘調査概要・Ⅰ』－鍋田川改修工事に伴う発掘調査－

大阪府教育委員会　1994 『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第45輯

大阪府史編集専門委員会 1991『大阪府史』別巻

昭和58年国土地理院土地条件図［大阪北東部］

第２章　調査に至る経緯と方法

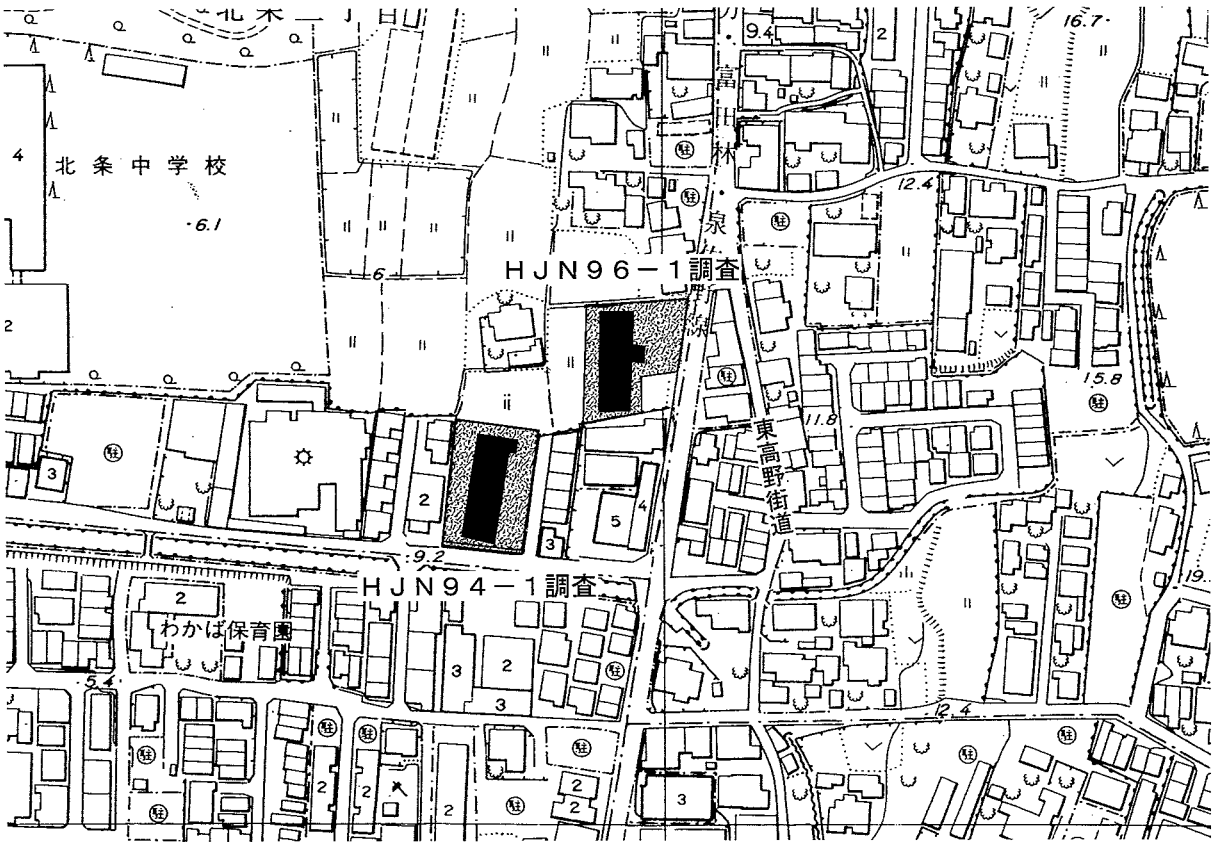
ＨＪＮ９４－１調査は、平成５年に山本利雄氏（以下「事業者」という。）が北条２丁目８７６－１番地において共同住宅建設を計画され、その埋蔵文化財の取り扱いについて大東市教育委員会（以下「市教委」という。）に事前協議があったことに始まる。

市教委としては、当該地は北条西遺跡の北端から谷田川を挟んで北側に位置した場所にあたり、遺跡の広がりの可能性が高いことから事前にその有無の確認が必要であることを指導し、これを受け事業者は平成５年７月 21 日付けで市教委に試掘依頼書を提出することとなった。

その後、市教委が平成６年３月３日に計画地の南北二箇所においてトレンチ調査を実施したところ、北側トレンチでは大規模な遺構の埋土と推定される土層や土器などを含む包含層が確認され、特に遺構の埋土と推定される土層からは、完形品を含む古墳時代の土師器、須恵器などが出土し、また、南側トレンチにおいても北側同様の包含層が確認されたことにより遺跡が良好に残されていることが確認された。

市教委ではこの結果に基づき遺跡登録の手続を行うとともに、その取り扱いについては現状保存のための計画変更を求めた。しかし、それについては困難であるという事業者側の見解に至ったことから、協議を重ねた結果、遺跡を損壊する部分については記録保存を目的とする発掘調査を実施することで合意した。結果、市教委が依頼を受け、平成６年４月７日付けで覚書を交わし発掘調査を実施することとなった。

また、ＨＪＮ９６－１調査についてはその２年後、同事業者によって北条２丁目８６８－１、８６７－２、北条６丁目８６９－４番地において共同住宅建設が計画され、その埋蔵文化財の取り扱いにつ



第３図　調査地位置図（S=1/5,000）

いて大東市教育委員会（以下「市教委」という。）に事前協議があったことに始まり、市教委としては、当計画地が前回調査から北東に約60ｍに位置し、また前回の計画地においても周知の埋蔵文化財包蔵地が北方に広がった状況であったことから、さらに広がっている可能性が高いものと想定されたため事前にその有無の確認が必要であることを指導し、これを受け事業者は平成７年６月28日付けで市教委に試掘依頼書を提出することとなった。

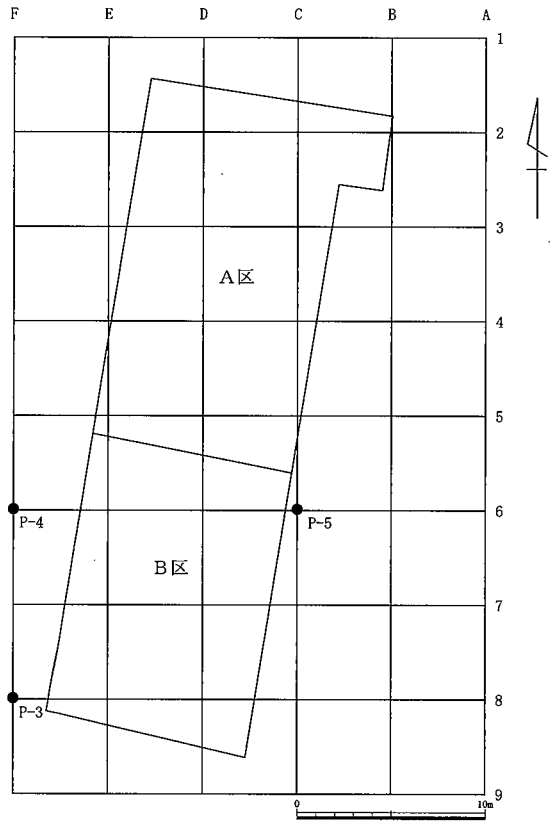
その後、市教委が平成８年７月４日に計画地の南北二箇所においてトレンチ調査を実施したところ、両トレンチで土師器、須恵器などを含む包含層が堆積しており、遺跡が良好に残されていることが確認された。

市教委ではこの結果に基づき、前回と同様に遺跡登録の手続を行うとともに、その取り扱いについては現状保存のための計画変更を求めた。しかし、それについては困難であるという事業者側の見解に至ったことから、遺跡を損壊する部分については記録保存を目的とする発掘調査を実施することで合意した。結果、市教委が依頼を受け、平成８年９月４日付けで覚書を交わし発掘調査を実施することとなった。

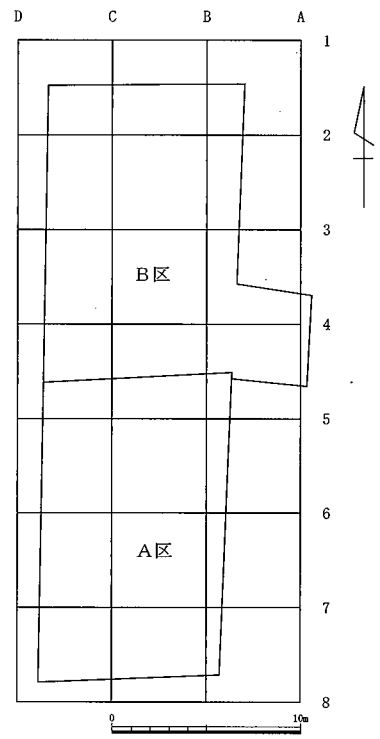
調査方法についてＨＪＮ９４－１調査では、掘削土の仮置き場の確保が困難であったため、調査対象地を南北２分割して実施することとなり、まず、北側（Ａ区）より実施し、その後、掘削土を反転して南側（Ｂ区）の調査を行った。また、各種記録作業については任意の測量基準点を東西南北に数点設置し、数字を付した５メートル四方のグリッドを調査区に設定することで実施した。

また、ＨＪＮ９６－１調査においても同様の状況で、まず、南側（Ａ区）より実施し、その後、掘削土を反転して北側（Ｂ区）の調査を行った。また、各種記録作業については国土座標（日本測地系、国土座標第Ⅵ系）を基準に、数字を付した５メートル四方のグリッドを調査区に設定することで実施した。

標高については、それぞれ東京湾平均海面値（T.P.）を使用している。



第４図　HJN94-1 調査区区割図（S=1/400）



第５図　HJN96-1 調査区区割図（S=1/400）

第３章　ＨＪＮ９４－１調査

第１節　調査成果

１．基本層序

今回の調査地は東から西にかけて傾斜する緩扇状地に立地している。層序においては中世以降の堆積土は耕作地であったため平坦であったが、それより下層の堆積状況においては地形を反映し、西方に向けて傾斜していく堆積状況を明確に示していた。基本的な層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　現代の耕作土および床土である。層厚0.2～0.3ｍを測る。現地調査ではこの層までを機械掘削の対象とした。標高はT.P.＋8.4～8.5ｍを測る。

第Ⅱ層　概ね近世以降に相当する耕作土層で、淡褐灰～灰黄色砂質土が主体をなす。層厚0.1～0.2ｍを測る。ほぼ全域にみられ、部分的に２層に細分される。またＢ区の南側部分においては還元作用を受けていた。

第Ⅲ層　概ね中世以降の耕作土層で、灰褐～褐黄色砂質土が主体をなす。層厚0.2～0.3ｍを測る。Ａ区東側、Ｂ区西側では２～３層に細分できる。

第Ⅳ層　調査区の中央から東側にかけて堆積している層で、Ａ区では明瞭な遺構は確認しえなかったが、Ｂ区の調査区東部における第１遺構面のベース層になる。茶褐色～暗褐色土が主体をなしマンガン粒を多量に含む。層厚は0.1～0.2ｍである。

第Ⅴ層　調査区中央から西側にかけて厚く堆積する層で、Ｂ区の調査区西部における第１遺構面のベース層になる。褐黄～暗灰褐色砂質土が主体をなし、層厚は0.1～0.3ｍを測る。

第Ⅵ層　Ａ区の第１遺構面、Ｂ区の第２遺構面のベース層になる。灰黒色粘質土が主体をなし、層厚は0.3ｍ前後を測る。

第Ⅶ層　灰青～暗青灰色粘質土で層厚は0.1～0.2ｍ前後を測る。Ａ区北東部を中心に西側に向かって傾斜している層で、Ａ区北東部にのみ検出した畦畔に対応する層である。

第Ⅷ層　いわゆる考古学でいうところの地山に相当する層で、Ａ区の第２遺構面、Ｂ区の第３遺構面のベース層になる。礫混じりの暗黄色土～粘質土が主体をなす。層厚は確認できなかった。また、Ｂ区南東部では還元作用を受けていた。

第２節　遺構と遺物

今回の調査は掘削土の仮置き場の関係のため、調査区を北側（Ａ区）と南側（Ｂ区）に分割して調査を実施し、Ａ区では２面、Ｂ区では３面の遺構面を検出した。層位的状況から調査区全体としての第１遺構面がＢ区第１遺構面、第２遺構面がＡ区第１遺構面およびＢ区第２遺構面、第３遺構面がＡ区第２遺構面、Ｂ区第３遺構面となる。

１．第１遺構面

（1）溝［ＳＤ］

ＳＤ－Ｂ１０１　Ｄ５～８区で検出し、規模は幅約0.25ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は灰緑色シルト混灰色砂質土で、土師器、須恵器、円筒埴輪、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０２　Ｃ６～７、Ｄ６～７、Ｅ６区で検出し、規模は幅約2.2ｍ、深さ約0.75ｍを測る。埋土は茶褐色～灰褐色砂質土が主体をなし、遺物は比較的多く土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、白磁などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０３　Ｃ５～７区で検出し、規模は幅約0.3ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は灰黄色シルト、

暗灰色粗砂で、土師器、須恵器が出土している。

ＳＤ－Ｂ１０４　Ｅ７～８区で検出し、規模は幅約0.44ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は茶褐色砂質土で、土師器、須恵器が出土している。

ＳＤ－Ｂ１０５　Ｅ７～８区で検出し、規模は側溝に切られているため明らかでない。埋土は灰緑色砂質土で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ｂ１０６　Ｄ５～６、Ｅ６区で検出し、幅約0.6ｍ、深さ約0.14ｍを測る。遺物は比較的多く土師器、須恵器が出土している。

（2）土坑［ＳＫ］

ＳＫ－Ｂ１０１　Ｄ７区で検出し、形態はほぼ楕円形を呈し、規模は長径約1.1ｍ、短径約1.0ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は暗茶褐色砂質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ１０２　Ｄ６、Ｅ６区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.65ｍ、短径約0.55ｍ、深さ約0.15ｍを測る。埋土は茶褐色砂質土で、土師器、須恵器が出土している。

ＳＫ－Ｂ１０３　Ｄ５～６区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は最大約3.2ｍ、深さ約0.16ｍを測る。埋土は黄褐色シルトで、土師器、初期須恵器、須恵器、製塩土器が出土している。

ＳＫ－Ｂ１０４　Ｄ５～６、Ｅ５～６区で検出し、形態、規模はＳＤ－Ｂ１０６や撹乱に切られているため明らかでない。埋土は黄灰色シルトで、土師器、須恵器、黒色土器Ａ類が出土している。

（3）ピット［ＳＰ］

19基のピットを検出した。形態は円～楕円形を呈し、規模は径約0.3～0.6ｍ、深さ約0.1～0.4ｍである。埋土は暗茶褐色～暗灰色砂質土が主体をなす。遺物は大半で見られず、土師器、須恵器などが出土する程度で、建物を構成する要素も見受けられなかった。また、Ｂ１１２では埋納を想定させる状況で、土師器長胴甕が出土している。

（4）鋤溝［Ｓ］

15条の鋤溝を検出した。ほぼ東西南北に走るもので、規模は幅約0.2～0.3ｍ、深さ約0.05～0.1ｍを測る。埋土は灰～褐色砂質土が主体をなし、土師器、須恵器、瓦器、青磁などが出土している。

２．第２遺構面

（1）溝［ＳＤ］

ＳＤ－Ａ１０１　Ｃ２～５区で検出し、規模は幅約0.8ｍ、深さ約0.25ｍを測る。埋土は暗灰～暗褐色粗砂が主体をなし、比較的良好で多くの土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０１　Ｄ５区で検出し、幅約0.35ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗灰黄色粘質シルト、暗茶灰色砂質土で、土師器、須恵器が出土している。

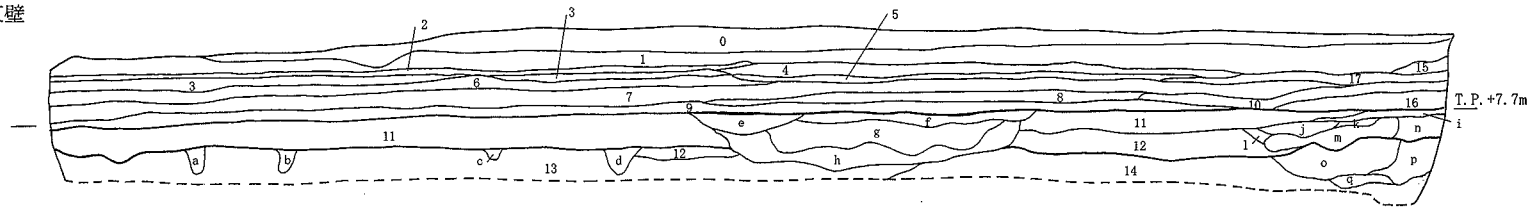
ＳＤ－Ｂ２０２　Ｃ５～７区で検出し、規模は幅約0.3ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は灰黄色シルト、暗灰色粗砂で、比較的多くの土師器、初期須恵器、須恵器、獣骨などが出土している。

（2）土坑［ＳＫ］

ＳＫ－Ａ１０１　Ｄ３、４区で検出し、形態は試掘坑に切られているもののほぼ楕円形を呈するものと思われ、規模は、短径約3.0ｍ、深さ約0.4ｍを測る。埋土は灰色系の微砂、シルトが主体をなし、縄文土器、中期弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器、韓式系土器、サヌカイト片など多くの遺物が出土している。

ＳＫ－Ｂ２０１　Ｃ８区で検出し、形態は隅丸方形を呈し、規模は長径約1.0ｍ、短径約0.9ｍ、深さ

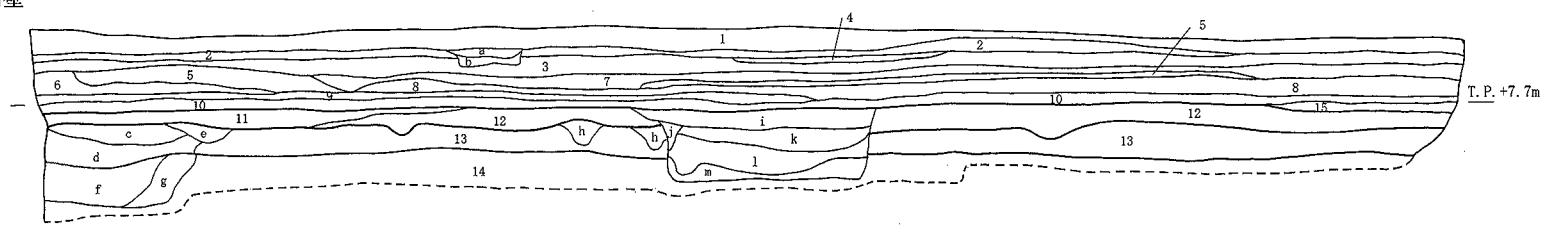
東壁



0　反転時の残りの土
1　旧耕土
2　床土（褐色砂質土）
3　淡灰黄色砂質土
4　褐色混灰緑色土
5　灰黄色土
6　灰黄色砂質土
7　暗灰褐色砂質土（マンガンを含む）
8　灰緑色砂質土
9　暗灰色砂質土
10　褐黄色土
11　暗茶褐色土
12　暗灰黒色粘質土
13　暗黄灰色礫混土（地山）
14　暗灰緑色礫混土（地山）
15　暗灰色砂質土
16　灰緑色砂質土
17　緑灰色砂質土

a　黒褐色粘質土
b　黒褐色粘質土
c　黒褐色粘質土
d　暗灰色粘質土
e　暗灰黄色細砂
f　にぶい灰黄色砂質土
g　にぶい灰黄色砂
h　暗灰色粘土混
　にぶい灰黄色砂
i　暗灰黒色粘質土
j　灰黒色土
k　灰黒色砂質土
l　暗灰黒色粘質土
m　褐色混暗灰色粗砂
n　黒灰色土
o　暗灰青色砂
p　灰緑色粘質シルト
q　暗灰青色砂質土

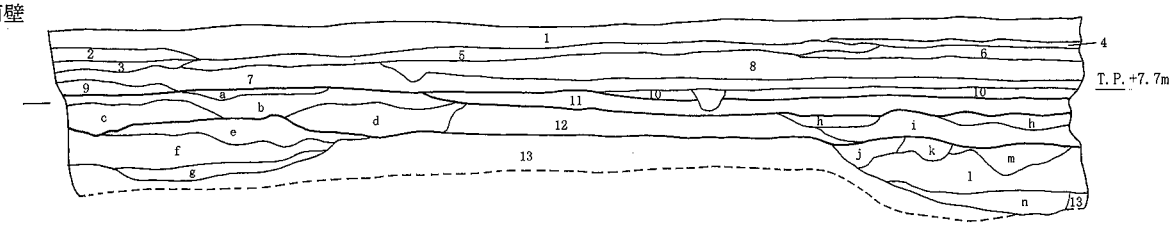
西壁



1　旧耕土
2　床土
3　灰黄色砂質土
4　黄灰色シルト
5　灰褐色砂質土
6　灰色砂質土
7　淡灰褐色砂質土
8　灰褐色砂質土
9　黄褐色砂質土
10　暗褐色土（マンガンを多く含む）
11　褐黄色土
12　暗灰褐色砂質土
13　暗灰黒色粘質土
14　暗緑灰色礫混粘質土（地山）
15　暗黄灰色砂質土

a　青灰色土
b　黄灰色砂質土
c　暗灰黒色土
d　暗灰黒色砂質土
e　暗灰黄色砂質土
f　暗灰褐色砂
g　暗灰青色砂質土
h　にぶい暗黄灰色砂質土
i　暗灰褐色粘質土
j　にぶい灰黄色砂質土
k　にぶい灰黄色砂（しまっている）
l　灰青色砂
m　青灰色砂（粘性をもつ）

南壁



1　旧耕土
2　暗灰色砂質土
3　緑灰色砂質土
4　褐色砂質土（床土）
5　淡灰緑色砂質土
6　灰褐色砂質土
7　褐黄色土
8　灰色砂質土（赤みがかる）
9　灰緑色砂質土
10　暗褐色土（マンガン多く含む）
11　褐黄色土
12　黒灰色粘質土
13　暗褐色礫混土（地山）

a　灰色砂質土
b　暗灰黒色砂質土
c　黒灰色土
d　黒灰色砂質土
e　暗灰青色砂質土
f　暗灰青色砂質土（砂混じり）
g　淡灰緑色砂（しまっている）
h　暗灰黄色砂質土
i　暗灰黒色砂質土
j　にぶい黄灰色シルト
k　暗灰色砂
l　暗灰褐色砂（赤みがかる）
m　暗灰青色砂
n　褐色砂（鉄分の沈着）

0　4m

第６図　Ｂ区土層断面図（S=1/80）

約0.32ｍを測る。埋土は暗灰色砂質土、暗灰色砂混砂質土、暗灰色砂で、土師器、須恵器、獣骨などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０２　Ｅ７区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.1ｍ、短径約0.65ｍ、深さ約0.25ｍを測る。埋土は茶褐色土で、遺物は出土していない。

（３）ピット［ＳＰ］

Ａ区で26基、Ｂ区では40基のピットを検出した。形態は円～楕円形を呈し、規模は径約0.4～0.6ｍ、深さ約0.1～0.4ｍである。埋土は灰色系の砂質土～茶褐色土が主体をなし、石鏃、土師器、初期須恵器、須恵器、韓式系土器、黒色土器Ａ類が出土する程度であった。また、Ａ１０３、Ａ１０６、Ａ１０８、Ｂ２１１、Ｂ２２１、Ｂ２３６、Ｂ２４２で柱材が遺存し、Ｂ２２２では火を受けた痕跡が残る根石が残されていた。掘立柱建物の存在は確実であるが、具体的に復元することは困難であった。

（４）畦畔

Ｂ１～２区でほぼ南北に検出した。非常に良好な状況で残されていたが、西方に水田域が広がる状況ではなく、その様相については不明である。規模は幅約0.55ｍ、高さ約0.13ｍを測り、土師器が出土している。

（５）鋤溝［Ｓ］

６条の鋤溝を検出した。ほぼ東西南北に走るもので、規模は幅約0.2～0.3ｍ、深さ約0.05～0.1ｍを測る。埋土は灰色系の砂質土が主体をなし、弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器、韓式系土器、瓦器などが出土している。

３．第３遺構面

（１）溝［ＳＤ］

ＳＤ－Ａ２０１　Ｄ１～５区で検出し、幅約0.95ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は暗灰黒色砂質土、暗灰青色砂質土で、遺物は良好な土師器、初期須恵器、須恵器が出土している。

ＳＤ－Ａ２０２　Ｃ１～２区で検出し、幅約0.4ｍ、深さ約0.09ｍを測る。埋土は暗灰黒色砂質土で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ａ２０３　Ｃ３区で検出し、幅約0.35ｍ、深さ約0.06ｍを測る。埋土は暗茶褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＤ－Ｂ３０１　Ｃ５～６区で検出し、幅約0.4ｍ、深さ約0.12ｍを測る。埋土は暗茶褐色砂質土、暗灰黄色粘質シルトで、土師器が出土している。

ＳＤ－Ｂ３０２　Ｃ７区で検出し、長さ約1.0ｍ、幅約0.2ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗灰色粗砂混暗茶褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＤ－Ｂ３０３　Ｃ８、Ｄ７～８、Ｅ７～８区で検出したほぼ東西に蛇行する溝で、幅約1.3ｍ、深さ約0.26ｍを測る。埋土は暗灰色粗砂、灰緑色砂、暗灰緑色砂、暗褐色粗砂混暗灰色砂、暗灰黄色砂で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ｂ３０４　Ｃ７区で検出し、形態、規模は側溝に切られているため明らかでない。埋土は暗灰茶色粘質土で、遺物は出土していない。

（２）土坑［ＳＫ］

ＳＫ－Ａ２０１　Ｂ２、Ｃ２区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は最大幅約4.0ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は黄褐色混茶褐色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０２　Ｂ３、Ｃ３区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は最大幅約2.1ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は黄褐色混茶褐色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０３　Ｂ３～４、Ｃ３～４区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は最大幅約2.8ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は黒灰色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０４　Ｄ３区で検出し、形態は試掘坑に切られてはいるもののほぼ楕円形を呈するものと思われ、規模は長径が不明であるが、短径約2.7ｍ、深さ約1.1ｍを測る。埋土は黒灰色土～粘質土、暗灰黒色粘土、暗灰黒色粘土混暗黄色砂で、遺物は完形品を含めた良好で大量の土師器、須恵器、製塩土器、砥石、獣骨が出土し、特に韓式系土器や陶質土器も多数見られ、注目できるものに須恵質土師器や窯壁の付着した破片も出土している。また、桃核のまとまった出土も見られ、通常の土坑とは異なった様相を示している。

ＳＫ－Ａ２０５　Ｃ４、Ｄ４区で検出し、形態は不定形な隅丸方形を呈し、規模は長径約1.5ｍ、短径約1.0ｍ、深さ約0.11ｍを測る。埋土は黒灰色で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０６　Ｃ５、Ｄ５区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.0ｍ、短径約0.6ｍ、深さ約0.42ｍを測る。埋土は黒灰土～粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２０７　Ｄ４区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は最大幅約2.3ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は暗黄灰色砂質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０８　Ｄ４～５、Ｅ４～５区で検出し、形態は調査区外へ広がるため明らかでないが、規模は短径約0.7ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は暗灰色土混茶褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２０９　Ｄ５区で検出し、形態は側溝で切られているため明らかでないが、規模は深さ約0.11ｍを測る。埋土は暗灰色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ｂ３０１　Ｃ５区で検出し、形態は不定形を呈し、規模は調査区外へ伸びるため明らかでないが、短径約1.3ｍ、深さ約1.11ｍを測る。埋土は灰～黒灰粘土が主体をなし、中期弥生土器が出土している。また底部からは柱材らしきものが残されていたが、形態や深さなどから異質な状況であり、類例を他にうかがうことができないが、動物等を捕獲する落し穴的性格を有する土坑の可能性も考えられる。

ＳＫ－Ｂ３０２　Ｃ５区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.54ｍ、短径約0.34ｍ、深さ約0.14ｍを測る。埋土は灰黄色混暗灰色粘質土で、中期弥生土器の甕一個体分が掘肩上面に出土している状況であり、何らかの意図が垣間見える。

ＳＫ－Ｂ３０３　Ｄ６区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.2ｍ、短径約0.7ｍ、深さ約0.88ｍを測る。埋土は灰黒色粘土が主体をなし、中期弥生土器が出土している。

ＳＫ－Ｂ３０４　Ｄ６区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.1ｍ、短径約0.85ｍ、深さ約0.13ｍを測る。埋土は暗灰色粘質土で、中期弥生土器が出土している。

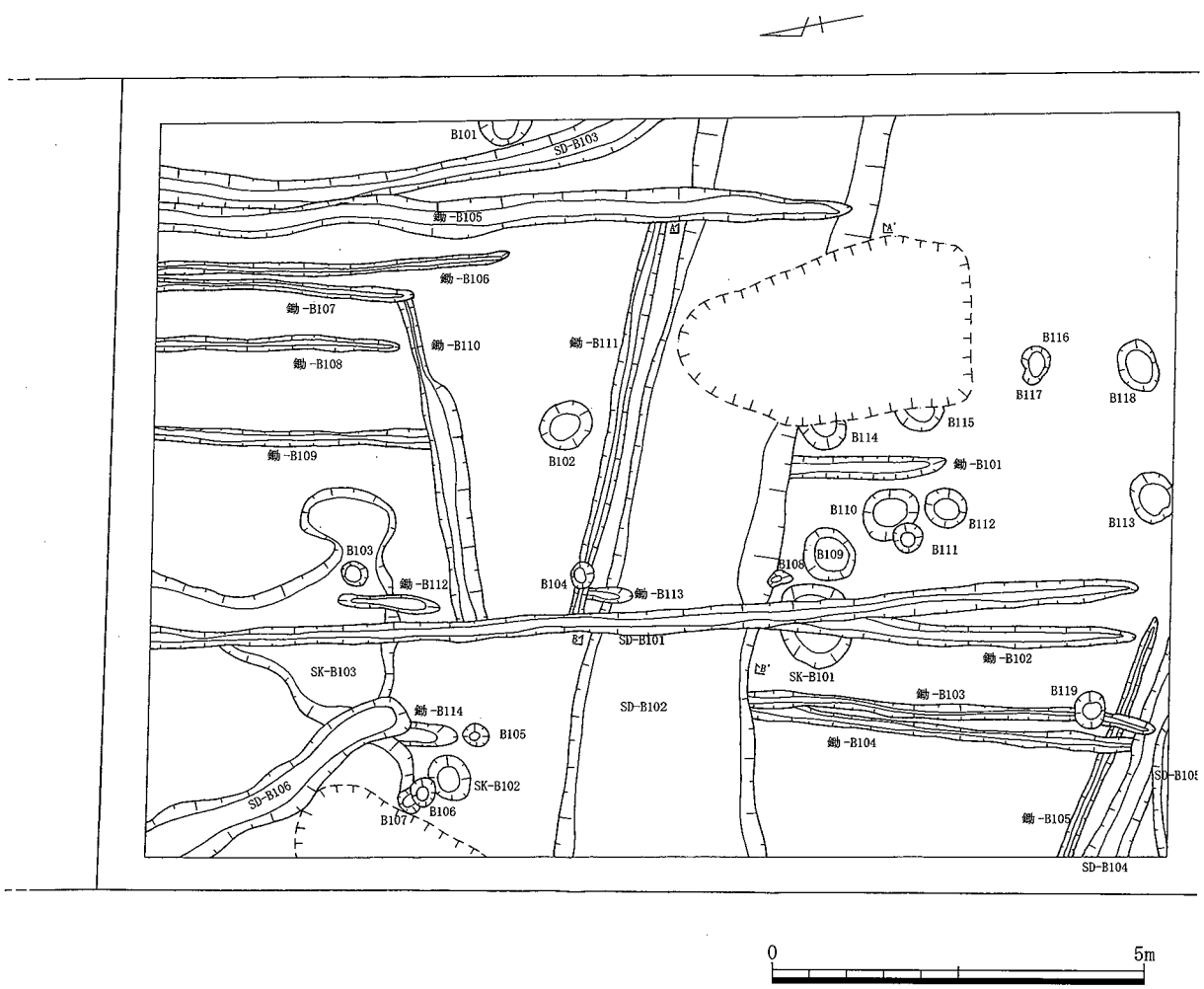
ＳＫ－Ｂ３０５　Ｄ６、Ｅ５～６区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.3ｍ、短径約0.55ｍ、深さ約0.54ｍを測る。埋土は暗灰黒色粘質土が主体をなし、中期弥生土器が出土している。

ＳＫ－Ｂ３０６　Ｃ７区で検出し、形態、規模は上部の遺構に切られているため不明である。埋土は暗茶褐色土で、遺物は出土していない。

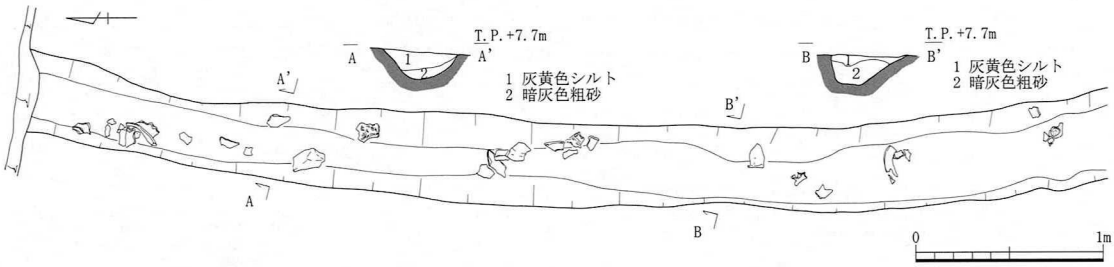
ＳＫ－Ｂ３０７　Ｄ７区で検出し、形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.0ｍ、短径約0.6ｍ、深さ約0.3ｍを測る。埋土は茶褐色土で、遺物は出土していない。

（3）ピット［ＳＰ］

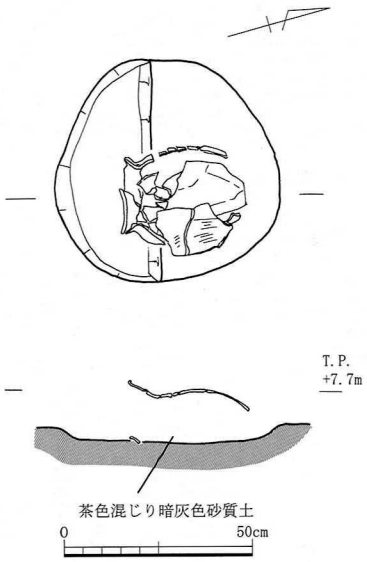
Ａ区で103基、Ｂ区では39基のピットを検出した。形態は円～楕円形を呈し、規模は第２遺構面のピットよりは小振りで径約0.2～0.3ｍ、深さ約0.1～0.2ｍである。埋土は黒灰色土～暗灰青色粘質土が主体をなし、土師器、須恵器、製塩土器が出土する程度で、Ｂ区では中期弥生土器の出土するピットが数基みられた。また、Ａ２５１、Ａ２５３、Ａ２５４、Ｂ３０４、Ｂ３１４で柱材が遺存していたが、第２遺構面同様に掘立柱建物の存在は確実であるが、具体的に復元することは困難であった。



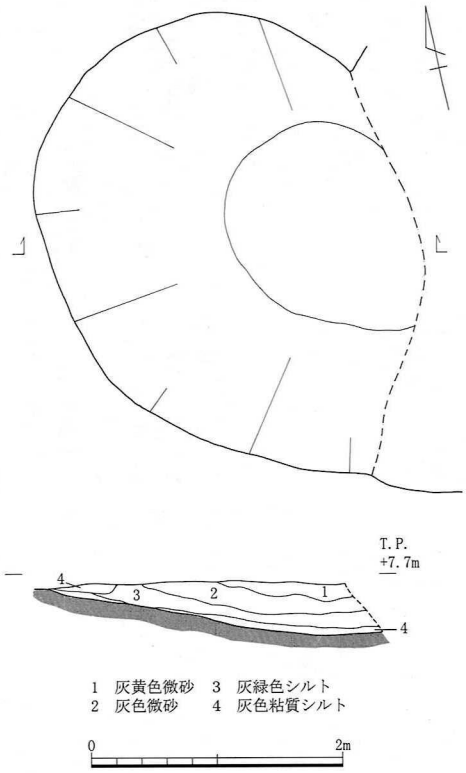
第７図　Ｂ区第１遺構面全体図（S=1/100）



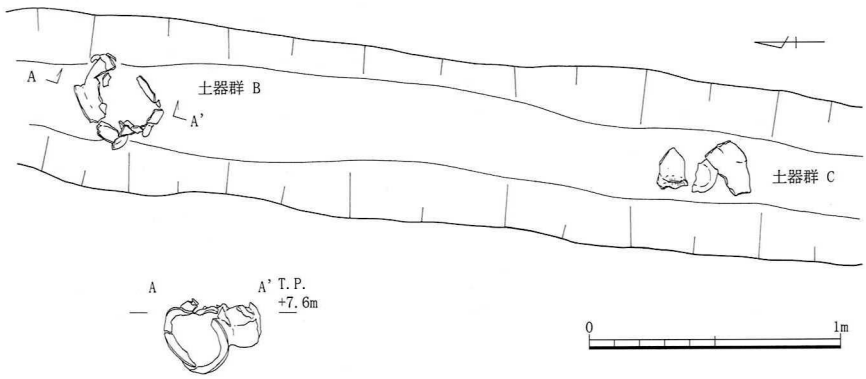
第８図　ＳＤ－Ｂ１０３遺物出土状況図（S=1/40）



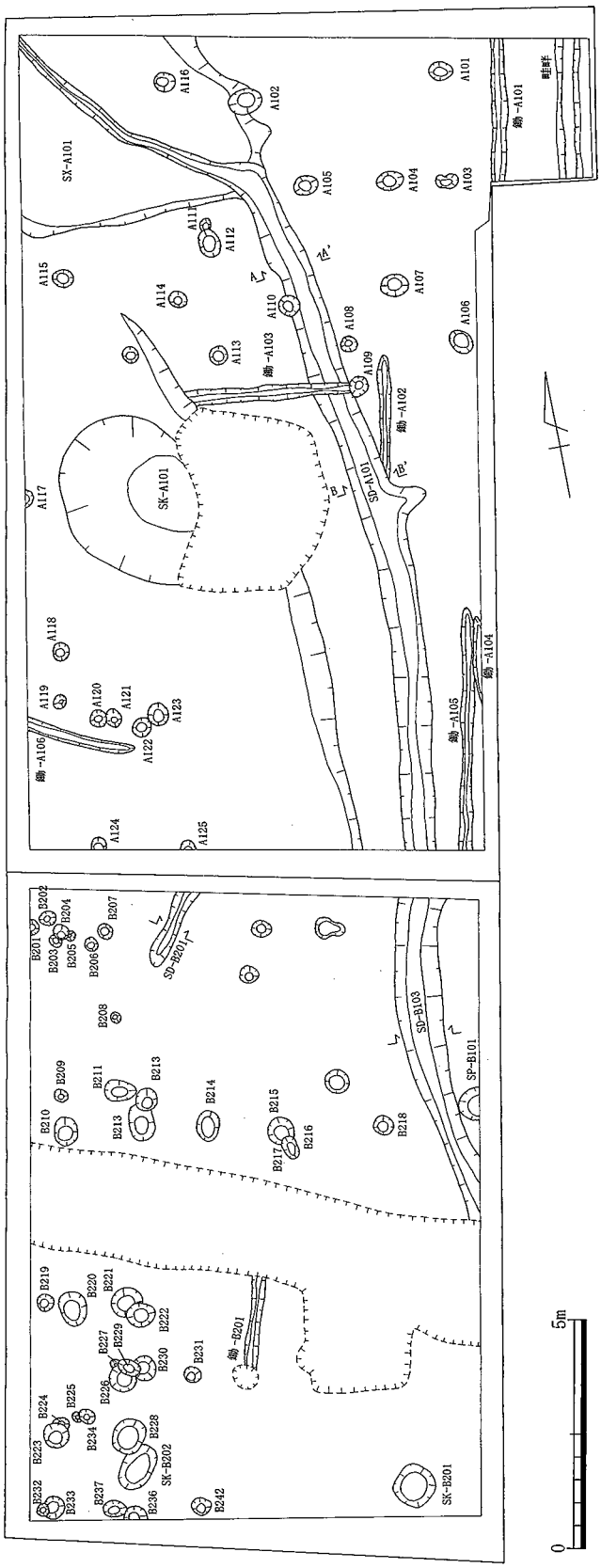
第９図　ＳＰ－Ｂ１１２
遺物出土状況図（S=1/20）

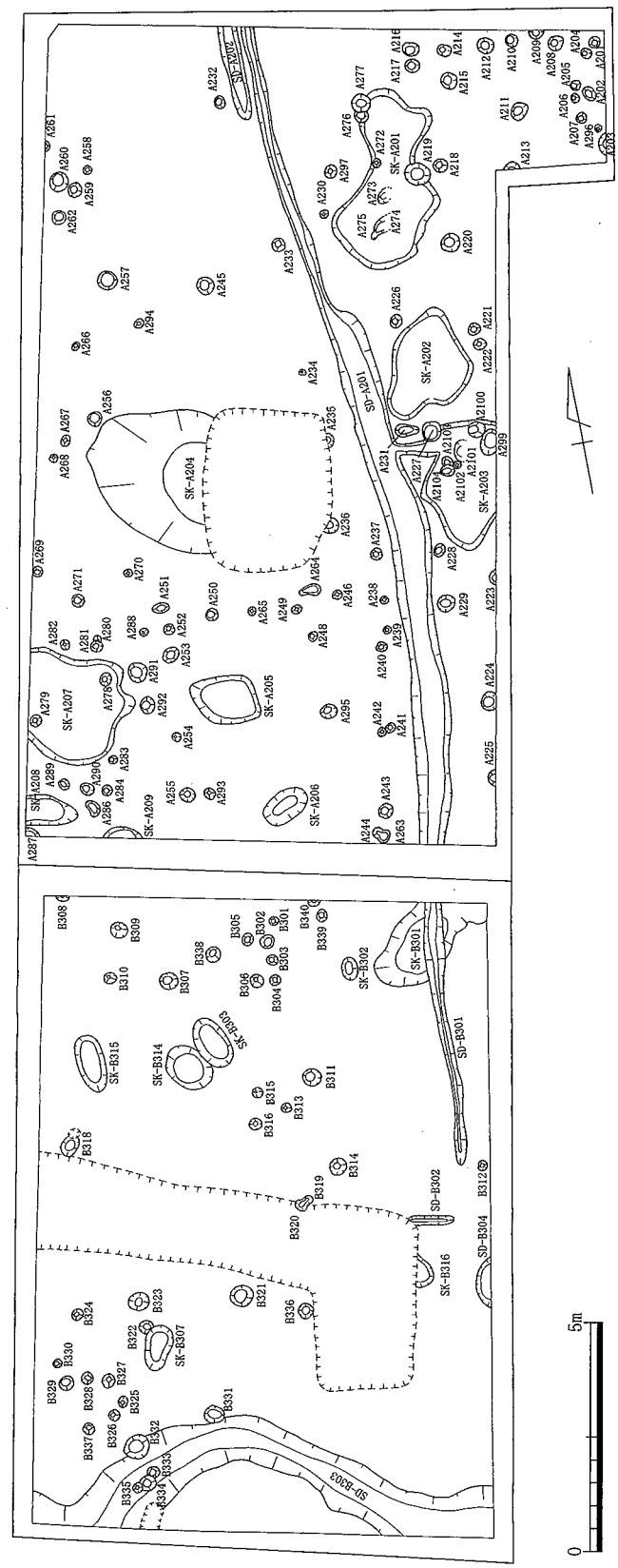


第 11 図　ＳＫ－Ａ１０１平・断面図（S=1/60）

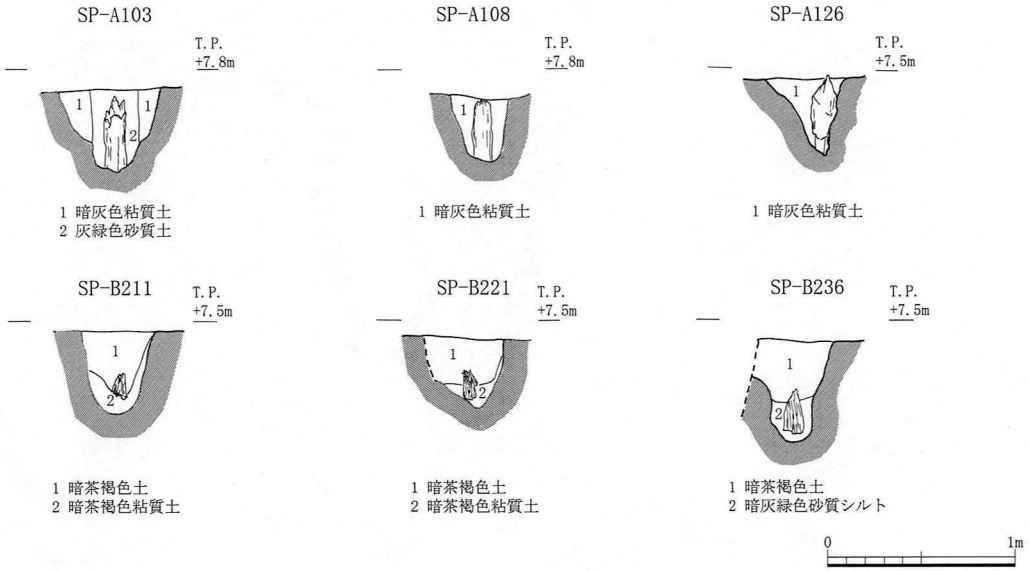


第 10 図　ＳＤ－Ａ１０１遺物出土状況図（S=1/30）

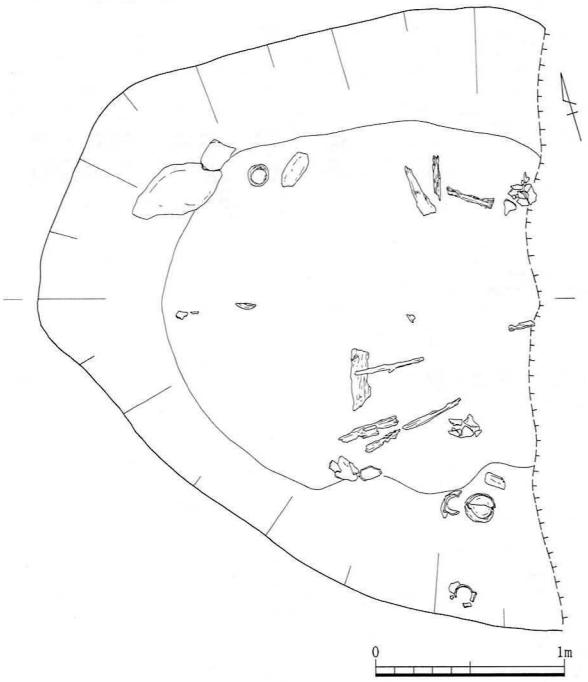




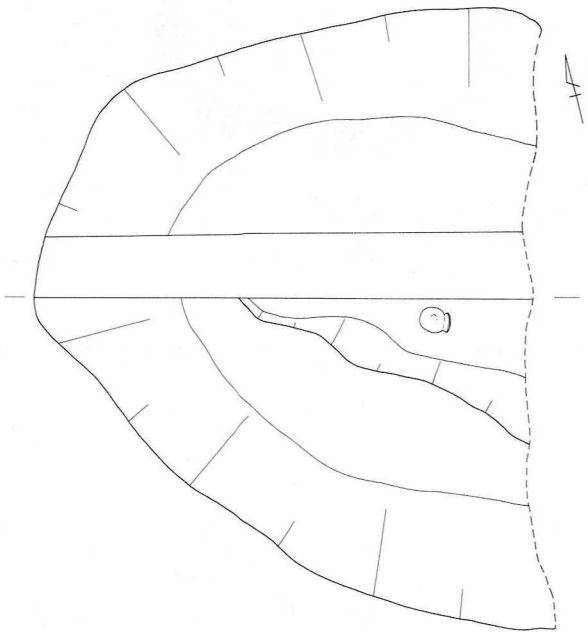
第12図　A区第1・B区第2遺構面全体図　　第13図　A区第2・B区第3遺構面全体図

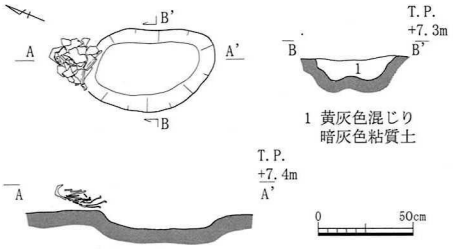


第14図　A区第1・B区第2遺構面柱材出土状況図（S=1/40）

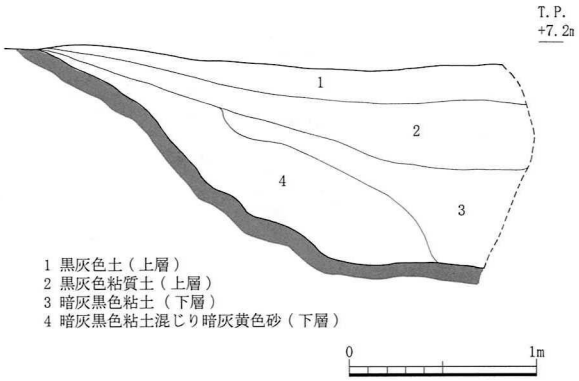


第15図　SK－A204上層
遺物出土状況図（S=1/40）

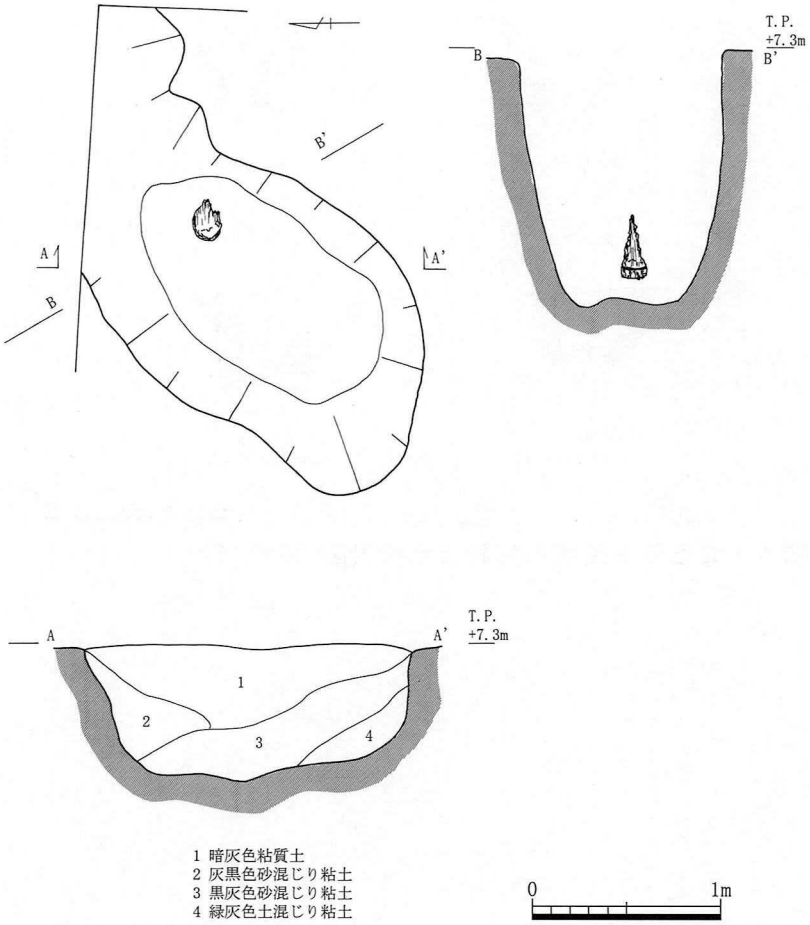




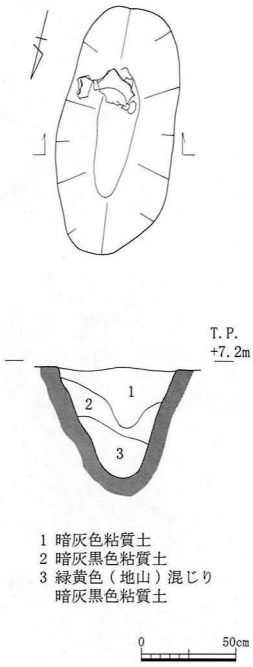
第17図　SK－B302
平・断・遺物出土状況図（S=1/40）



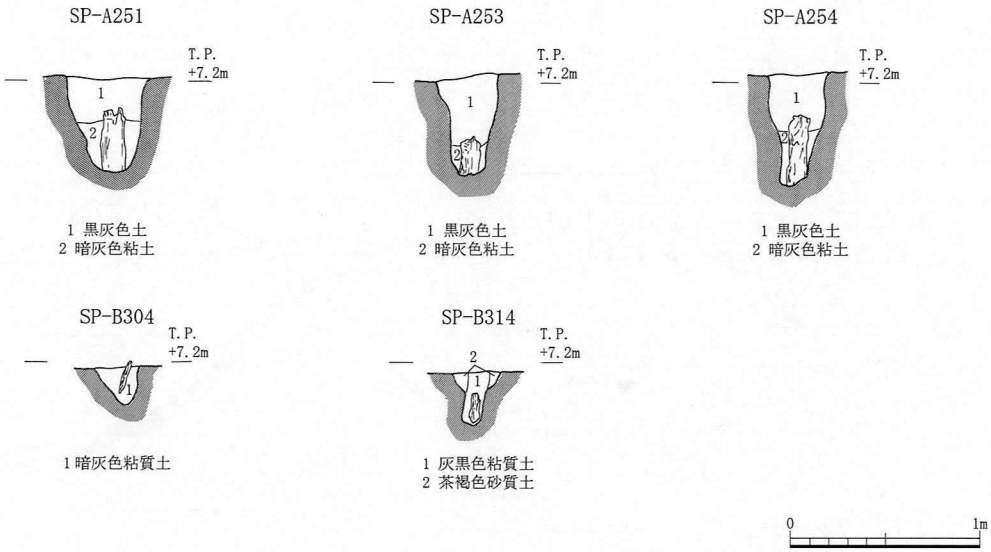
第16図　SK－A204下層
平・断・遺物出土状況図（S=1/40）



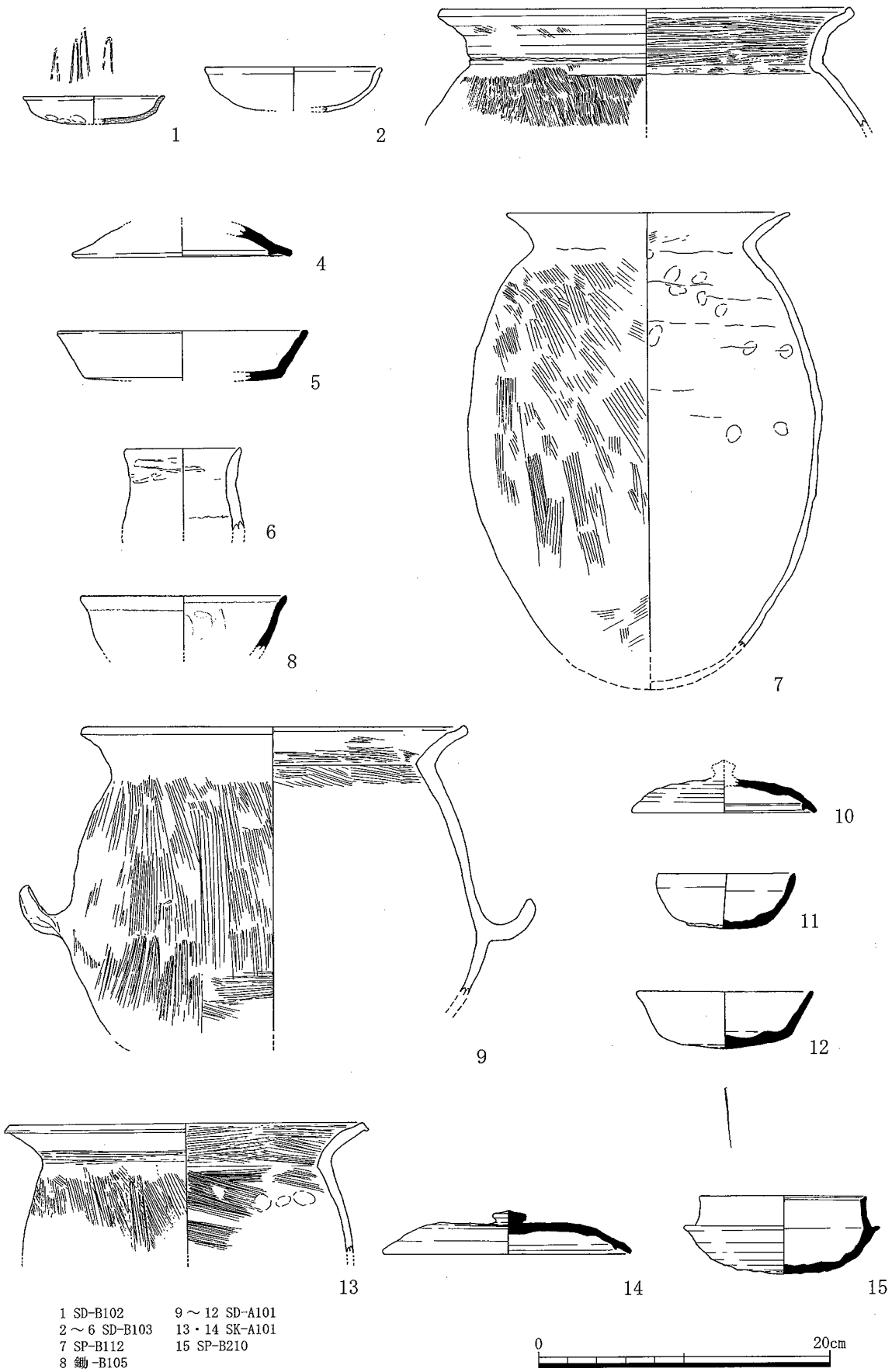
第18図　ＳＫ－Ｂ３０１平・断・遺物出土状況図（S=1/40）



第19図　ＳＫ－Ｂ３０５
平・断・遺物出土状況図
（S=1/40）

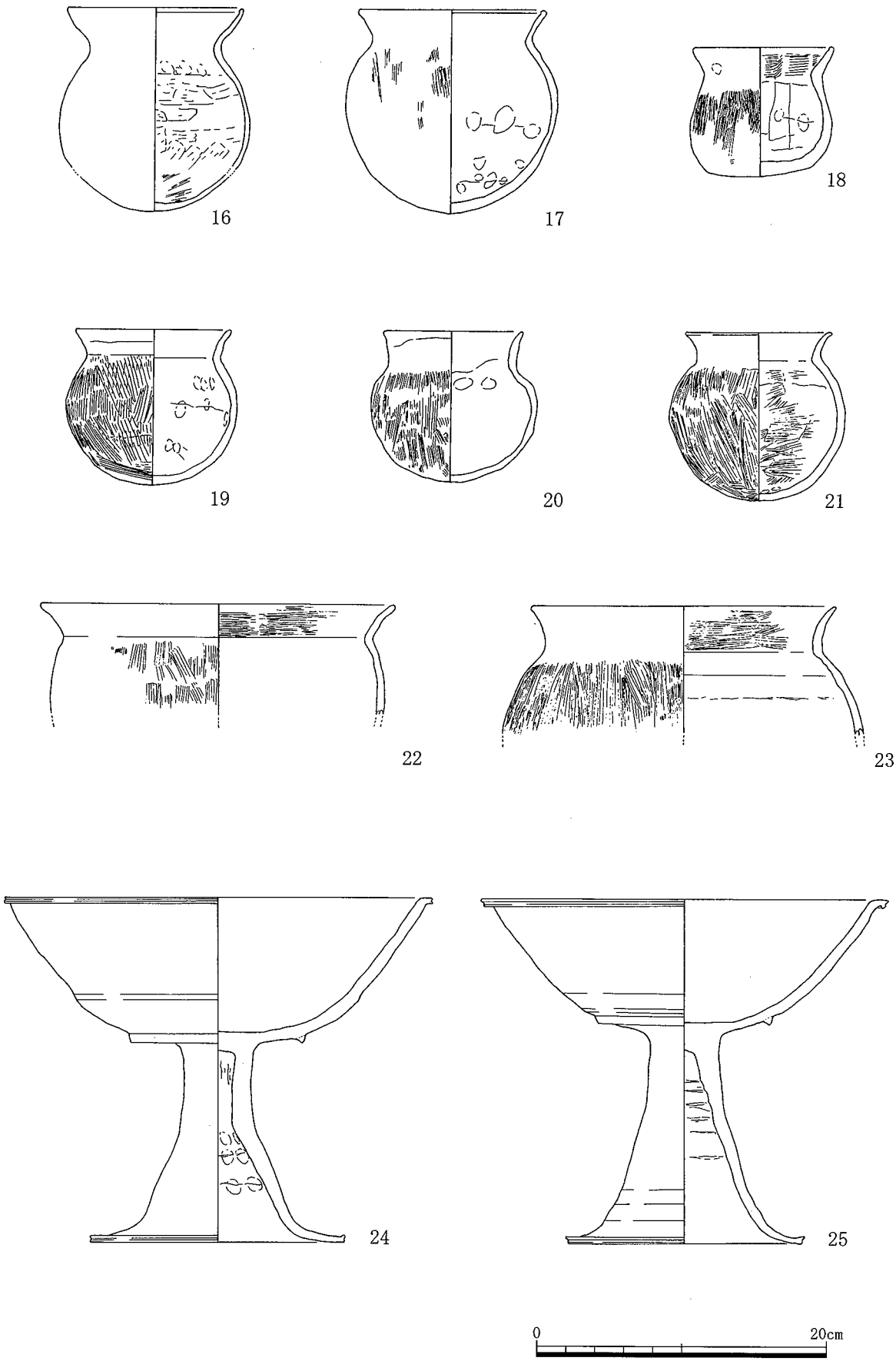


第20図　Ａ区第２・Ｂ区第３遺構面柱材出土状況図（S=1/40）

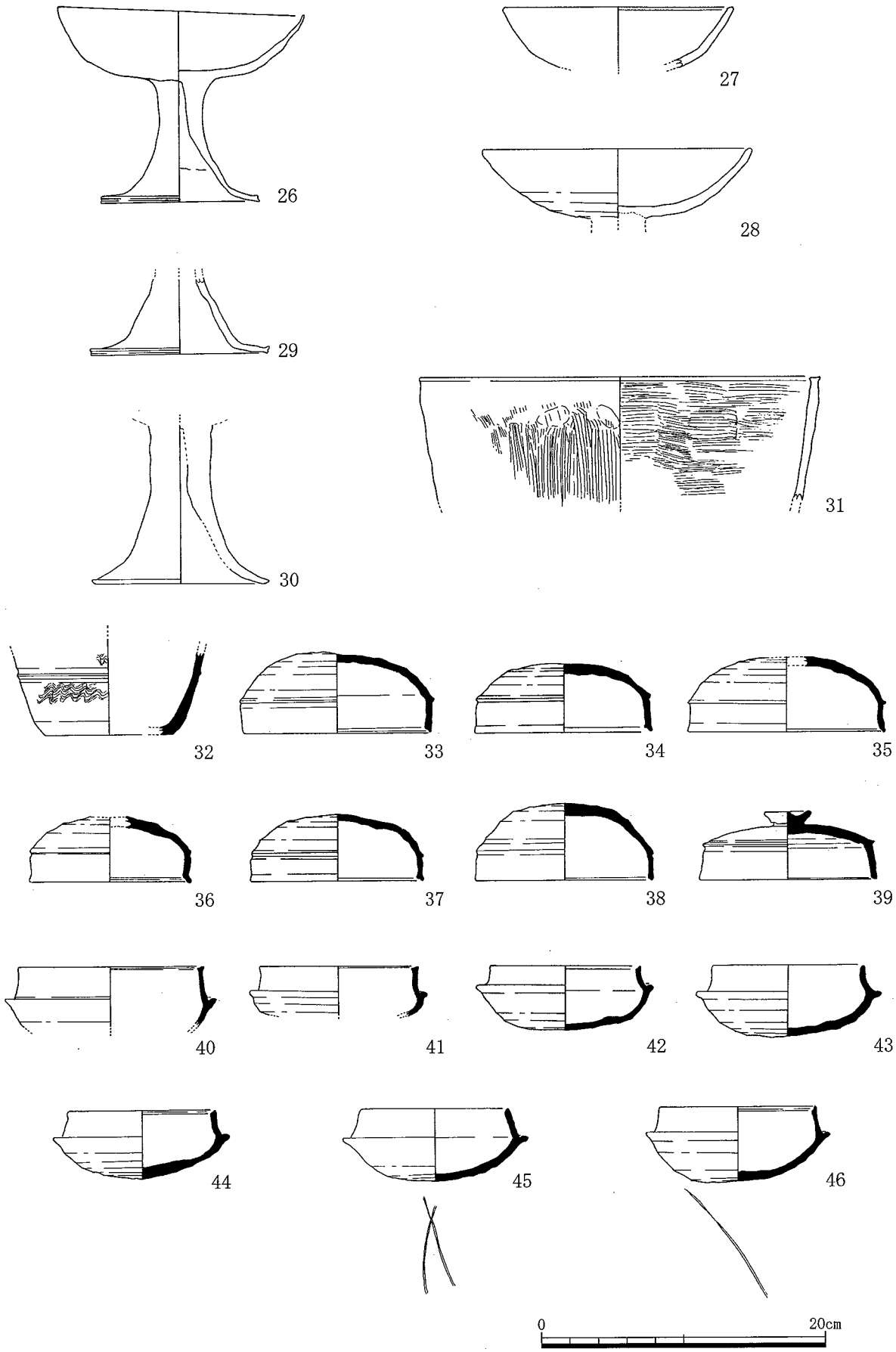


1 SD-B102
2～6 SD-B103
7 SP-B112
8 鋤-B105
9～12 SD-A101
13・14 SK-A101
15 SP-B210

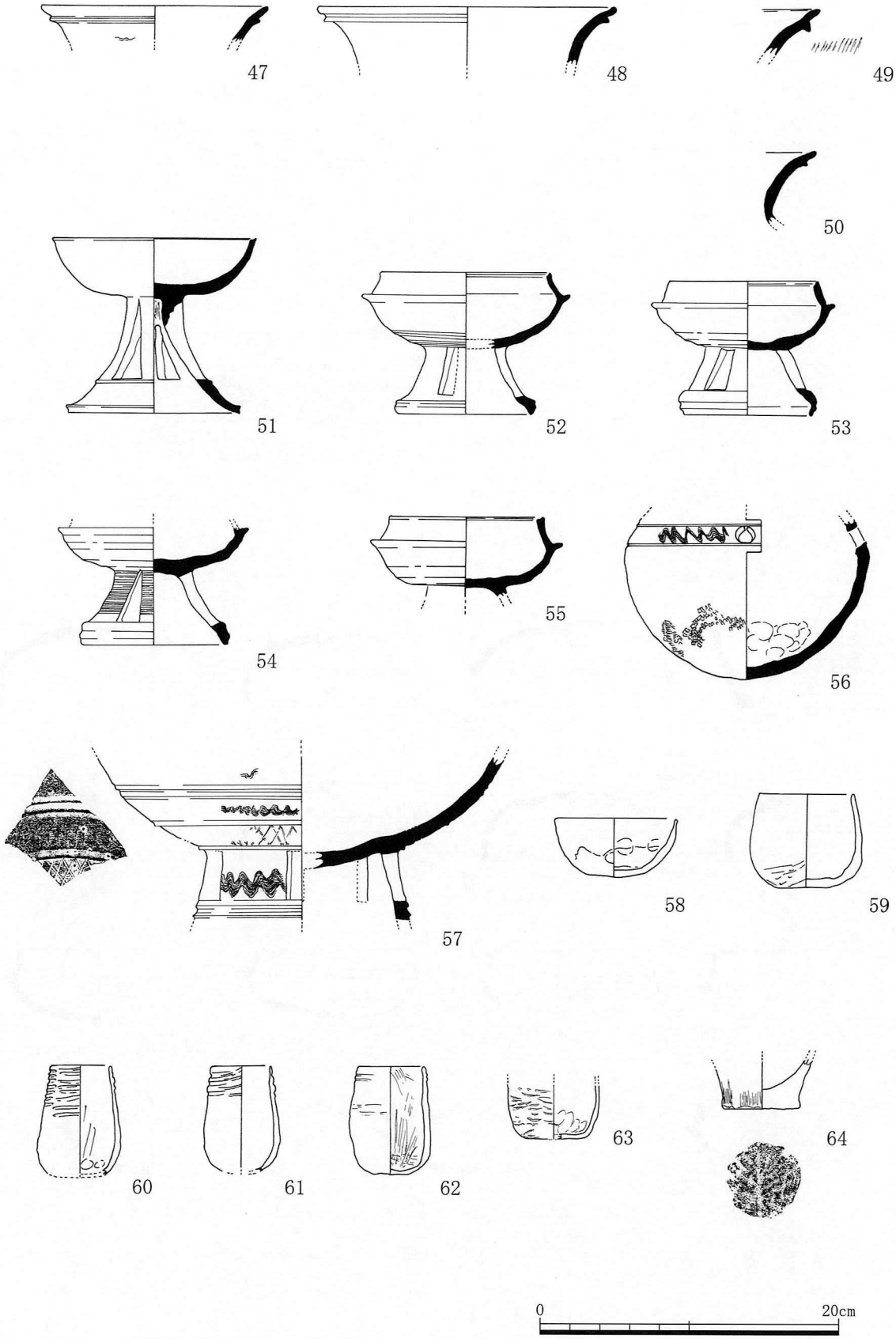
第21図　B区第1・A区第1・B区第2遺構面出土遺物実測図（S=1/4）



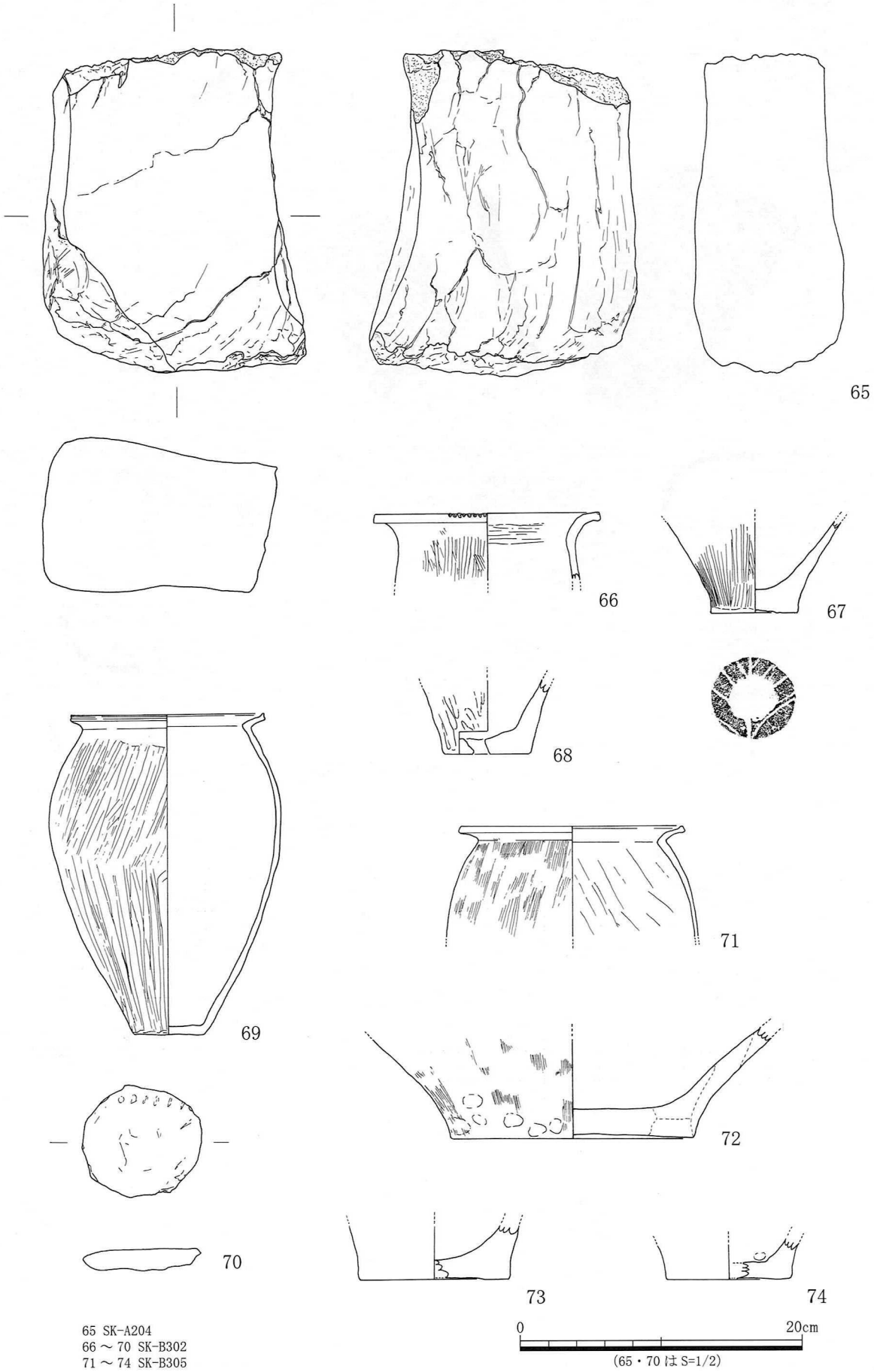
第22図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（１）（S=1/4）



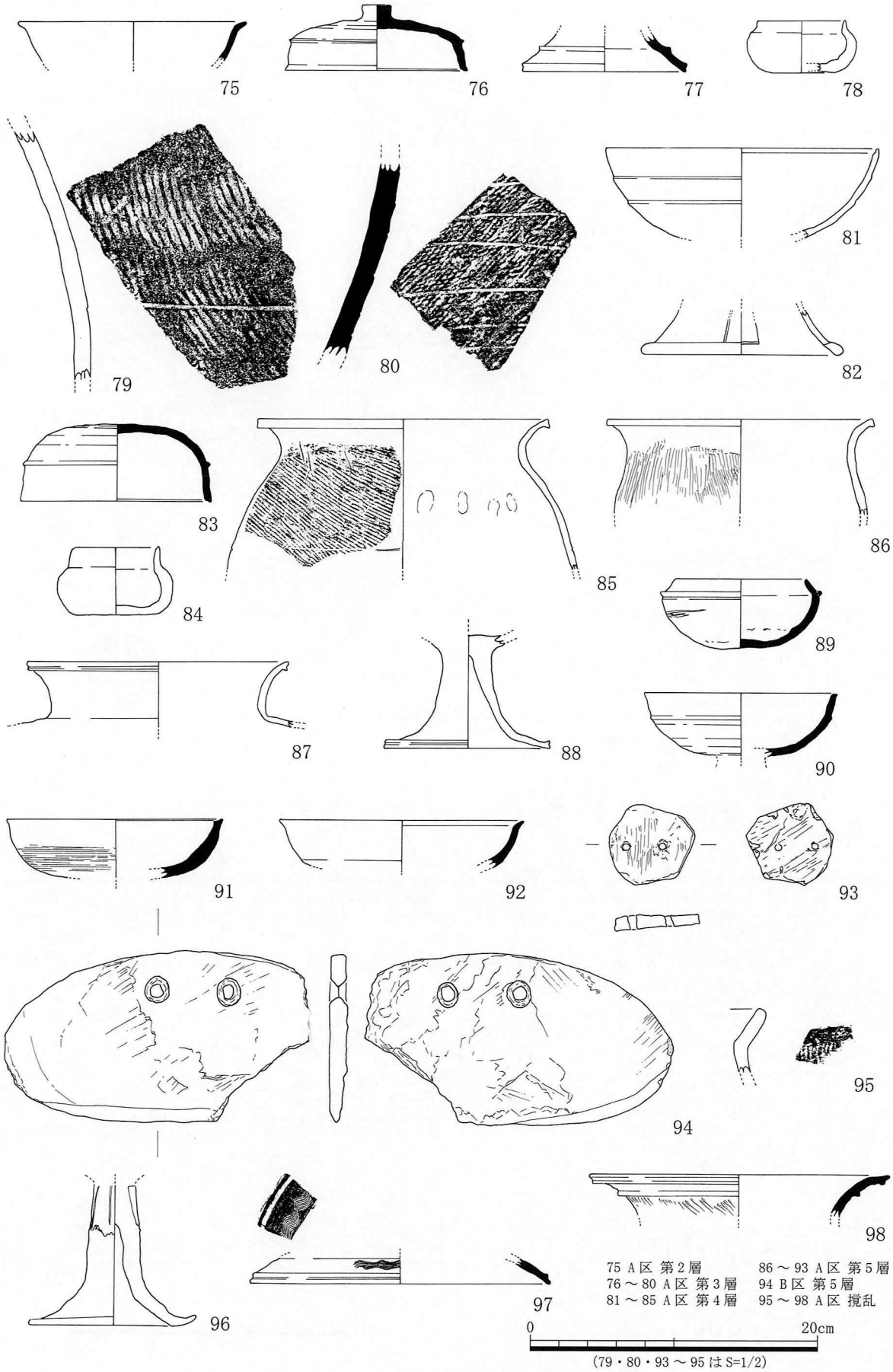
第23図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（２）（S=1/4）



第24図　ＳＫ－Ａ２０４出土遺物実測図（３）（S=1/4）



第 25 図　A 区第 2 ・ B 区第 3 遺構面出土遺物実測図（S=1/4）



第26図　包含層出土遺物実測図（S=1/4）

第４章　ＨＪＮ９６－１調査

第１節　調査成果

１．基本層序

今回の調査地は前回の調査地から北東に約60ｍに位置し、同様に東から西にかけて傾斜する緩扇状地に立地している。層序においてもほぼ同じ様相を示しており、中世以降の堆積土は耕作地であったため平坦であったが、それより下層の堆積状況においては地形を反映し、西方に向けて傾斜していく堆積状況を明確に示していた。基本的な層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　現代の耕作土および床土である。層厚0.2～0.3ｍを測る。現地調査ではこの層までを機械掘削の対象とした。標高はT.P. ＋9.3前後を測る。

第Ⅱ層　概ね中世以降に相当する包含層で、淡灰褐色砂質土～淡灰褐色土が主体をなす。層厚0.1～0.2ｍを測る。ほぼ全域にみられ、部分的に２層に細分される。

第Ⅲ層　第１遺構面のベースになる層で、暗茶褐色土～黒褐色粘質土が主体をなす。層厚は0.1～0.3ｍを測る。

第Ⅳ層　いわゆる考古学でいうところの地山に相当する層で、第２遺構面のベースになる層である。灰色土礫混黄灰色粘質土が主体をなす。層厚は確認できなかった。

第２節　遺構と遺物

今回の調査は掘削土の仮置き場の関係のため、調査区を南側（Ａ区）と北側（Ｂ区）に分割して調査を実施したが、調査区全体として２面の遺構面を確認しそれぞれ遺構、遺物を検出している。

以下、その概要について述べる。

１．第１遺構面

（１）溝［ＳＤ］

ＳＤ－Ａ１０１　Ａ４～Ｂ４区で検出し、幅約1.25ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土はにぶい灰褐色土で、土師器、須恵器、瓦器、製塩土器、サヌカイト片などが出土している。

ＳＤ－Ａ１０２　Ｂ６～Ｃ６区で検出し、幅約0.85ｍ、深さ約0.14ｍを測る。埋土はにぶい灰褐色土で、弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ａ１０３　Ｂ７～Ｃ７区で検出し、幅約0.7ｍ、深さ約0.11ｍを測る。埋土はにぶい灰褐色土で、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ａ１０４　Ｂ４～７区で検出し、幅約0.45ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗灰褐色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ａ１０５　Ａ６～７区で検出し、幅約0.55ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は褐色混灰色土で、土師器、須恵器、韓式系土器などが出土している。

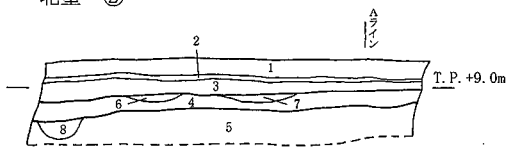
ＳＤ－Ｂ１０１　Ｂ４区で検出し、幅約0.6ｍ、深さ約0.18ｍを測る。埋土は灰褐色系の砂質土が主体をなし、土師器、須恵器、須恵器系土師器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０２　Ａ４～Ｂ４区で検出し、幅約0.5ｍ、深さ約0.18ｍを測る。埋土は灰褐色砂質土、灰黒色土で、土師器、須恵器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０３　Ａ３～４区で検出し、幅約0.85ｍ、深さ約0.06ｍを測る。埋土は暗灰褐色砂質土で、土師器、須恵器などが出土している。

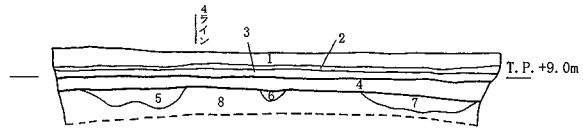
ＳＤ－Ｂ１０４　Ａ３～Ｂ３区で検出し、幅約0.7ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は灰褐色砂質土、

北壁- ②



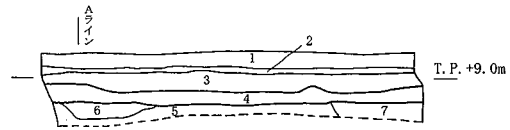
1 現耕土
2 床土　(明褐色砂質土 しまっている)
3 灰色～灰褐色砂質土
4 黒褐色粘質土
5 灰色土混じり淡黄褐色粘質土（砂礫も含む）
6 灰褐色砂質土（遺構）
7 灰褐色砂質土（SD-B103）
8 黒褐色粘質土(礫混じり)(遺構)

東壁- ②



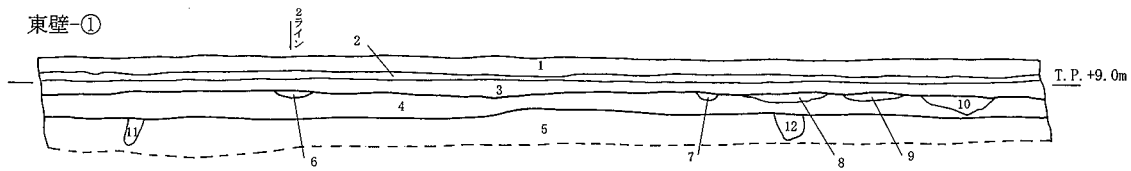
1 現耕土
2 床土（明褐色砂質土 しまっている）
3 灰～灰褐色砂質土
4 黒褐色粘質土
5 黒灰色粘質土（遺構）
6 黒灰色粘質土（遺構）
7 黒灰色粘質土（遺構）
8 灰色土混黄灰色粘質土　(礫混じり)

南壁



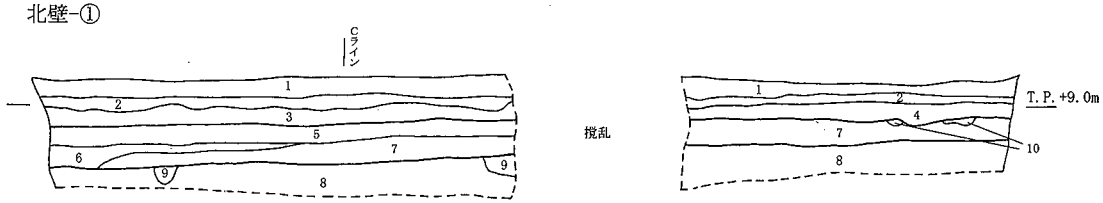
1 現耕土
2 床土（明褐色砂質土 しまっている）
3 灰～灰褐色砂質土
4 黒褐色粘質土
5 灰色土混暗黄灰色土（礫混じり）（地山）
6 黒色粘質土（遺構）
7 黒褐色粘質土（SK-B203）

東壁-①



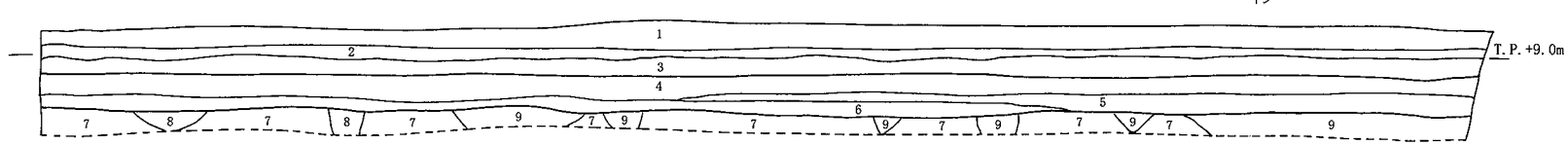
1 現耕土
2 床土（明褐色砂質土 しまっている）
3 灰～灰褐色砂質土
4 黒褐色粘質土
5 灰色土混暗黄灰色土（礫混じり）
6 灰褐色粘質土
7 灰褐色粘質土
8 灰褐色粘質土
9 灰褐色粘質土
10 灰褐色粘質土
11 灰褐色土（遺構）
12 淡茶褐色粘質土（遺構）

北壁-①



1 現耕土
2 床土
(明褐色砂質土 マンガンを多く含んでいる)
3 暗灰褐色砂質土
4 灰色～灰褐色砂質土
5 灰褐色砂質土（SX-B101）
6 灰色砂質土（SX-B101）
7 黒褐色粘質土
8 灰色土混じり暗灰色粘質土
(礫混じり)　(地山)
9 黒色粘質土　(遺構)
10 灰色砂質土　(鋤溝)

西壁



1 現耕土
2 床土（明褐色砂質土 かたくしまっている）
3 淡灰褐色砂質土
4 灰褐色砂質土（SX-B101）
5 灰色砂質土（赤みがかる）(SX-B101)
6 黒褐色粘質土
7 灰色土混黄灰色粘質土（地山）
8 黒色粘質土（遺構）
9 黒灰色粘質土（遺構）

0　4m

第 27 図　B区土層断面図（S=1/80）

黒色土混暗灰色砂質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０５　Ａ３～Ｂ３区で検出し、幅約1.75ｍ、深さ約0.16ｍを測る。埋土は灰褐色砂質土で、土師器、須恵器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ１０６　Ａ１～Ｂ１区で検出し、幅約0.6ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は灰色混暗茶褐色砂質土で、土師器、須恵器、陶磁器などが出土している。

（2）土坑［ＳＫ］

ＳＫ－Ａ１０１　Ｄ７区で検出し、不定形で最大長約2.5ｍ、最大幅約0.7ｍ、深さ約0.13ｍを測る。埋土はにぶい灰褐色土で、土師器、初期須恵器、須恵器、磁器などが出土している。

ＳＫ－Ａ１０２　Ａ４区で検出し、楕円形で長径約0.95ｍ、短径約0.4ｍ、深さ約0.05ｍを測る。埋土は暗灰黒色土混暗灰褐色土で、土師器、初期須恵器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ１０３　Ａ５区で検出し、不定形で規模は最大長約0.85ｍ、最大幅約0.3ｍ、深さ約0.05ｍを測る。埋土は暗灰色砂質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ１０４　Ｂ７区で検出し、不定形で規模は最大長約2.25ｍ、最大幅約1.65ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗灰褐色土で、土師器、須恵器、瓦器などが出土している。

（3）ピット［ＳＰ］

Ａ区で２基のピットを検出した。形態は円～楕円形を呈し、規模は径約0.2～0.4ｍ、深さ約0.06～0.13ｍである。埋土は灰色系の砂質土が主体をなし、土師器、須恵器などが出土している。

（4）鋤溝［Ｓ］

Ａ、Ｂ区合わせて34条の鋤溝を検出した。ほぼ東西南北に走るもので、幅約0.15～0.5ｍ、深さ約0.03～0.1ｍを測る。埋土は灰褐色系の砂質土が主体をなし、土師器、初期須恵器、須恵器、須恵器系土師器、瓦器などが出土している。

（5）不明遺構［ＳＸ］

ＳＸ－Ａ１０１　Ｂ７、Ｃ４～７区で検出し、不定形で規模は最大長約15.0ｍ、最大幅約8.8ｍ、深さ約0.22ｍを測る。埋土は淡灰褐色～緑灰色砂質土で、弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、瓦、サヌカイト片、北宋銭（元祐通宝）などが出土している。

ＳＸ－Ｂ１０１　ＳＸ－Ａ１０１と連なるものである。Ｂ１～４、Ｃ１～４区で検出し、不定形で規模は最大長約15.3ｍ、最大幅約4.5ｍ、深さ約0.3ｍを測る。埋土は灰褐色系の砂質土で、弥生土器、土師器、須恵器、須恵器系土師器、韓式系土器、瓦器、瓦質土器、白磁、陶磁器、瓦、サヌカイト片などが出土している。

２．第２遺構面

（1）溝［ＳＤ］

ＳＤ－Ａ２０１　Ａ～Ｃ７区で検出し、幅約1.5ｍ、深さ約0.14ｍを測る。埋土は暗灰緑色微砂混暗赤褐色粗砂で、遺物は出土していないが、根石と考えられるものが出土している。

ＳＤ－Ａ２０２　Ｂ７～Ｃ７区で検出し、幅約0.75ｍ、深さ約0.28ｍを測る。埋土は暗灰褐色粘質土、暗灰色砂礫混粘質土で、弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ａ２０３　Ａ～Ｃ６区で検出し、幅約0.65ｍ、深さ約0.12ｍを測る。埋土は暗茶褐色土で、弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ａ２０４　Ｂ６区で検出し、幅約0.25ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗茶褐色土で、弥生土

器が出土している。

ＳＤ－Ａ２０５　Ｃ５区で検出し、幅約0.15ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ａ２０６　Ｃ５区で検出し、幅約0.2ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は黒灰色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＤ－Ａ２０７　Ｃ４～５区で検出し、幅約0.5ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は黄灰色粘質土混暗灰褐色粘質土で、土師器などが出土している。

ＳＤ－Ａ２０８　Ａ４～５、Ｂ５～６区で検出し、幅約0.2ｍ、深さ約0.09ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、製塩土器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０１　Ａ４～Ｂ４区で検出し、幅約0.18ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器、製塩土器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０２　Ｂ４区で検出し、幅約0.2ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、遺物は出土していない。

ＳＤ－Ｂ２０３　Ａ４、Ｂ３～４、Ｃ３区で検出し、幅約0.25ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器、初期須恵器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０４　Ａ３～４、Ｂ３、Ｃ３区で検出し、幅約0.2ｍ、深さ約0.12ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０５　Ｂ３～４、Ｃ３区で検出し、幅約0.25ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ｂ２０６　Ｂ４～Ｃ４区で検出し、幅約0.25ｍ、深さ約0.06ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器が出土している。

ＳＤ－Ｂ２０７　Ｃ４区で検出し、幅約0.2ｍ、深さ約0.06ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、遺物は出土していない。

ＳＤ－Ｂ２０８　Ｃ４区で検出し、幅約0.33ｍ、深さ約0.12ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－Ｂ２０９　Ｃ４区で検出し、幅約0.15ｍ、深さ約0.05ｍを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器が出土している。

（２）土坑［ＳＫ］

ＳＫ－Ａ２０１　Ｂ７区で検出し、楕円形で長径約0.8ｍ、短径約0.38ｍ、深さ約0.16ｍを測る。埋土は暗茶褐色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２０２　Ｂ６～７区で検出し、楕円形で長径約1.55ｍ、短径約0.55ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗黄色混暗灰黒色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０３　Ｃ６区で検出し、楕円形で長径約1.05ｍ、短径約0.5ｍ、深さ約0.25ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土、暗灰色砂混粘質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２０４　Ｃ６区で検出し、不定形で規模は最大長約1.4ｍ、最大幅約0.85ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は黒褐色砂礫混粘質土で、弥生土器、土師器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２０５　Ｃ６区で検出し、円形で径約0.45ｍ、深さ約0.28ｍを測る。埋土は灰黄色砂質土混暗茶褐色粘質土、黒褐色粘質土で、弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２０６　Ｃ６区で検出し、楕円形で長径約0.8ｍ、短径約0.5ｍ、深さ約0.21ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２０７　Ｃ６区で検出し、不定形で規模は最大長約1.25ｍ、最大幅約0.95ｍ、深さ約0.34ｍを測る。埋土は黒褐色砂礫混粘質土で、弥生土器、土師器、製塩土器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２０８　Ｂ６、Ｃ５～６区で検出し、楕円形で規模は長径約1.9ｍ、短径約1.3ｍ、深さ約0.22ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器、製塩土器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２０９　Ｂ６～Ｃ６区で検出し、不定形で規模は最大長約1.3ｍ、最大幅約0.55ｍ、深さ約0.06ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１０　Ｂ６～Ｃ６区で検出し、楕円形で規模は長径約0.6ｍ、短径約0.3ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１１　Ｂ６区で検出し、やや楕円形で規模は長径約0.6ｍ、短径約0.5ｍ、深さ約0.16ｍを測る。埋土は黒灰色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１２　Ｂ６区で検出し、やや楕円形で規模は長径約0.8ｍ、短径約0.35ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は黒灰色粘質土で、土師器、須恵器、製塩土器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１３　Ｂ６区で検出し、円形で規模は径約0.65ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は黒褐色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１４　Ｂ５～６区で検出し、不定形で規模は最大長約5.7ｍ、最大幅約2.85ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は黄褐色土混暗茶褐色土で、土師器、初期須恵器、須恵器、韓式系土器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１５　Ｂ６区で検出し、不定形で規模は最大長約0.8ｍ、最大幅約0.65ｍ、深さ約0.1ｍを測る。埋土は黄灰色土混暗灰褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２１６　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約1.05ｍ、短径約0.4ｍ、深さ約0.22ｍを測る。埋土は暗灰褐色土で、土師器、初期須恵器、須恵器、土玉などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１７　Ｂ５区で検出し、不定形で規模は最大長約1.0ｍ、最大幅約0.65ｍ、深さ約0.13ｍを測る。埋土は黄色粗砂混黒褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２１８　Ｂ５～６区で検出し、不定形で規模は最大長約0.9ｍ、最大幅約0.65ｍ、深さ約0.36ｍを測る。埋土は暗茶褐色土、暗灰褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２１９　Ｃ５区で検出し、やや楕円形で規模は長径約1.0ｍ、短径約0.9ｍ、深さ約0.29ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２２０　Ｃ５区で検出し、楕円形で規模は長径約0.6ｍ、短径約0.25ｍ、深さ約0.13ｍを測る。埋土は暗茶褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２２１　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約0.53ｍ、短径約0.4ｍ、深さ約0.36ｍを測る。埋土は暗茶褐色粘質土、暗灰色砂混粘土で、土師器、初期須恵器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２２２　Ｃ４区で検出したが撹乱に切られている。形態は不定形で規模は最大長約1.1ｍ、最大幅約0.15ｍ、深さ約0.09ｍを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２２３　Ｃ４区で検出し、楕円形で規模は長径約0.7ｍ、短径約0.4ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は暗茶褐色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２２４　Ｃ５区で検出し、楕円形で規模は長径約0.3ｍ、短径約0.15ｍ、深さ約0.05ｍを測る。

埋土は黒褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２２６　Ｃ４区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.65 m、短径約 0.25 m、深さ約 0.08 mを測る。埋土は茶褐色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２２７　Ｂ４区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.65 m、短径約 0.55 m、深さ約 0.14 mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２２８　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.6 m、短径約 0.4 m、深さ約 0.1 mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２２９　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.55 m、短径約 0.23 m、深さ約 0.03 mを測る。埋土は暗灰色砂質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ａ２３０　Ｂ４～５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.65 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.06 mを測る。埋土は暗灰褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２３１　Ｂ４区で検出し、楕円形で規模は長径約 1.2 m、短径約 0.4 m、深さ約 0.05 mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、須恵器が出土している。

ＳＫ－Ａ２３２　Ａ４～Ｂ４区で検出し、不定形で規模は最大長約 0.8 m、最大幅約 0.5 m、深さ約 0.08 mを測る。埋土は暗茶褐色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２３３　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.75 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.3 mを測る。埋土は暗茶褐色粘質土、暗灰緑色粘質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２３４　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.8 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.15 mを測る。埋土は暗灰褐色礫混粘質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ａ２３５　Ｂ５区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.9 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.08 mを測る。埋土は暗茶褐色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ａ２３６　Ｂ５区で検出し、ほぼ円形で規模は径約 0.5 m、深さ約 0.2 mを測る。埋土は暗灰褐色粘質土、黒灰色砂混粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０１　Ａ３区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約 1.0 m、最大幅約 0.55 m、深さ約 0.31 mを測る。埋土は暗茶褐色土、黒灰色礫混土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０２　Ａ３区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約 1.0 m、最大幅約 0.55 m、深さ約 0.31 mを測る。埋土は暗茶褐色土、黒灰色礫混土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２０３　Ａ４区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約 2.05 m、最大幅約 1.75 m、深さ約 0.42 mを測る。埋土は黒褐色土、黄褐色土混暗灰色粘質土、暗灰黒色粘土で、弥生土器、土師器、須恵器、韓式系土器、紡錘車などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０４　Ａ４～Ｂ４区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約 2.45 m、最大幅約 0.53 m、深さ約 0.16 mを測る。埋土はにぶい灰褐色土で、弥生土器、土師器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０５　Ｂ４区で検出し、隅丸方形で規模は長径約 2.2 m、短径約 0.7 m、深さ約 0.08 mを測る。埋土は暗灰色土で、土師器、須恵器、製塩土器のほか、土師器高杯の杯身２個体分が並列するように出土おり、特異な状況を示している。

ＳＫ－Ｂ２０６　Ｂ４区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約 0.75

m、最大幅約0.28 m、深さ約0.12 mを測る。埋土は暗灰黒色粘質土で、弥生土器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２０７　Ｂ４区で検出し、隅丸方形で規模は長径約1.15 m、短径約0.55 m、深さ約0.1 mを測る。埋土は暗灰色粘質土で、土師器、須恵器、須恵器系土師器、韓式系土器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２０８　Ｂ４区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約0.85 m、最大幅約0.45 m、深さ約0.12 mを測る。埋土は暗灰褐色粘質土で、土師器、須恵器など出土している。

ＳＫ－Ｂ２０９　Ｂ３～４区で検出し、楕円形で規模は長径約1.33 m、短径約0.75 m、深さ約0.14 mを測る。埋土は暗灰色礫混土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２１０　Ｃ４区で検出し、不定形で規模は最大長約0.7 m、最大幅約0.25 m、深さ約0.28 mを測る。埋土は黄褐色土混暗灰黒色粘質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２１１　Ｃ４区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約0.95 m、最大幅約0.8 m、深さ約0.14 mを測る。埋土は暗褐灰色土で、弥生土器、土師器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２１２　Ｃ４区で検出し、楕円形で規模は長径約1.0 m、短径約0.65 m、深さ約0.24 mを測る。埋土は暗黄褐色混暗褐灰色土、暗灰黒色粘質土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２１３　Ｃ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.65 m、短径約0.4 m、深さ約0.22 mを測る。埋土は暗褐灰色で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２１４　Ｂ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.75 m、短径約0.35 m、深さ約0.18 mを測る。埋土は暗灰褐色土、黒灰色粘質土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ｂ２１５　Ｂ３区で検出し、不定形で規模は最大長約1.5 m、最大幅約0.75 m、深さ約0.4 mを測る。埋土は暗灰褐色土、黄褐色土混灰色土、灰黒色粘質土で、弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２１６　Ｂ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.75 m、短径約0.55 m、深さ約0.18 mを測る。埋土は暗茶褐色粘質土で、須恵器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２１７　Ｂ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.6 m、短径約0.35 m、深さ約0.1 mを測る。埋土は暗灰色土で、遺物は出土していない。

ＳＫ－Ｂ２１８　Ｂ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.75 m、短径約0.55 m、深さ約0.3 mを測る。埋土は黒褐色土、黒灰色粘質土で、土師器、須恵器、製塩土器が出土している。ＳＢ－Ｂ１０１を構成していた可能性も考えられる。

ＳＫ－Ｂ２１９　Ｂ３区で検出し、不定形で規模は最大長約0.6 m、最大幅約0.55 m、深さ約0.22 mを測る。埋土は暗灰色土、暗灰黒色粘質土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２２０　Ｂ３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.65 m、短径約0.48 m、深さ約0.2 mを測る。埋土は暗褐灰色土で、土師器、初期須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２２１　Ｃ２～３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.8 m、短径約0.45 m、深さ約0.18 mを測る。埋土は暗灰黒色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２２２　Ｃ３区で検出し、側溝に切られているため形態は不明であるが、規模は最大長約0.6 m、最大幅約0.65 m、深さ約0.1 mを測る。埋土は暗褐灰色土で、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２２３　Ｃ２～３区で検出し、楕円形で規模は長径約0.85 m、短径約0.6 m、深さ約0.26 mを測る。埋土は暗褐灰色土、暗褐灰色粘質土で、弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－Ｂ２２４　Ｂ２区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.9 m、短径約 0.6 m、深さ約 0.18 mを測る。埋土は暗褐灰色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２２５　Ｂ２区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.6 m、短径約 0.4 m、深さ約 0.16 mを測る。埋土は暗褐灰色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２２６　Ｂ２区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.95 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.46 mを測る。埋土は黒褐色土、暗灰青色土で、弥生土器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２２７　Ｂ２区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.85 m、短径約 0.65 m、深さ約 0.15 mを測る。埋土は暗茶褐色土で、土師器が出土している。

ＳＫ－Ｂ２２８　Ｂ２～Ｃ２区で検出し、楕円形で規模は長径約 0.8 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.14 mを測る。埋土は暗灰色礫混土で、土師器が出土している。

（3）ピット［ＳＰ］

Ａ区で 143 基、Ｂ区で 152 基、合計 295 基のピットを検出した。形態は円～楕円形を呈し、規模は径約 0.2 ～ 0.4 m、深さ約 0.2 ～ 0.4 mが主体をなす。埋土は暗茶褐色～黒褐色土が主体をなし、弥生土器、土師器、初期須恵器、須恵器、製塩土器、サヌカイト片などが出土している。

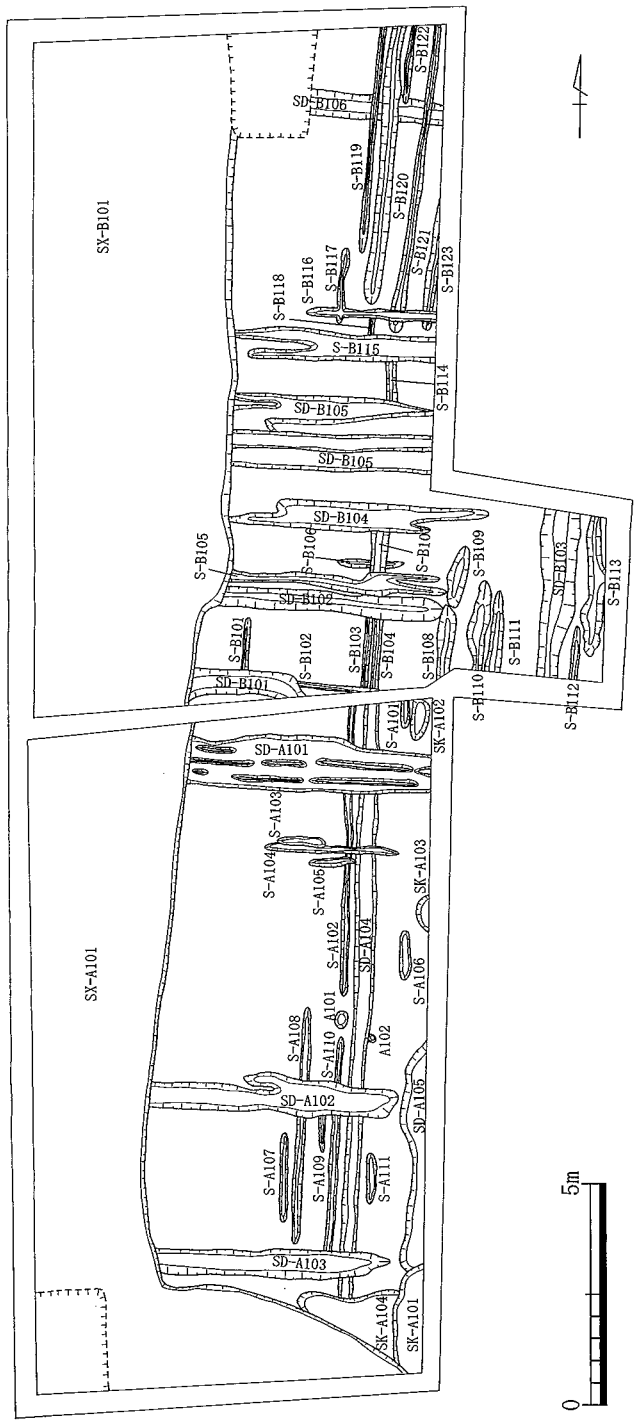
（4）土器溜り［ＳＩ］

ＳＩ－Ａ２０１　Ｃ５区で検出し、土師器長胴甕一個体分に復元できるものである。

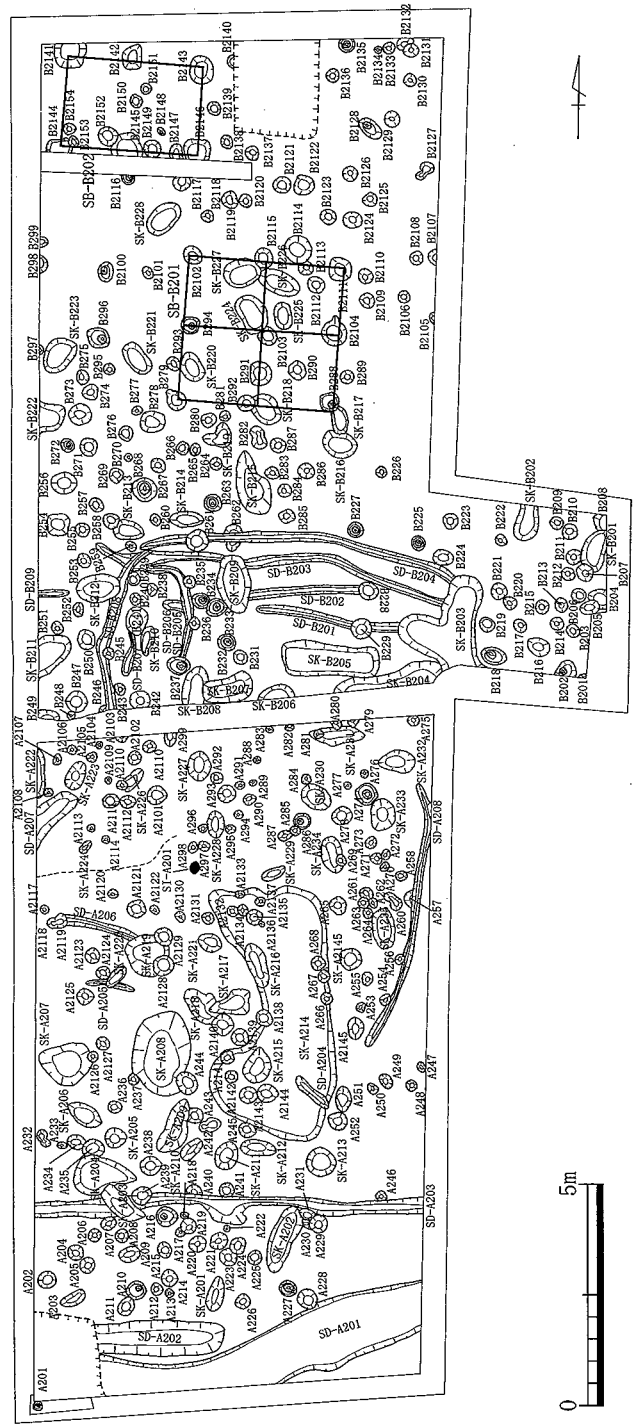
（5）掘立柱建物［ＳＢ］

ＳＢ－Ｂ２０１　Ｃ４～５区にかけて位置する。規模は桁行２間（3.3 m）、梁行（3.0 m）、面積は約 9.9 ㎡の総柱の建物である。柱穴は楕円～円形を呈し、径約 0.35 ～ 0.4 m、深さ約 0.21 ～ 0.09 mを測る。主軸方向はＮ－２°－Ｅである。土師器、初期須恵器、須恵器などが出土している。

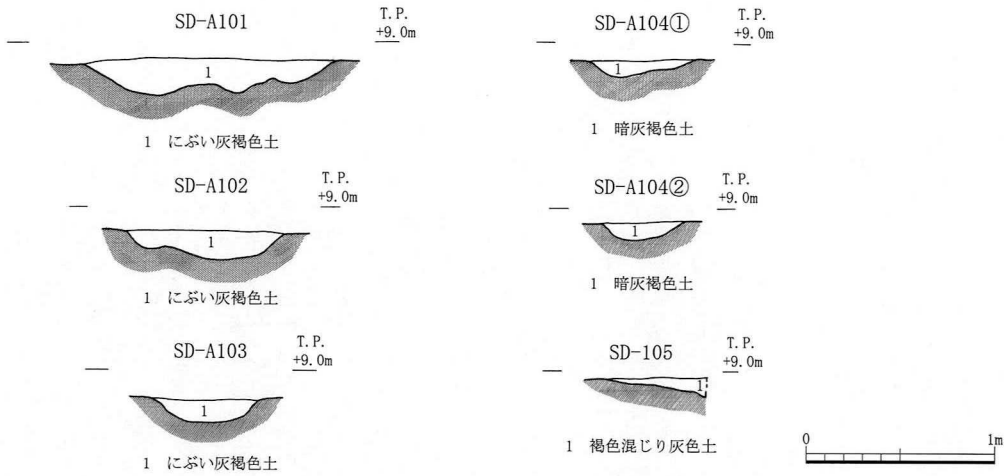
ＳＢ－Ｂ２０２　Ｃ４～５区にかけて位置する。規模は桁行２間（3.2 m）、梁行１間（2.0 m）、面積は約 6.4 ㎡であるが、ＳＢ－Ｂ２０１同様、調査区外の北側に広がり総柱の建物になる可能性が高いものと思われる。柱穴は楕円～円形を呈し、径約 0.55 ～ 0.75 m、深さ約 0.33 ～ 0.4 mを測る。主軸方向はＮ－ 89°－Ｗである。土師器、須恵器などが出土している。



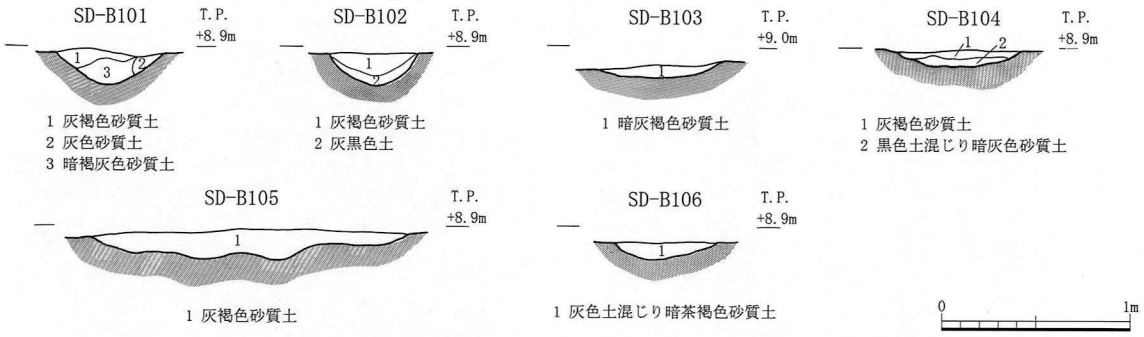
第 28 図　第１遺構面全体図



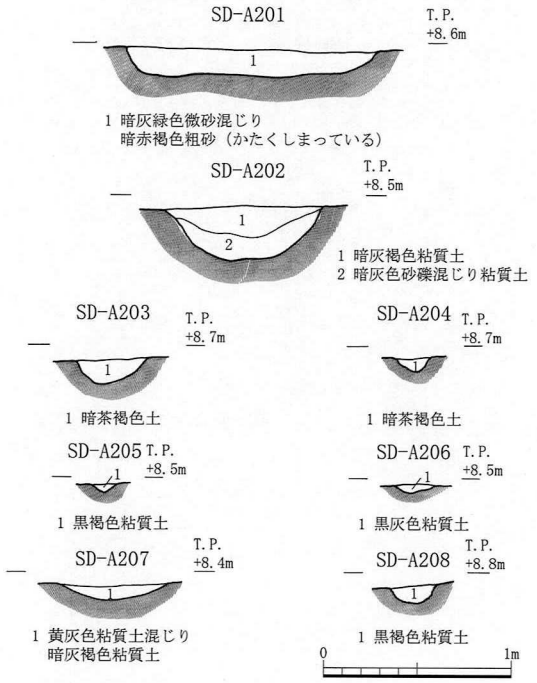
第 29 図　第２遺構面全体図



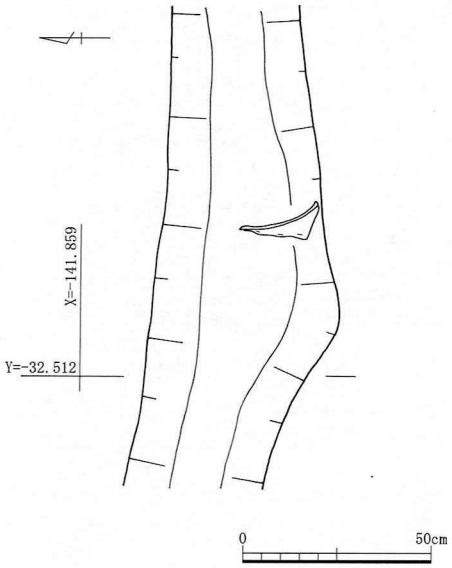
第 30 図　A 区第 1 遺構面・各溝（S D）断面図（S=1/40）



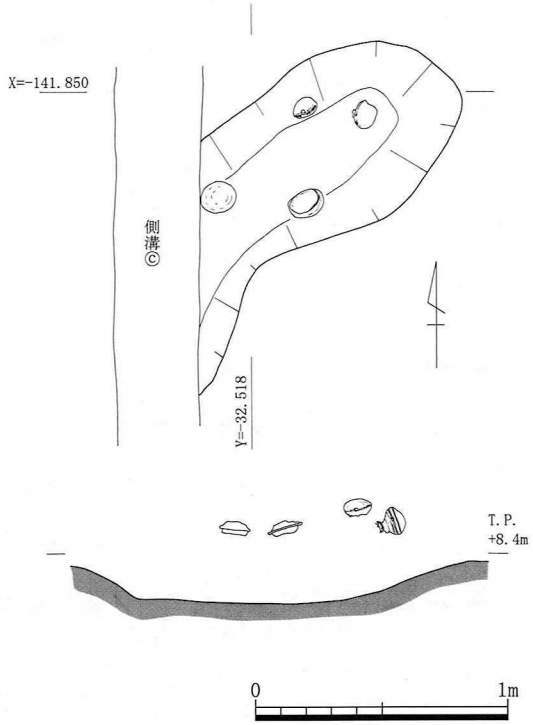
第 31 図　B 区第 1 遺構面・各溝（S D）断面図（S=1/40）



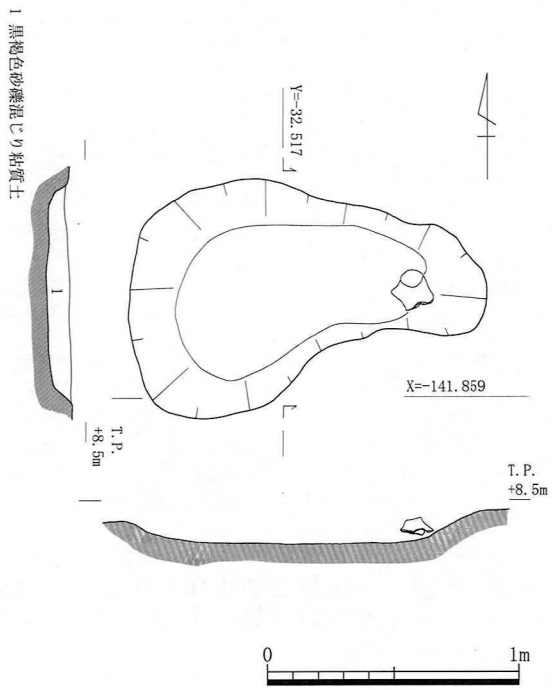
第 32 図　A 区第 2 遺構面・
各溝（S D）断面図（S=1/40）



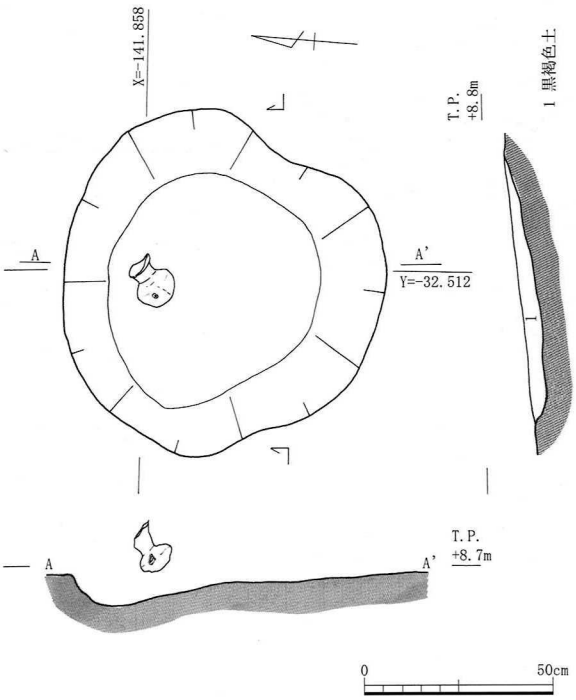
第 33 図　S D－A 2 0 3
平・遺物出土状況図（S=1/20）



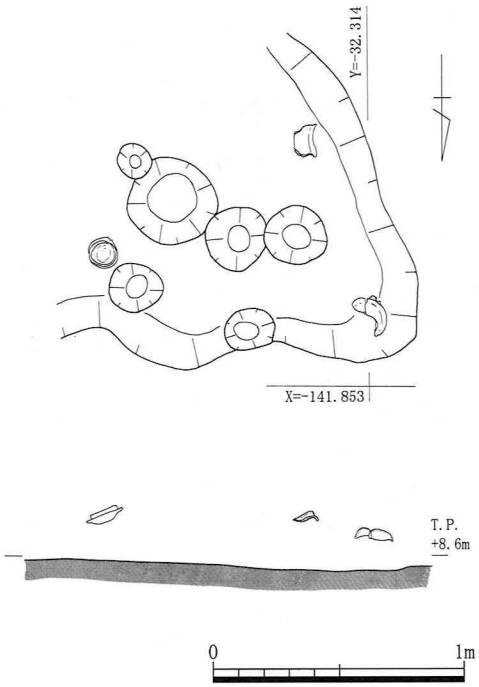
第34図　ＳＤ－Ａ２０７
平・断・遺物出土状況図（S=1/30）



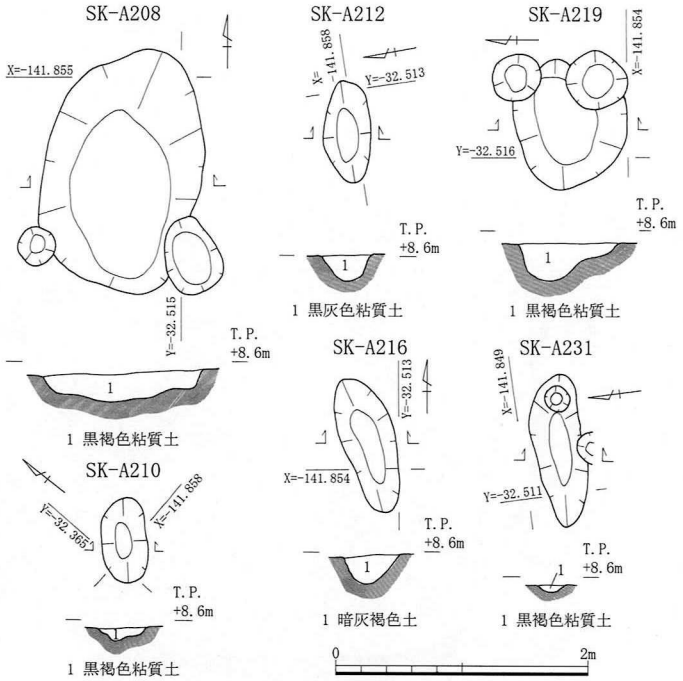
第35図　ＳＫ－Ａ２０４
平・断・遺物出土状況図（S=1/30）



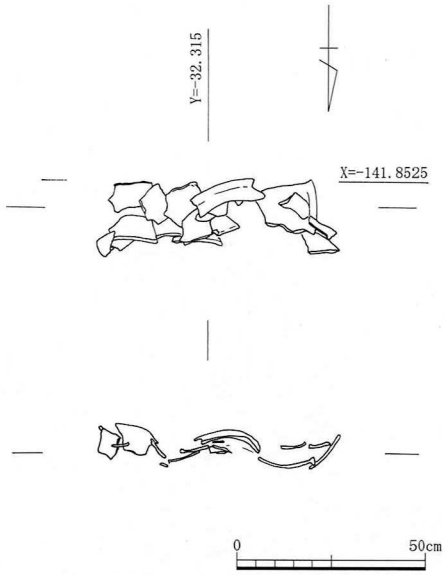
第36図　ＳＫ－Ａ２１３
平・断・遺物出土状況図（S=1/20）



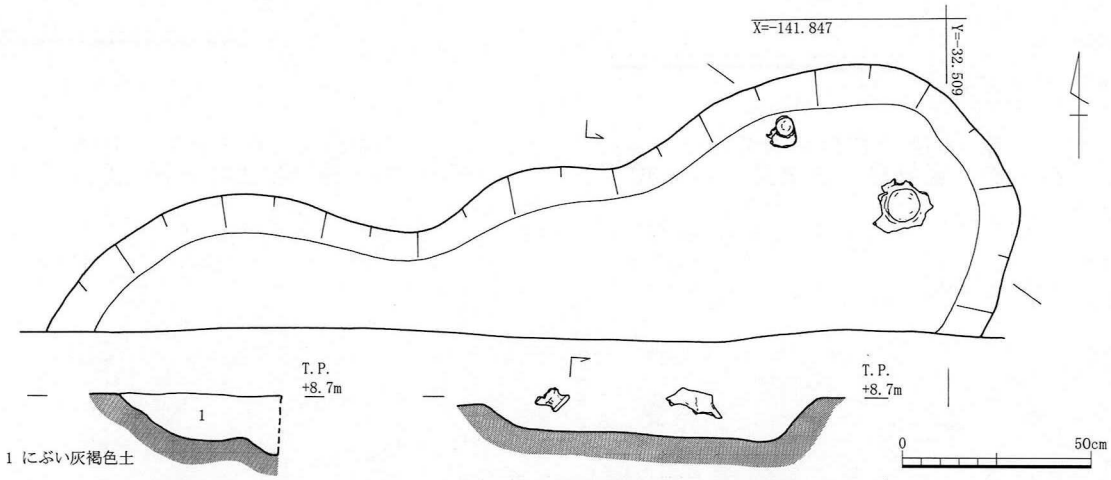
第37図　ＳＫ－Ａ２１４
平・遺物出土状況図（S=1/30）



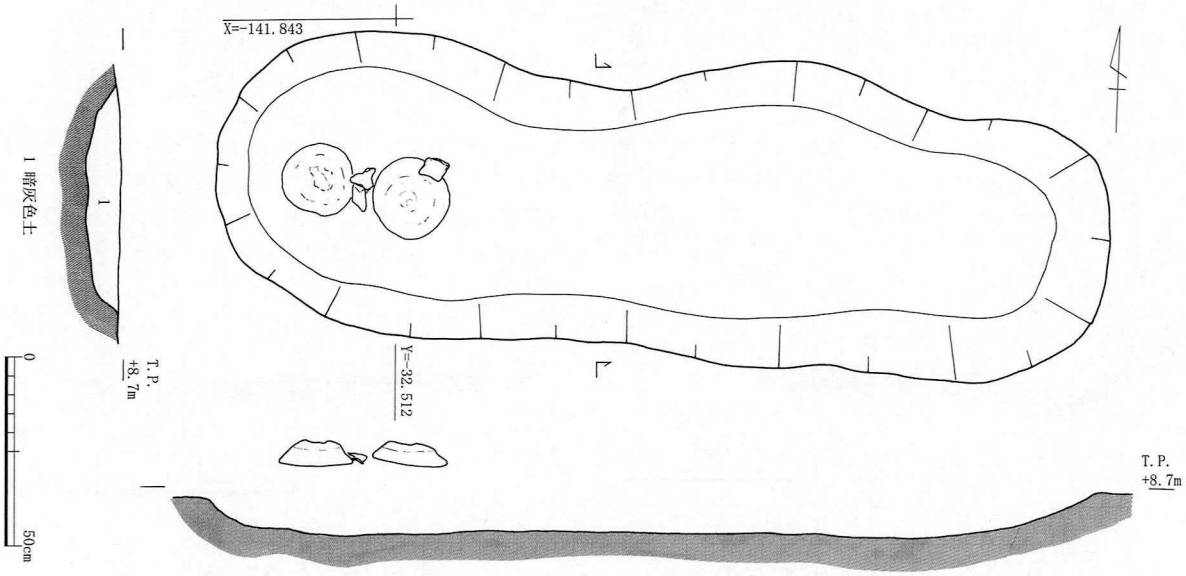
第 38 図　Ａ区第２遺構面・各土坑（ＳＫ）平・断面図（S=1/60）



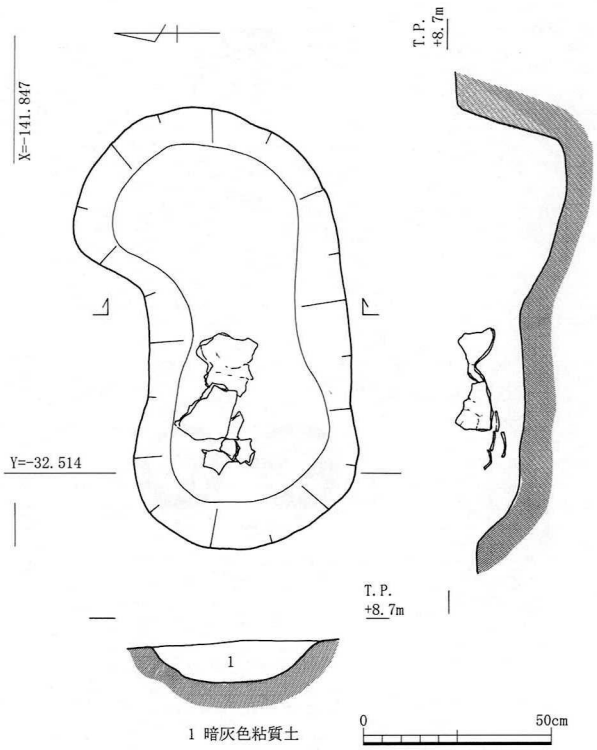
第 39 図　Ａ区ＳＩ－Ａ２０１遺物出土状況図（S=1/20）



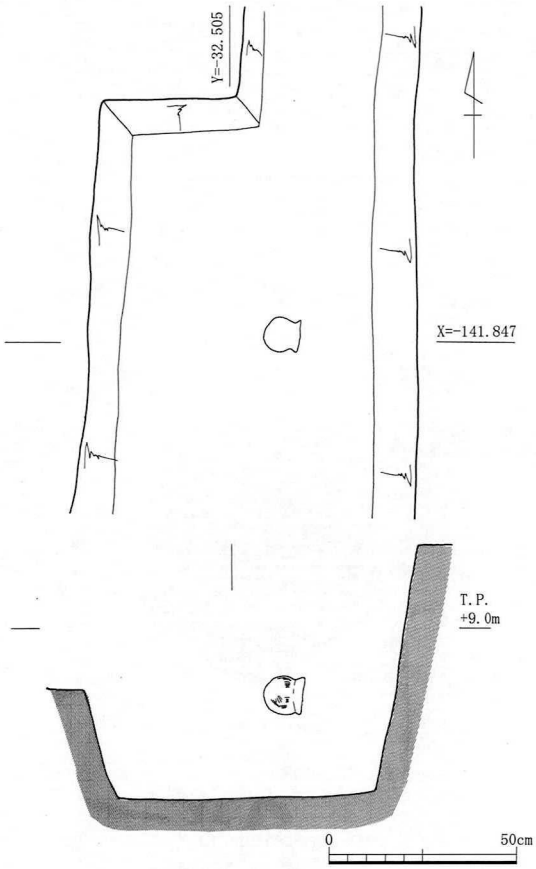
第 40 図　ＳＫ－Ｂ２０４平・断・遺物出土状況図（S=1/20）



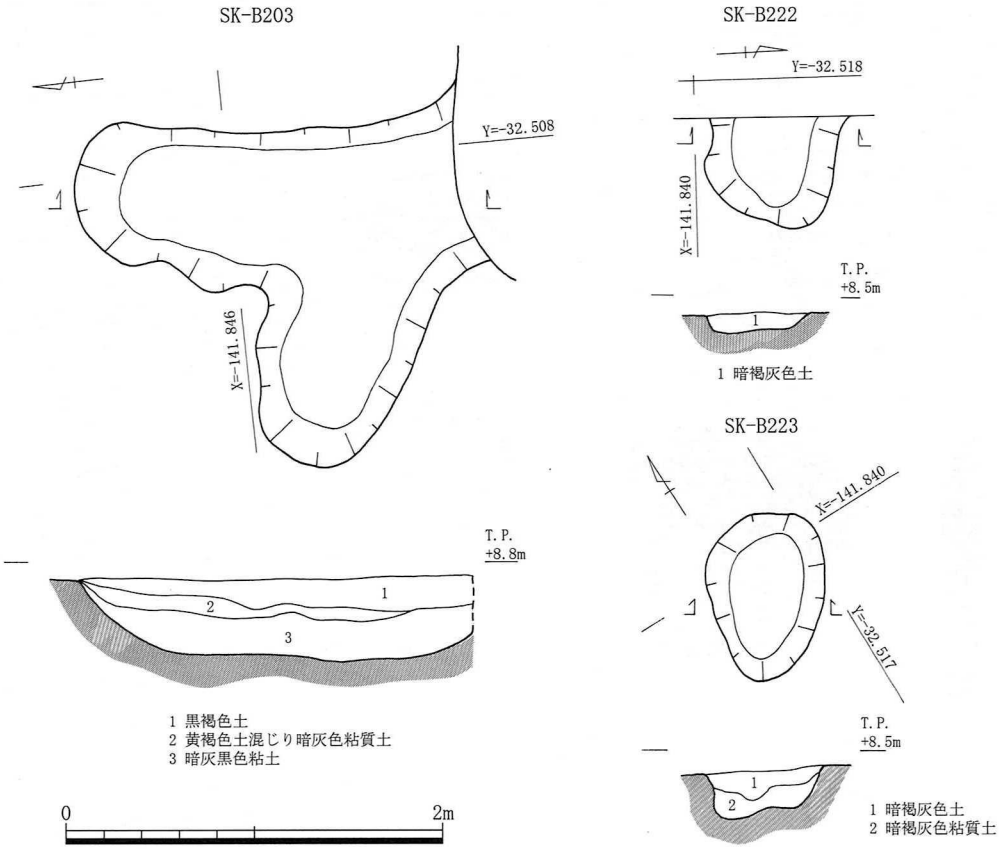
第 41 図　ＳＫ－Ｂ２０５平・断・遺物出土状況図（S=1/20）



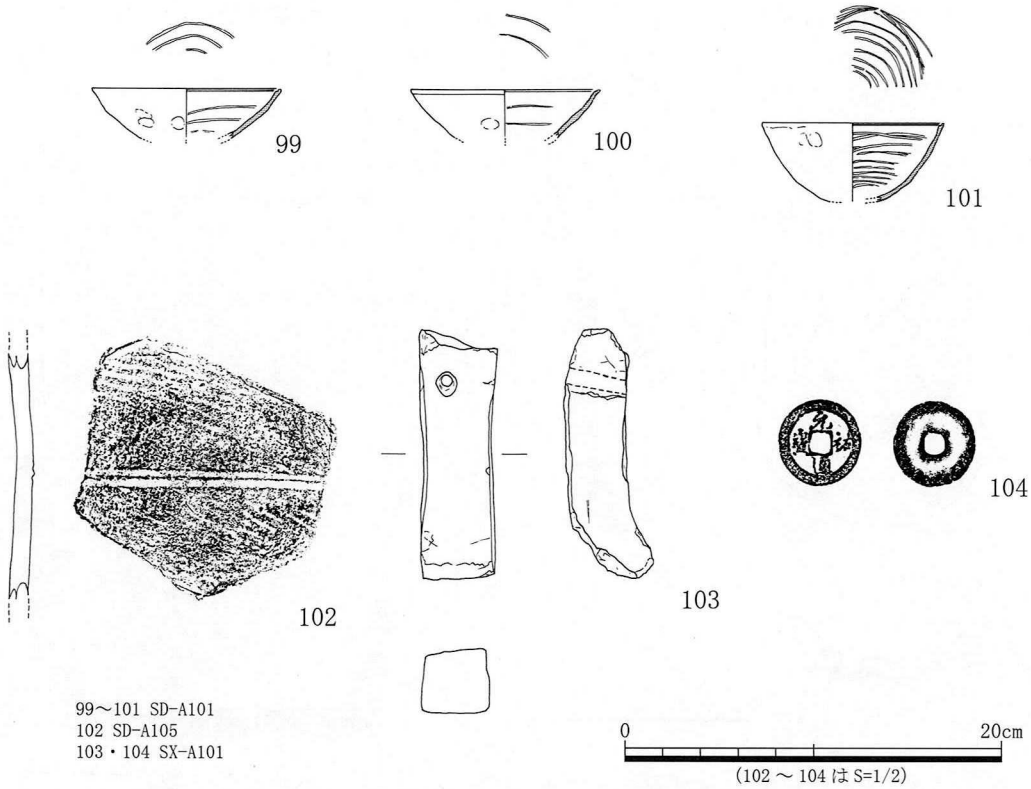
第42図　ＳＫ－Ｂ２０７
平・断・遺物出土状況図（S=1/20）



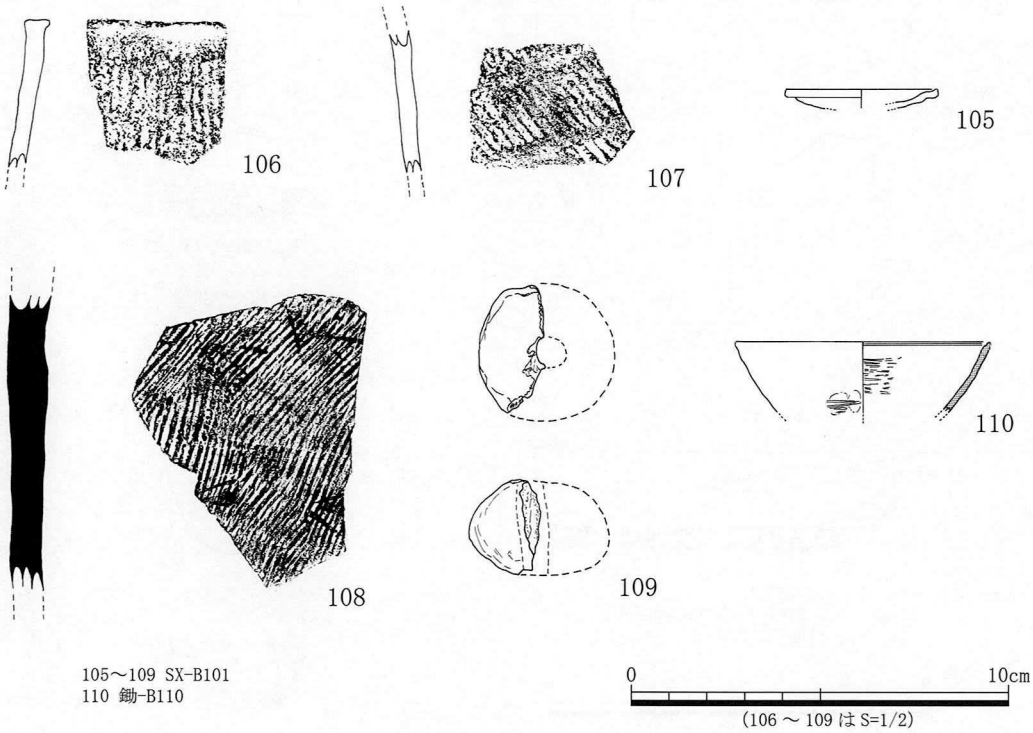
第44図　Ｂ区側溝Ｉ内遺物出土状況図
（S=1/20）



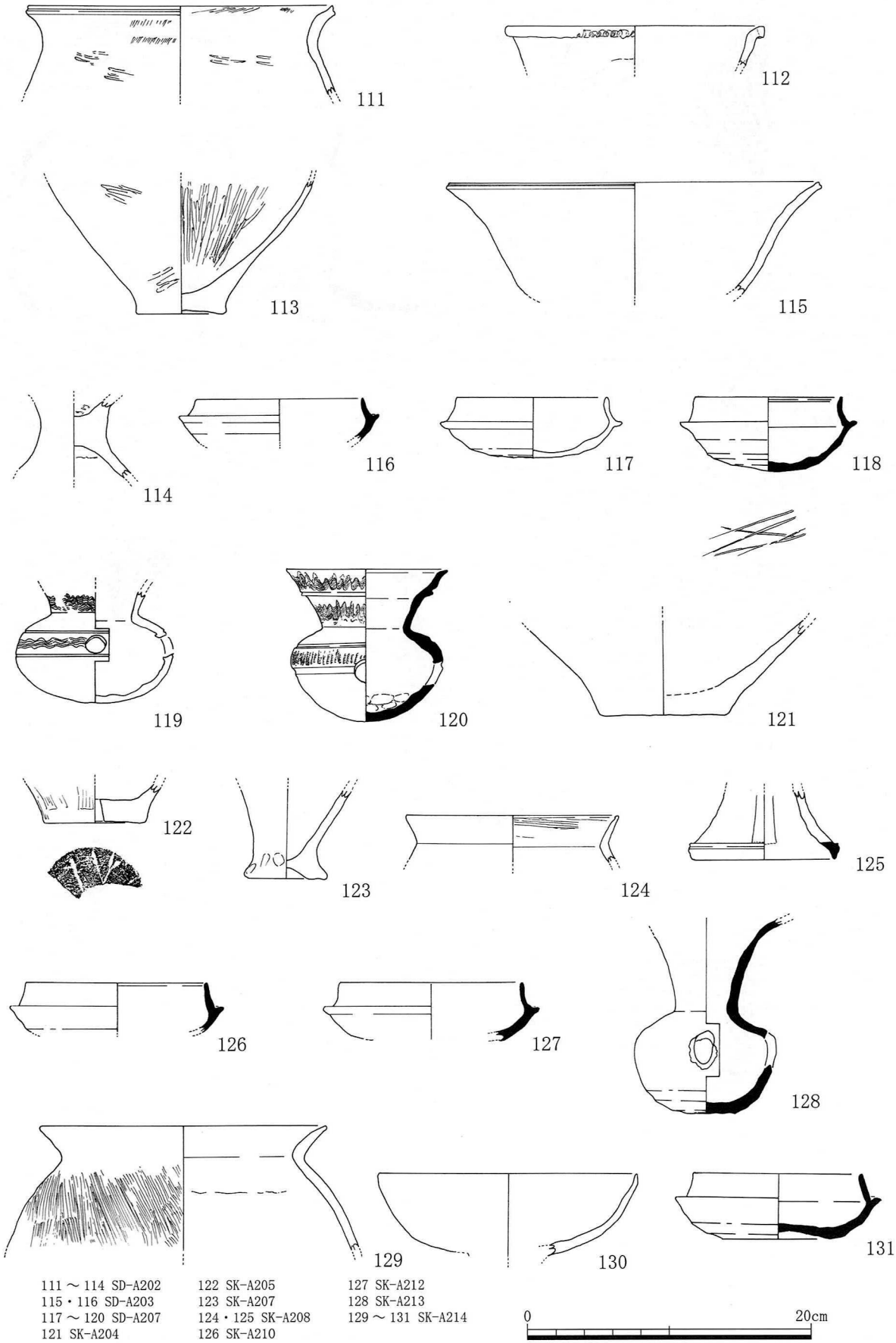
第43図　Ｂ区第２遺構面・各土坑（ＳＫ）平・断面図（S=1/40）



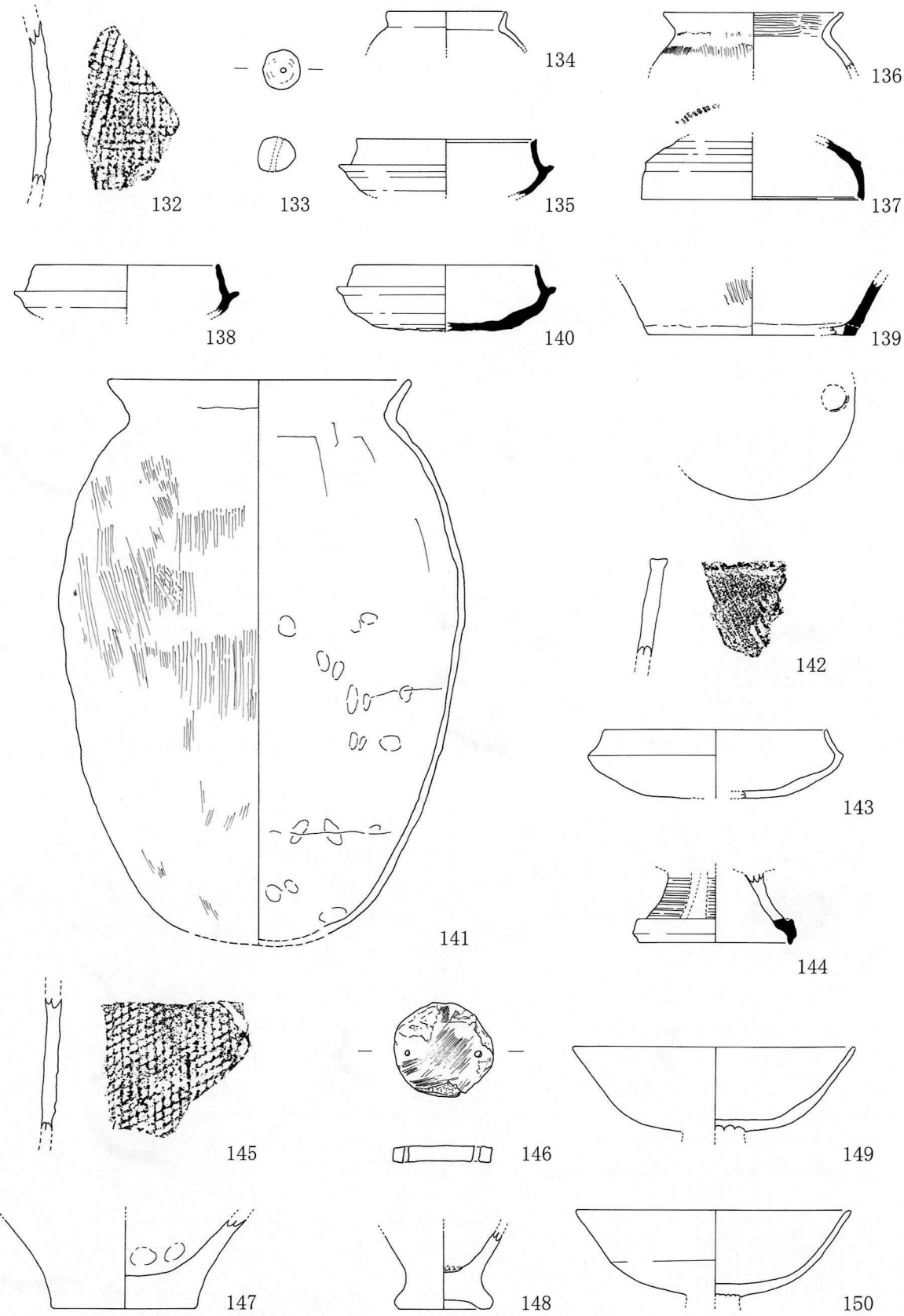
第45図　A区第1遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）



第46図　B区第1遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）



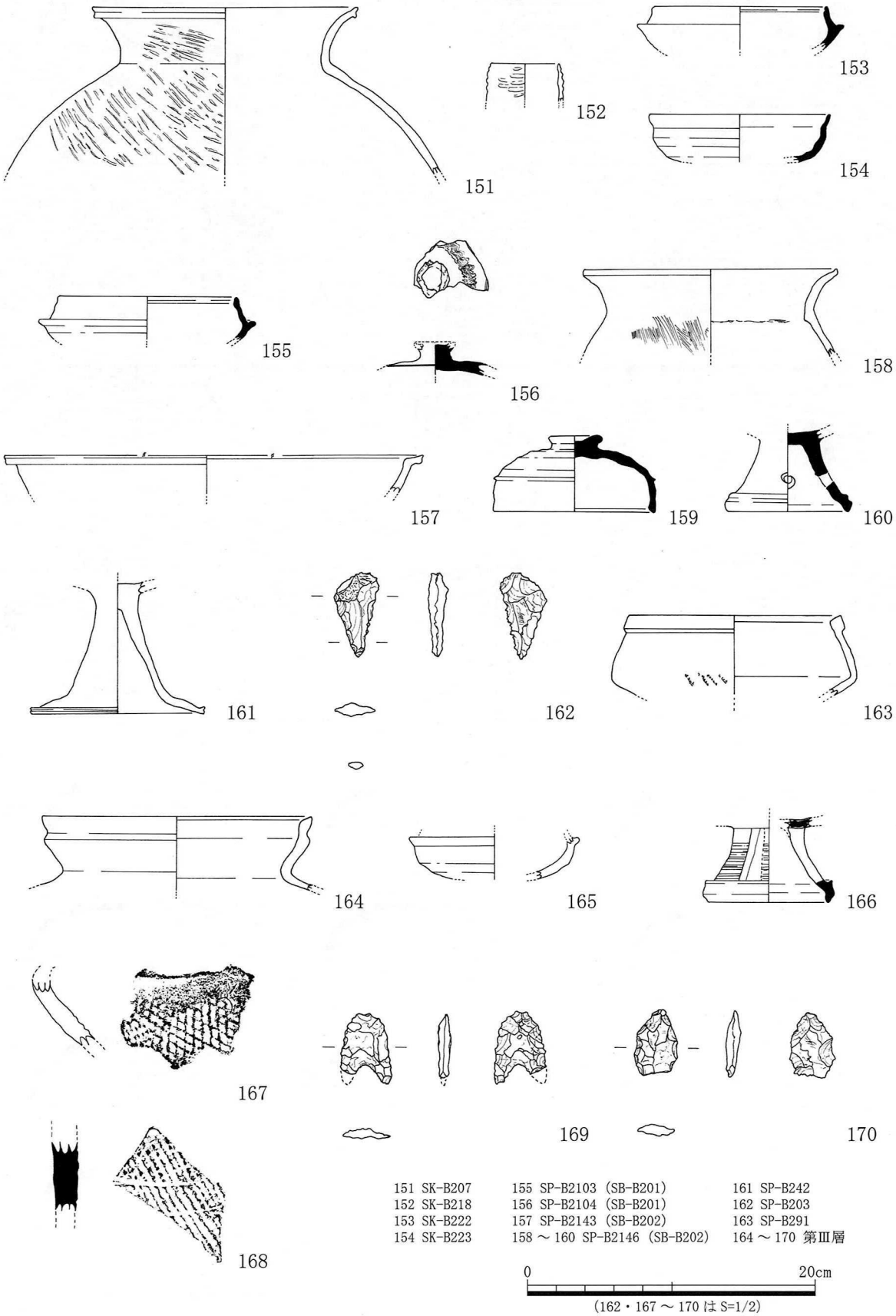
第47図　A区第2遺構面各遺構出土遺物実測図（S=1/4）



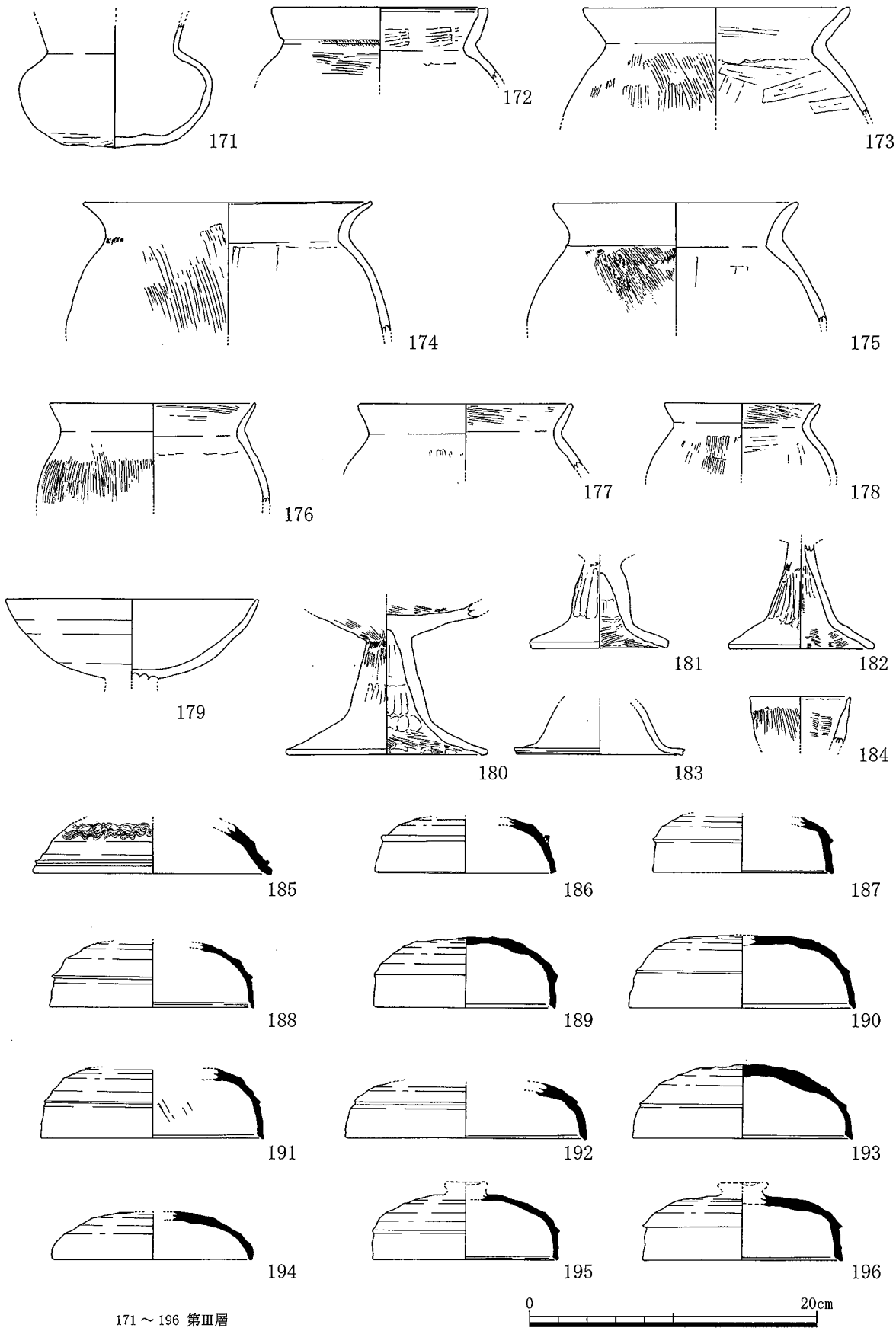
132 SK-A214　136・137 SP-A210　141 SI-A201
133 SK-A216　138 SP-A216　142 SK-B202
134 SK-A219　139 SP-A218　143 ～ 146 SK-B203
135 SK-A231　140 SP-A2103　147・148 SK-B204
149・150 SK-B205

0　20cm
(132・133・142・145・146 は S=1/2)

第 48 図　A・B 区第 2 遺構面各遺構出土遺物実測図（1）（S=1/4）

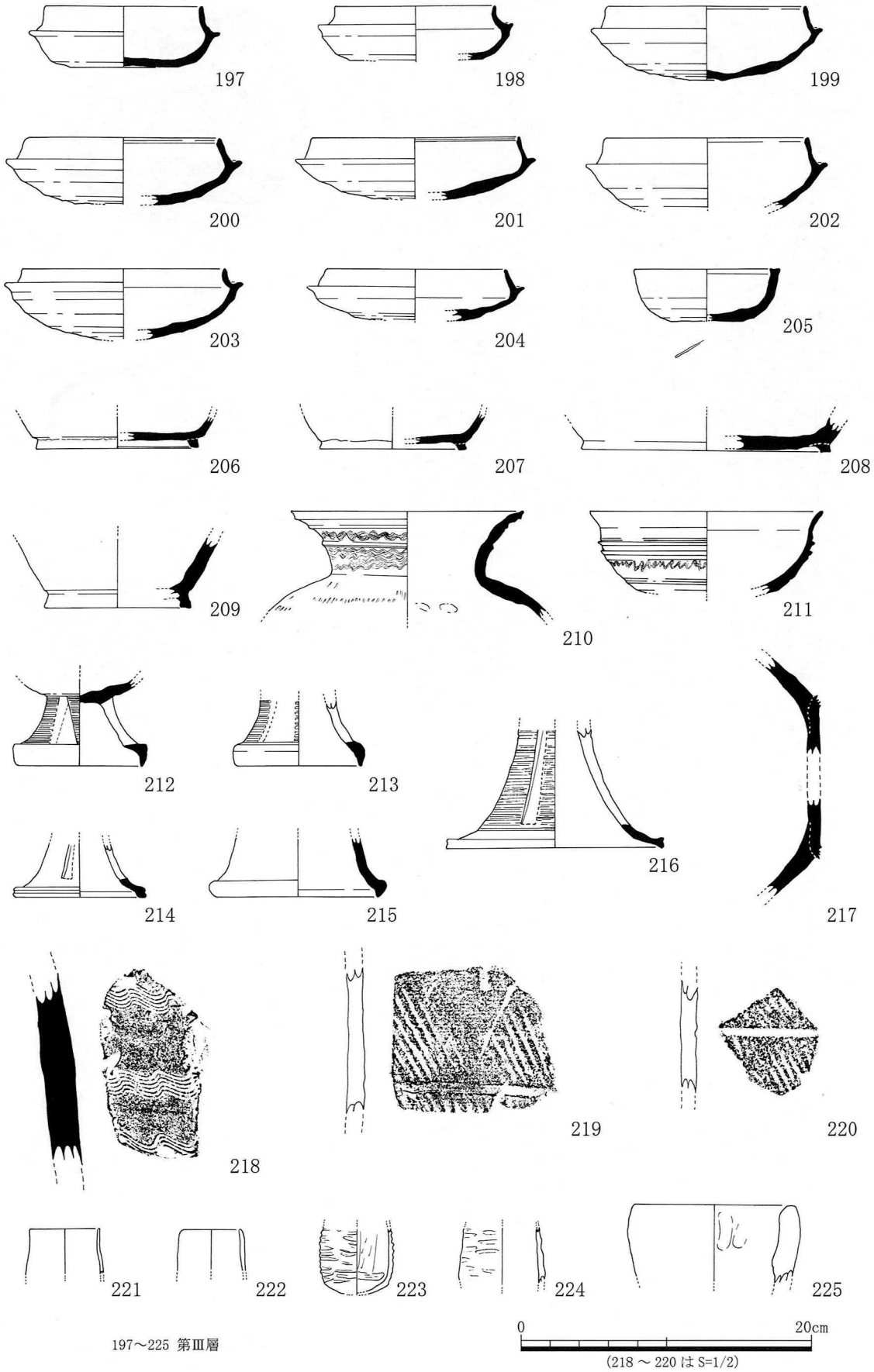


第 49 図　A・B 区第 2 遺構面各遺構出土遺物実測図（2）・包含層出土遺物実測図（1）（S=1/4）



171～196 第Ⅲ層

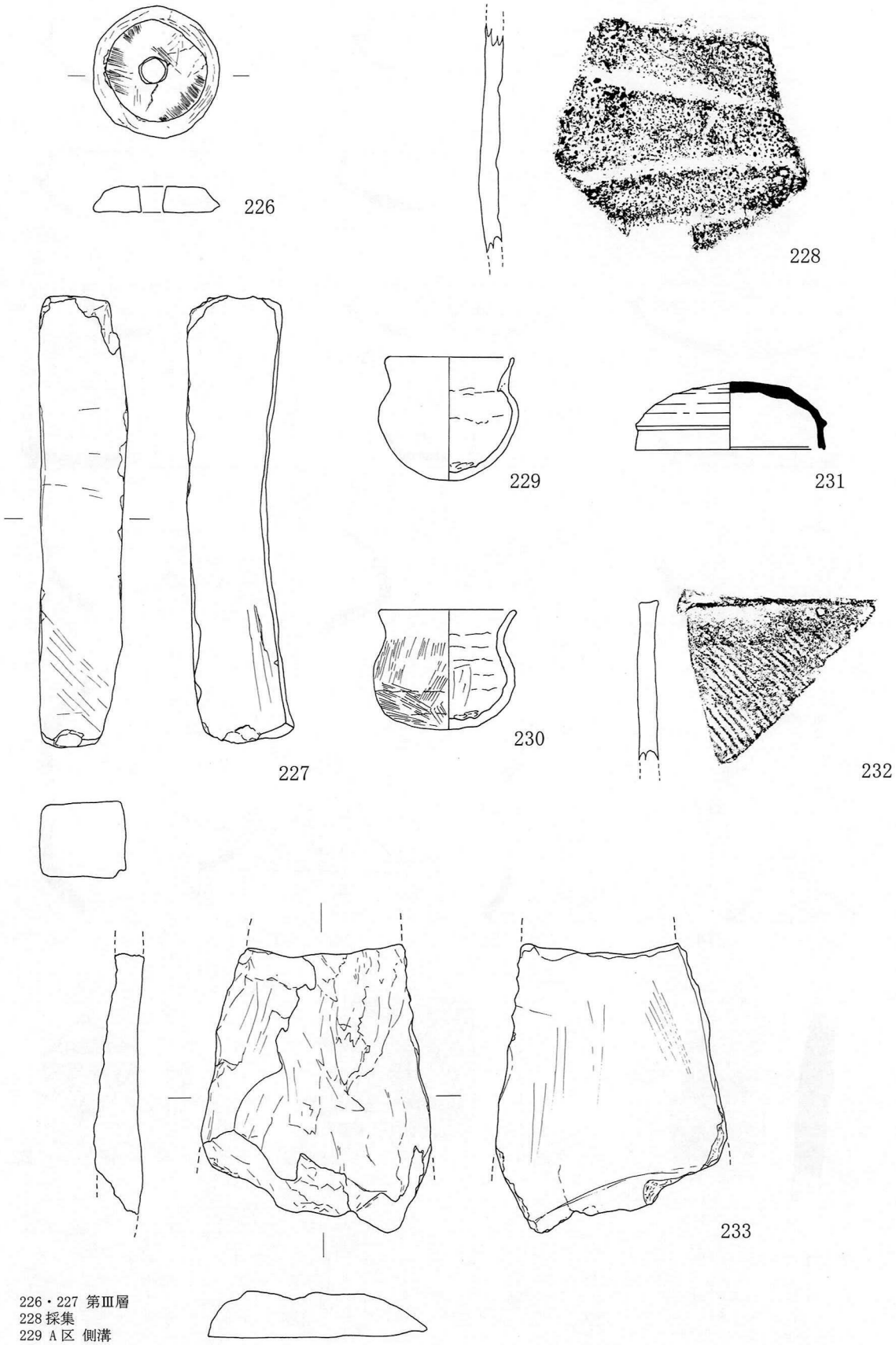
第 50 図　A・B区包含層出土遺物実測図（2）（S=1/4）



197～225 第Ⅲ層

(218 ～ 220 は S=1/2)

第 51 図　A・B区包含層出土遺物実測図（3）（S=1/4）



226・227 第Ⅲ層
228 採集
229 A 区 側溝
230 B 区 側溝
231・232 A 区 側溝
233 残土

第 52 図　A・B 区包含層出土遺物実測図（4）・その他出土遺物実測図（S=1/4）

第5章　まとめ

今回の北条西遺跡における２地点の調査〔ＨＪＮ９４－１調査、ＨＪＮ９６－１調査〕において、９４－１調査は東高野街道から西方約100ｍ、谷田川右岸の北側および権現川から南東約350ｍに所在し、９６－１調査は新東高野街道とも呼ばれている府道170号線（旧大阪外環状線）の西側沿いに所在し、双方とも緩扇状地の標高約8.0ｍ付近に立地する地理的環境のなか、弥生時代から奈良時代にかけての集落跡を確認することができた。特に古墳時代の集落跡はこの地域における特徴的な様相を示すものであった。９６－１調査は９４－１調査から北東約60ｍに位置するもので一連の集落跡と捉えられるものである。以下、両調査成果について時代別にまとめる。

１．縄文時代

９４－１調査では前期と考えられる土器片、９６－１調査では凹線文を施す後期土器片や口縁端部に刻目を施す晩期土器片および打製石鏃と考えられる石製品などが出土している。双方とも包含層等からの出土であるが、あまり摩耗を受けていない状態であった。

市域におけるこの時代の様相としては、明確な集落跡は確認されていないものの市域北部の権現川流域周辺、および南部の鍋田川流域周辺の遺跡から土器がまとまって出土する傾向がうかがえ、鍋田川下流域の中垣内遺跡で中期の土坑と推定される遺構が唯一確認されているものの、両河川上流域に集落跡の存在が想定されている。今回の出土についても権現川流域周辺の状況における出土と考えられ、９６－１調査で出土した凹線文を施した土器片と同型式のものが北新町遺跡から出土していることもそれを示唆するものであろう。

市域では草創期から晩期にかけての遺物が確認されてはいるものの、その実態についてはほとんど明らかにされていない状況であり、その解明は今後の大きな課題と言える。

２．弥生時代

９４－１調査では中期の土坑、ピット、９６－１調査においても中期の溝、土坑、ピットを検出し、中期の集落跡を確認した。注目すべき遺構としては、９４－１調査でのＳＫ－Ｂ３０２、ＳＫ－Ｂ３０１があり、ＳＫ－Ｂ３０２では中期の甕一個体が何らかの性格を有する状況をうかがわせ、また、ＳＫ－Ｂ３０１では底部に柱材らしき木材が確認されているが、通常の柱穴とは考えにくく、周辺地域において事例を確認することはできなかったが、動物を捕獲する落し穴的性格の可能性を推測させる特異な状況を示すものであり、今後の類例の増加を待ちたい。

今回の調査では、９４－１調査に比べ９６－１調査の遺構、遺物が質、量ともに希薄になっていく状況であることから、谷田川をはさんで南方に集落が広がるものと考えられる。今回の調査地から南西約300ｍでの調査では前期の集落跡が確認されており、その集落との関連性が注目される。

この時代の拠点集落の分布状況については、ほぼ5㎞程度の間隔が想定できるとされており、周辺の拠点集落としては市域南部の中垣内遺跡、その北方約４㎞に四條畷市雁屋遺跡が所在している。今回の集落はその両遺跡のほぼ中間地点に所在し、いわゆる中間集落とされるものである。拠点集落間における集落の性格をどのように捉えるかは今後の課題ではあるが、当時の河内湖東岸における集落間構造、さらに弥生社会構造を考える上で貴重な知見を得ることができたと言える。

３．古墳時代

９４－１調査では中期後半から後期にかけての溝、土坑、ピット、９６－１調査においても同時期の溝、

土坑、および多数のピットを検出し、２棟の掘立柱建物を確認することができたが、幾重にも建替えられた状況が示すものであった。両調査の遺構の密度からみて集落は北方に広がるものと考えられ、今回の弥生集落とは対照的な状況である。特に、出土遺物では初期須恵器、韓式系土器、須恵器を模倣した土師器などの出土から、渡来系集団との密接な関わりをもつ集落であったことが認められる。

注目すべき遺構として、９４－１調査では井戸と考えられるＳＫ－Ａ２０４から完形品を多く含む須恵器、土師器などのほか、韓式系土器や須恵器を模倣した土師器などが出土しており先述した渡来系集団との関連性を強くうかがわせるものであるが、大量の桃核も出土するなど、井戸祭祀が行われていた状況を示している。また、９６－１調査ではＳＫ－Ｂ２０５、ＳＤ－Ｂ２０７の土坑、溝が挙げられ、ＳＫ－Ｂ２０５ではほぼ隅丸長方形の平面プランの一端に同形態の土師器高杯の杯部のみを逆さにして意図的に並べるもので、土坑墓を想定させるものである。またＳＤ－Ｂ２０７では遺構形成面での検出が困難であったため、本来の遺構の掘り方を示している状況ではないが、須恵器の杯身とそれを模倣したと思われる土師質の杯身がほぼ50cmの間隔で出土し、それから70cm離れた地点において須恵器瑳と杯身同様にそれを模したと思われる土師質の瑳が約60cmの間隔で出土するという特異な状況を示している。何らかの意味を有していたと考えるほうが妥当と思われるが、その性格については明らかにできない。須恵器を模倣した土師器の出土は近辺に須恵器窯跡の存在を想定させるものと考えられており、その製作過程において渡来系集団の須恵器工人と在地系集団の土師器工人との関係が推測されている。そのような状況下、土器製作における何らかの協同作業の結果がこのような出土状況をもたらしたのであろうか。

また、出土遺物では先述のとおり、初期須恵器、韓式系土器、特に須恵器を模倣した土師器が比較的まとまって出土しており、この集落の特徴の実態を最も示すものである。

初期須恵器については、吹田32号窯の発見以降、陶邑窯とは系譜が異なる初期須恵器の存在が言われて久しいが、近年では上町台地でＴＫ73型式相当の窯跡２基が検出されており、北河内地域においても、従来からその存在が指摘され、近年の調査成果の増大により、枚方市茄子作窯はもちろん、交野市上の山遺跡においても初期須恵器窯の存在が推定されている。

市域の堂山１号墳からは陶邑窯とは系譜が異なる初期須恵器が出土しており、北新町遺跡では組紐文を有する器台杯部片、口縁部に突帯一条を有する壺、またメノコ遺跡では内部に雑な線刻を有する鋸歯文を施した器台などがみられ、さらに土製の無文当て具が出土している。今回の調査においても両調査において須恵器の溶着したものなどが出土しており、この地域周辺に初期須恵器窯の存在する可能性は極めて高いものである。

また、韓式系土器については両調査において出土しているが、９６－１調査では鳥足文タタキを施した硬質の韓式系土器が出土している。鳥足文タタキを有した土器片は南方約１kmに所在するメノコ遺跡でも出土しており、また単線横走集線文タタキも共に出土している。単線横走集線文タタキの系譜は明らかでないが、鳥足文タタキは朝鮮半島の百済地域に求められるものであり、渡来系集団の出自を示唆するものである。また、今回の調査では出土しなかったものの、メノコ遺跡からは瓶形土器、黒色研磨土器なども出土している。

さらに特筆すべきものとして須恵器を模倣した土師器の出土が挙げられるが、須恵器的要素を持つ土師器で、模倣須恵器、似非土師須恵器、擬土師須恵器、土師質焼成須恵器などと呼ばれているものである。

近年、大規模な調査が行われた四條畷市蔀屋北遺跡においても多数出土しており、その検討過程にお

いて「須恵器系土器」と呼称し、その定義として「須恵器の製作技法の影響を受けたが、酸化炎焼成で仕上げられている土器を呼称する。」としており、さらに「初期須恵器が韓式系土器（硬質）であるから、須恵器系土器も韓式系土器の影響を受けて成立した土器の一種となる。須恵器を模倣したような形態のものから、須恵器系土器独自の形態を持つものまで存在する。いわゆる生焼け須恵器ではない。当遺跡においては古墳時代中期後半から後期にかけて継続して出土が認められることから、土器の種類とし須恵器系土器と呼称することにした。」としている。調査面積の違いもあり出土量に大きな差異あるものの、今回の調査において出土したその土器の様相については蔀屋北遺跡とほぼ同様の状況を示している。

そのような中、注目すべきものに佐賀県浦田遺跡、佐賀県城山１号墳、熊本市竜田陣内遺跡および福岡県権現塚南遺跡など九州北部から西南部地域を中心に確認される模倣杯と呼ばれている形態と類似するものが出土していることである。

今回の調査地周辺の同様な遺跡においても確認することができず、どのような背景において伝播されたものであるのか、その評価については今後の出土事例の増加を待ちたい。

４．飛鳥・奈良時代

９４－１調査では溝、土坑、ピットなどを検出したが、９６－１調査においては遺物の出土は認められるものの、特定できる遺構は確認できなかったことから、両調査地の間に集落の北限のあることが認められる。

市域における当該期の集落跡については、市域南部の寺川遺跡、元粉遺跡、また北部の北新町遺跡など、主に権現川、鍋田川流域周辺を中心に集落が営まれてきた状況を示していたが、今回の集落跡は北新町遺跡から南南東に約１㎞、寺川遺跡から北北西に約1.5㎞に所在し、両遺跡間のほぼ中間に形成された集落として認められるものである。北新町遺跡では人面墨書土器の出土、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器の出土など、通常の集落跡と異なるものであり、その両遺跡間での今回の集落跡の性格については、今後の調査に求められる。

５．中世

９４－１調査では溝、土坑、ピット、９６－１調査では溝、土坑、段状を呈する遺構を検出した。

溝についてはほぼ東西南北に走り、形態、規模からいわゆる鋤溝であり、奈良時代集落の廃絶後、周辺一帯は耕作地であったことがうかがわれる。

９４－１調査のＳＤ－Ｂ１０２はほぼ東西に走る大溝で、断面もほぼ長方形を呈するものであるが、その性格については何らかの区画的要素も考えられるが、周辺の状況から耕作地帯に伴う水路と捉えるのが妥当であると思われる。また、９６－１調査の段状遺構については、南西方向に向かって認められることから、西方に傾斜していく地形的環境を反映したものであろう。

市域における中世の集落跡としては、北新町遺跡、御領遺跡があるが、両遺跡はそれぞれ近世で深野池と呼ばれた池のそれぞれ東岸と西岸に位置しているもので、東高野街道が縦貫する飯盛山西麓沿いにおける集落跡の実態は明らかにされていない。先述したＳＤ－Ｂ１０２の規模からすると舟での往来は十分可能と推定されるものであり、調査地の東側には集落の存在する可能性が想定できる。

以上、今回の調査成果について時代別に概観してきたが、特に古墳時代の集落跡については渡来系集団の存在を顕著に示すものであり、古墳時代中～後期におけるこの地域特有の実態を解明するうえで大きな成果を得ることができたものである。

当時の河内湖東岸に位置する市域の状況としては、鍋田川遺跡、メノコ遺跡、北新町遺跡など古墳時代中期の遺構が確認できる遺跡では量的差異はあるものの同様の状況を示している。また周辺地域においても寝屋川市域の楠遺跡、讃良郡条里遺跡、長保寺遺跡、四條畷市域の奈良井遺跡、中野遺跡、蔀屋北遺跡などが挙げられ、特に蔀屋北遺跡では、大壁建物や竈に使用されたU字形板状土製品が出土するなど渡来人の大集落と考えられており、また馬具や馬を埋葬した土坑が検出されたことから、馬飼を専門とする集落と考えられ、その周辺には牧が広がっていたと考えられている。これらの地域周辺における古墳時代の集落ではほぼ製塩土器が出土していることもそれを物語っている。大東市域の古墳時代の遺跡においても同様に製塩土器が出土することから、これらの渡来系集団と深く関わりをもつ地域であったことが考えられる。

近年、古墳時代中期の社会構造を考えるうえで、渡来系集団に関する検討が盛んになってきている。古墳時代中期以降、朝鮮半島南部の百済、伽耶地域から多くの人々が渡来し、畿内においては渡来人の影響を受けた多くの集落跡が確認されているが、特に河内湖周辺はその地理的環境において顕著にその状況を示しており、その周辺それぞれの地域において遺跡群を設定しその実態についての様々な検討が行われている。

河内湖東岸周辺では、市域北部の権現川を境に、その北側の蔀屋北遺跡を中心に北岸の寝屋川市南部の楠遺跡までの遺跡郡、また市域南部の鍋田川より南側では東大阪市西ノ辻遺跡、鬼虎川遺跡などを中心とした遺跡郡の設定がなされている。その間の権現川から鍋田川に挟まれた地域は折しも市域の南北を占めるものであるが、この地域を現段階において仮に一つの遺跡群として捉え、今後、その詳細な検討を行うことは、この地域を含め河内湖周辺における渡来系集団の受容と定着過程の様相をより一層解明できるものと思われる。

第1表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（1）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
1	瓦器 皿	SD-B102	口径：9.8 器高：2.0	外：灰 N4/ 内：灰 N4/	良好	密	外面：ヨコナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ、暗文	
2	土師器 皿	SD-B103	口径：12.0 器高：3.0	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/4 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	
3	土師器 甕	SD-B103	口径：28.0 器高：7.9	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1 断：褐灰 10YR6/1	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ユビオサエ	
4	須恵器 蓋	SD-B103	口径：15.2 器高：1.9	外：灰白 10YR7/1 内：灰白 10YR7/1 断：灰白 10YR7/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
5	須恵器 杯	SD-B103	口径：17.3 器高：3.5	外：灰白 10YR7/1 内：灰白 10YR7/1 断：灰白 10YR7/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
6	土師器 小型甕	SD-B103	口径：8.0 器高：7.3	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR7/6 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
7	土師器 長胴甕	SP-B112	口径：18.8 器高：19.8	外：浅黄橙 7.5YR8/3 内：灰白 7.5YR8/2	良好	密 長石 石英	外面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	
8	須恵器 杯	鋤-B105	口径：14.2 器高：3.8	外：灰白 10YR7/1 内：灰白 10YR7/1 断：灰白 10YR7/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
9	土師器 甑	SD-A101	口径：26.2 器高：20.6	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/4 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密 長石 石英	外面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ユビオサエ	
10	須恵器 杯蓋	SD-A101	口径：12.6 器高：2.1	外：黄灰 2.5Y6/1 内：黄灰 2.5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内面に自然釉付着
11	須恵器 杯	SD-A101	口径：9.2 器高：3.8 底径：4.8	外：灰 N6/ 内：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
12	須恵器 杯	SD-A101	口径：12.2 器高：3.2	外：灰 N5/ 内：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	底外面にヘラ記号あり
13	土師器 甕	SK-A101	口径：14.3 器高：9.0	外：灰黄褐 10YR5/2 内：灰黄褐 10YR5/2 断：灰黄褐 10YR5/2	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ユビオサエ	
14	須恵器 杯蓋	SK-A101	口径：17.2 器高：3.2	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
15	須恵器 杯身	SP-B210	口径：11.4 器高：5.3	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
16	土師器 小型壺	SK-A204	口径：12.0 器高：14.1	外：浅黄橙 7.5YR8/4 内：浅黄橙 7.5YR8/4 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、ケズリ、ハケメ	
17	土師器 小型壺	SK-A204	口径：12.1 器高：13.9	外：浅黄橙 7.5YR8/3 内：浅黄橙 7.5YR8/3	良好	密 長石 石英	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ユビオサエ	
18	土師器 小型壺	SK-A204	口径：9.6 器高：9.0	外：浅黄橙 7.5YR8/3 内：浅黄橙 7.5YR8/3	良好	密 長石 石英 雲母	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ハケメ、板ナデ	内面に煤付着
19	土師器 小型壺	SK-A204	口径：10.8 器高：10.8	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	やや不良	密 長石	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ハケメ、ナデ、ユビオサエ	外面に黒班あり
20	土師器 小型壺	SK-A204	口径：9.6 器高：10.2	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ユビオサエ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（２）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
21	土師器 小型壺	SK-A204	口径：10.0 器高：11.6	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ハケメ、ナデ、ユビオサエ	
22	土師器 甕	SK-A204	口径：24.3 器高：7.6	外：灰黄褐 10YR5/2 内：灰黄褐 10YR5/2 断：灰黄褐 10YR5/2	良好	密 長石 石英	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ハケメ、ナデ	
23	土師器 甕	SK-A204	口径：20.8 器高：8.8	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：灰黄褐 10YR5/2 断：灰黄褐 10YR5/2	良好	密 長石	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ハケメ、ナデ	
24	須恵器系 土師器 高杯	SK-A204	口径：29.4 器高：27.7 底径：23.7	外：淡橙 5YR8/4 内：淡橙 5YR8/4	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ、シボリ目、ユビオサエ	
25	須恵器系 土師器 高杯	SK-A204	口径：28.0 器高：23.7 底径：16.6	外：淡橙 5YR8/4 内：淡橙 5YR8/4	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ、シボリ目	
26	須恵器系 土師器 高杯	SK-A204	口径：7.4 器高：13.4 底径：11.2	外：にぶい橙 5YR7/4 内：灰白 10YR8/2	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
27	須恵器系 土師器 高杯 (杯部)	SK-A204	口径：16.2 器高：4.0	外：にぶい橙 5YR7/4 内：にぶい橙 5YR7/4 断：にぶい橙 5YR7/4	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
28	須恵器系 土師器 高杯 (杯部)	SK-A204	器高：5.2 底径：12.6	外：にぶい橙 7.5YR7/3 内：にぶい橙 7.5YR7/3 断：にぶい橙 7.5YR7/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
29	須恵器系 土師器 高杯 (脚部)	SK-A204	器高：11.2 底径：12.4	外：にぶい橙 7.5YR7/3 内：にぶい橙 7.5YR7/3 断：にぶい橙 7.5YR7/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
30	須恵器系 土師器 高杯 (脚部)	SK-A204	口径：19.0 器高：5.0	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1 断：灰白 10YR8/1	やや 不良	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
31	土師器 甑	SK-A204	口径：28.4 器高：8.7	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：灰黄褐 10YR5/2 断：灰黄褐 10YR5/2	良好	密 長石 石英	外面：ヨコナデ、ハケメ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ、ハケメ	
32	須恵器 鉢	SK-A204	器高：6.9 底径：9.2	外：灰 N4/ 内：灰 N5/ 断：褐灰 7.5YR4/1	堅緻	密	外面：波状文、凸線、回転ナデ 内面：回転ナデ	
33	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：13.1 器高：5.7	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
34	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：13.0 器高：5.6	外：灰 N6/ 内：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
35	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：12.6 器高：4.9	外：灰 N5/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
36	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：11.4 器高：4.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
37	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：12.0 器高：4.6	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
38	須恵器 杯蓋	SK-A204	口径：12.4 器高：5.4	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
39	須恵器 蓋	SK-A204	口径：12.4 器高：5.0	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	つまみ径：3.4cm 外面に自然釉付着
40	須恵器 杯身	SK-A204	口径：13.0 器高：4.2	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1 断：褐灰 10YR6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（３）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
41	須恵器 杯身	SK-A204	口径：11.2 器高：3.6	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1 断：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
42	須恵器 杯身	SK-A204	口径：10.6 器高：4.8	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
43	須恵器 杯身	SK-A204	口径：10.6 器高：4.8	外：灰 N6/ 内：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
44	須恵器 杯身	SK-A204	口径：10.4 器高：4.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
45	須恵器 杯身	SK-A204	口径：10.3 器高：5.2	外：暗灰 N3/ 内：暗灰 N3/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	底外面にヘラ記号あり
46	須恵器 杯身	SK-A204	口径：11.0 器高：5.2	外：暗灰 N3/ 内：暗灰 N3/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	底外面にヘラ記号あり
47	須恵器 甕	SK-A204	口径：15.0 器高：2.2	外：灰 N4/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
48	須恵器 甕	SK-A204	口径：20.2 器高：4.0	外：灰 N5/ 内：灰 N6/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
49	須恵器 甕	SK-A204	器高：3.2	外：灰 N4/ 内：灰 N5/ 断：灰 N4/	堅緻	密	外面：回転ナデ、タタキ 内面：回転ナデ	
50	須恵器 甕	SK-A204	器高：5.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
51	須恵器 高杯	SK-A204	口径：13.8 器高：11.8 底径：11.4	外：灰赤 10R5/2 内：灰赤 10R5/2	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	三角形の透かし孔あり（３方向）
52	須恵器 高杯	SK-A204	口径：11.2 器高：9.6 底径：9.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（２方向残）
53	須恵器 高杯	SK-A204	口径：9.8 器高：9.0 底径：8.4	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
54	須恵器 高杯	SK-A204	器高：8.0 底径：10.0	外：灰 N4/ 内：灰 N4/ 断：灰 N4/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、カキメ 内面：回転ナデ	三角形の透かし孔あり（３方向）
55	須恵器 高杯 (杯部)	SK-A204	口径：10.4 器高：5.2	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
56	須恵器 壺	SK-A204	器高：11.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、波状文、タタキ 内面：ナデ、ユビオサエ	
57	須恵器 器台	SK-A204	器高：11.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：褐灰 10YR4/1	堅緻	密	外面：凸線、波状文、斜格子文 内面：ナデ	方形の透かし孔あり（２方向残）
58	土師器 小型鉢	SK-A204	口径：8.3 器高：4.0	外：にぶい橙 7.5YR7/3 内：にぶい橙 7.5YR7/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
59	土師器 椀	SK-A204	口径：6.3 器高：6.3 底径：3.1	外：にぶい橙 7.5YR7/3 内：にぶい橙 7.5YR7/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
60	製塩土器	SK-A204	口径：3.9 器高：7.9	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	良好	密 長石	外面：タタキ、ナデ 内面：指ナデ、ユビオサエ	
61	製塩土器	SK-A204	口径：3.9 器高：6.8	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	良好	密 長石	外面：タタキ、ナデ 内面：ナデ	
62	製塩土器	SK-A204	口径：4.4 器高：7.3	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	良好	密 長石	外面：タタキ、ナデ 内面：板ナデ、ユビオサエ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（４）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
63	製塩土器	SK-A204	器高：4.9 底径：3.8	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1	良好	密 長石	外面：タタキ、ナデ 内面：指ナデ、ユビオサエ	
64	弥生土器 底部	SK-A204	器高：3.4 底径：5.0	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：褐灰 10YR5/1 断：褐灰 10YR5/1	良好	密 長石 石英 雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ	底外面に木葉圧痕あり
65	砥石	SK-A204	長　：11.2 幅　：8.3 厚　：5.2	－	－	－	－	
66	弥生土器 甕	SK-B302	口径：16.0 器高：4.8	外：黄褐 10YR5/6 内：黄褐 10YR5/6 断：黄褐 10YR5/6	良好	粗 長石 石英 雲母	外面：刻み目、ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ハケメ、ナデ	
67	弥生土器 底部	SK-B302	器高：6.4 底径：6.4	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：にぶい黄褐 10YR5/4 断：褐灰 10YR5/1	良好	粗 長石 雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ	底外面に木葉圧痕あり
68	弥生土器 底部	SK-B302	器高：5.2 底径：6.0	外：褐灰 10YR5/1 内：褐灰 10YR5/1 断：褐灰 10YR5/1	良好	粗 長石 石英 雲母	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	底部に穿孔あり
69	弥生土器 甕	SK-B302	口径：13.6 器高：22.4 底径：5.0	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：橙 7.5YR6/6	良好	粗 長石 石英 雲母	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	外面に煤付着
70	土製円板	SK-B302	長　：4.8 幅　：4.3 厚　：0.7	外：明褐 7.5YR5/8 内：明褐 7.5YR5/8 断：明褐 7.5YR5/8	良好	粗 長石	外面：ナデ、刻み目 内面：ユビオサエ	
71	弥生土器 甕	SK-B305	口径：15.8 器高：7.6	外：黄褐 10YR5/6 内：黄褐 10YR5/6 断：黄褐 10YR5/6	良好	粗 長石 石英 雲母	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、板ナデ	
72	弥生土器 底部	SK-B305	器高：7.0 底径：17.4	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1 断：褐灰 10YR6/1	良好	粗 長石 石英	外面：ヨコナデ、ユビオサエ 内面：ナデ	
73	弥生土器 底部	SK-B305	器高：3.8 底径：10.6	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR5/1 断：褐灰 10YR5/1	良好	粗 長石 石英	外面：ナデ 内面：ナデ	
74	弥生土器 底部	SK-B305	器高：2.5 底径：8.6	外：褐灰 10YR5/1 内：褐灰 10YR5/1 断：褐灰 10YR5/1	良好	粗 長石 石英	外面：ナデ 内面：ナデ、ユビオサエ	
75	須恵器 杯	Ａ区 第２層	口径：15.8 器高：2.9	外：灰白 10YR7/1 内：灰白 10YR7/1 断：灰白 10YR7/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
76	須恵器 蓋	Ａ区 第３層	口径：12.8 器高：4.7	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	つまみ径：2.0cm
77	須恵器 脚部	Ａ区 第３層	器高：2.6 底径：11.5	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1 断：褐灰 10YR6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
78	土師器 小型壺	Ａ区 第３層	口径：6.2 器高：3.6 底径：4.2	外：にぶい褐 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR6/4 断：にぶい褐 7.5YR6/4	良好	密 長石	外面：ナデ 内面：ナデ	
79	韓式系 軟質土器 甕	Ａ区 第３層	器高：8.4	外：にぶい褐 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR6/4 断：にぶい褐 7.5YR6/4	良好	密	外面：１条の沈線、タタキ 内面：ナデ	
80	韓式系 硬質土器 甕	Ａ区 第３層	器高：6.6	外：灰白 5Y7/2 内：灰オリーブ 5Y6/2 断：灰白 5Y7/2	やや 不良	密	外面：６条の沈線、縄蓆文 内面：板ナデ	
81	須恵器系 土師器 高杯 （杯部）	Ａ区 第４層	口径：19.2 器高：6.1	外：浅黄橙 7.5YR8/4 内：浅黄橙 7.5YR8/4 断：浅黄橙 7.5YR8/4	不良	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
82	須恵器系 土師器 高杯	Ａ区 第４層	器高：3.1 底径：14.0	外：灰白 10YR8/2 内：灰白 10YR8/2 断：灰白 10YR8/2	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	方形の透かし孔あり（２方向残）
83	須恵器 杯蓋	Ａ区 第４層	口径：13.3 器高：5.2	外：灰 N5/ 内：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（５）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
84	土師器 小型壺	Ａ区 第４層	口径：6.0 器高：4.7	外：にぶい褐 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR6/4	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
85	韓式系 軟質土器 甕	Ａ区 第４層	口径：20.5 器高：10.3	外：浅黄橙 10YR8/3 内：灰白 10YR8/2 断：灰白 10YR8/2	良好	密	外面：ヨコナデ、タタキ、１条の沈線 内面：ヨコナデ、ユビオサエ	
86	土師器 甕	Ａ区 第５層	口径：18.4 器高：6.5	外：褐灰 10YR6/1 内：褐灰 10YR6/1 断：褐灰 10YR6/1	良好	密	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ナデ	
87	土師器 甕	Ａ区 第５層	口径：18.2 器高：9.4	外：赤褐 5YR4/6 内：赤褐 5YR4/6 断：赤褐 5YR4/6	良好	密	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	
88	須恵器系 土師器 高杯 （脚部）	Ａ区 第５層	器高：8.0 底径：11.6	外：灰黄褐 10YR5/2 内：黄褐 10YR5/6 断：灰黄褐 10YR5/2	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
89	初期須恵器 杯身	Ａ区 第５層	口径：9.1 器高：4.9	外：灰 N5/ 内：灰 N6/	良好	密	外面：回転ナデ 内面：ナデ	
90	須恵器 高杯 （杯部）	Ａ区 第５層	口径：13.4 器高：4.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
91	須恵器 杯	Ａ区 第５層	口径：15.0 器高：4.1	外：灰白 10YR7/1 内：灰白 10YR7/1 断：灰白 10YR7/1	堅緻	密	外面：回転ナデ、カキメ 内面：回転ナデ	
92	須恵器 杯	Ａ区 第５層	口径：17.0 器高：3.4	外：灰白 10YR8/2 内：灰白 10YR8/2 断：灰白 10YR8/2	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
93	滑石製 有孔円板	Ａ区 第５層	長　：2.8 幅　：3.1 厚　：0.5	－	－	－	－	
94	石包丁	Ｂ区 第５層	長　：5.8 幅　：10.6 厚　：0.6	－	－	－	－	
95	縄文土器	Ａ区 攪乱	器高：4.3	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1 断：灰白 10YR8/1	やや不良	粗 長石	外面：ナデ、爪形文 内面：ナデ	
96	須恵器系 土師器 高杯	Ａ区 攪乱	器高：9.8 底径：11.7	外：灰白 10YR8/1 内：灰白 10YR8/1 断：灰白 10YR8/1	不良	密	外面：ナデ 内面：ナデ	方形の透かし孔あり（２方向残） 内外面に黒班あり
97	須恵器 脚部	Ａ区 攪乱	口径：20.9 器高：2.1	外：灰 5Y6/1 内：褐灰 10YR5/1 断：褐灰 10YR5/1	良好	密	外面：波状文、回転ナデ 内面：回転ナデ	
98	須恵器 甕	Ａ区 攪乱	口径：20.8 器高：3.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ、タタキ 内面：回転ナデ	
99	瓦器椀	SD-A101	口径：11.0 器高：2.5	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰白 N8/	やや不良	密	外面：ユビオサエ、口淵端部に沈線 内面：暗文	
100	瓦器椀	SD-A101	口径：10.8 器高：2.6	外：灰白～灰 N7/～N6/ 内：灰 N6/ 断：灰白 N8/	良好	密	外面：ユビオサエ、口淵端部に沈線 内面：暗文	
101	瓦器椀	SD-A101	口径：10.6 器高：4.6	外：灰白 2.5Y7/1 内：灰白 2.5Y8/2 断：灰白 N8/	良好	密	外面：ユビオサエ、口淵端部に沈線 内面：暗文	
102	韓式系 軟質土器	SD-A105	残長：4.4 厚　：0.6	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4 断：にぶい褐 7.5YR5/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ、２条の沈線 内面：ナデ	
103	砥石	SX-A101	長　：8.8 幅　：3.8 厚　：3.6	外：灰白 2.5Y8/2 内：灰白 2.5Y8/2 断：灰白 2.5Y8/2	－	－	－	5㎜の孔
104	銭貨 元祐通寶	SX-A101	径　：2.5 厚　：0.15	外：オリーブ黒 7.5Y3/2 内：オリーブ黒 7.5Y3/2 断：オリーブ黒 7.5Y3/2	－	－	－	北宋銭 (1086)

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（６）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
105	土師器 小皿	SX-B101	口径：8.8 器高：1.0	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/3 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	「て字状」口縁
106	韓式系 軟質土器 甑	SX-B101	残長：4.2 残幅：4.2 厚　：0.6	外：明褐 7.5YR5/6 内：明褐 7.5YR5/6 断：明褐 7.5YR5/6	良好	密 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ 内面：ナデ	
107	韓式系 軟質土器 甑	SX-B101	残長：4.9 残幅：4.6 厚　：0.5	外：にぶい黄橙 10YR7/2 内：褐灰 10YR5/1 断：にぶい黄橙 10YR7/2	良好	密 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ 内面：ナデ	
108	韓式系 硬質土器	SX-B101	残長：8.8 残幅：8.2 厚　：1.2	外：青灰 5B6/1 内：青灰 5B6/1 断：青灰 5B6/1	堅緻	密	外面：鳥足文タタキ 内面：ナデ	
109	土製 紡錘車	SX-B101	径　：4.0 厚　：2.8	外：にぶい黄橙 10YR7/2 内：にぶい黄橙 10YR7/2 断：にぶい黄橙 10YR7/2	良好	密 長石 金雲母	外面：ナデ	
110	瓦器椀	鋤 B110	口径：14.8 器高：4.2	外：灰 N4/ 内：灰 N4/ 断：灰白 N7/	良好	密	外面：ユビオサエ、暗文 内面：暗文、沈線	
111	弥生土器 壺	SD-A202 上層	口径：21.2 器高：6.2	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR6/4 断：にぶい黄橙 10YR6/4	良好	密 石英 長石 角閃石	外面：ハケメ、タタキ、沈線 内面：ハケメ、ヘラミガキ	
112	縄文土器 鉢	SD-A202 上層	口径：18.4 器高：2.6	外：褐灰 7.5YR4/1 内：褐灰 7.5YR4/1 断：褐灰 7.5YR4/1	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：刻目 内面：ナデ	
113	弥生土器 底部	SD-A202	器高：9.0 底径：6.0	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/4	良好	密 石英 長石	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	黒斑あり
114	弥生土器 高杯	SD-A202 下層	頸部径：4.6	外：にぶい赤橙 10R6/6 内：にぶい赤橙 10R6/6 脚部裏：(赤黒 10R2/1) 断：にぶい赤橙 10R6/6	良好	密 石英 長石	外面：ナデ 内面：ナデ	
115	須恵器系 土師器 高杯 (杯身)	SD-A203	口径：26.2 器高：8.0	外：橙 5YR7/8 内：橙 5YR7/8 断：橙 5YR7/8	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母 クサリ 礫	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	
116	須恵器 杯身	SD-A203	口径：11.6 器高：3.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
117	須恵器系 土師器 杯身	SD-A207	口径：10.6 器高：4.2	外：浅黄橙 7.5YR8/4 内：浅黄橙 7.5YR8/4 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
118	須恵器 杯身	SD-A207	口径：10.6 器高：5.2	外：灰 N4/ 内：灰 N4/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	底外面にヘラ記号あり
119	須恵器系 土師器 甕	SD-A207	頸部径：6.0 器高：7.6	外：浅黄橙 7.5YR8/4 内：浅黄橙 7.5YR8/4 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密 石英 長石 金雲母 クサリ 礫	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
120	須恵器 甕	SD-A207	口径：11.2 頸部径：6.2 器高：10.6	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰赤 7.5YR6/2	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	自然釉、自然灰 置き台痕跡、窯壁付着？
121	弥生土器 底部	SK-A204	器高：6.6 底径：8.8	外：赤褐 2.5YR4/6 内：にぶい赤橙 10YR6/4 断：半々	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：ナデ 内面：剥離	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（７）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
122	弥生土器 底部	SK-A205	器高：2.8 底径：7.0	外：褐灰 10YR4/ 内：褐灰 10YR5/ 断：褐灰 10YR5/	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	底外面に木葉圧痕あり 底部に穿孔あり
123	弥生土器 鉢系	SK-A207	器高：6.2 底径：5.2	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/4	良好	密 石英 長石 角閃石	外面：ナデ 内面：ナデ	
124	須恵器 杯身	SK-A208	口径：12.8 器高：4.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
125	須恵器 高杯 (脚部)	SK-A208	器高：4.6 底径：10.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：自然灰	方形の透かし孔あり（３方向）
126	須恵器 杯身	SK-A210	口径：12.6 器高：3.2	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
127	土師器 甕	SK-A212	口径：14.6 器高：3.2	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/4	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ナデ 内面：ハケメ	
128	須恵器 甕	SK-A213	頸部径：4.4 胴部径： 10.0 器高：13.6	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
129	土師器 甕	SK-A214	口径：19.6 器高：8.8	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6	良好	密 石英 長石 金雲母 クサリ 礫	外面：ハケメ 内面：ナデ	
130	須恵器系 土師器 高杯 (杯身)	SK-A214	口径：18.2 器高：5.6	外：黄橙 10YR8/6 内：明黄橙 10YR7/6 断：黄橙 10YR8/6	良好	密 角閃石 金雲母	外面：ナデ 内面：ナデ	
131	須恵器 杯身	SK-A214	口径：12.0 器高：4.6	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
132	韓式系 軟質土器	SK-A214	残長：5.7 残幅：3.4 厚さ：0.6	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3 断：にぶい黄橙 10YR7/3	良好	密 長石 角閃石 金雲母	外面：格子タタキ 内面：ナデ	
133	土玉	SK-A216	径　：0.9	外：にぶい橙 5YR7/4 内：にぶい橙 5YR7/4 断：にぶい橙 5YR7/4	良好	密	外面：ナデ	2㎜の孔
134	土師器 壺	SK-A219	口径：8.0 器高：2.4	外：淡黄 2.5Y8/3 内：淡黄 2.5Y8/3 断：淡黄 2.5Y8/3	良好	密 クサリ 礫	外面：ナデ 内面：ナデ	
135	須恵器 杯身	SK-A231	口径：12.2 器高：3.8	外：黄灰 2.5Y6/1 内：黄灰 2.5Y6/1 断：黄灰 2.5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
136	土師器 甕	SP-A210	口径：12.2 器高：3.8	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：にぶい褐 7.5YR6/3 断：にぶい褐 7.5YR6/3	良好	密 石英 長石	外面：ハケメ 内面：ハケメ	口縁部内面に煤付着 頸部内面に黒色物質付着
137	須恵器 杯蓋	SP-A210	口径：14.8 器高：4.2	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ、列点文 内面：回転ナデ	
138	須恵器 杯身	SP-A216	口径：12.4 器高：3.4	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
139	韓式系 硬質土器 甑	SP-A278	器高：3.8 底径：13.8	外：灰白 7.5Y7/1 内：灰白 7.5Y7/1 断：灰白 7.5Y7/1	堅緻	密	外面：タタキ 内面：ナデ	底部に穿孔あり
140	須恵器 杯身	SP-A2103	口径：12.0 器高：4.4	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（８）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
141	土師器 長胴甕	SI-A201	口径：20.2 頸部径：18.0 胴部径：27.4 器高：38.4	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ、ユビオサエ	黒斑あり 内面の粘土紐痕が明瞭
142	韓式系 軟質土器 甑	SK-B202	残長：2.9 残幅：3.3 厚　：0.5	外：明褐 7.5Y5/6 内：明褐 7.5Y5/6 断：褐灰 7.5YR4/1	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ 内面：ナデ	
143	須恵器系 土師器 杯身	SK-B203	口径：15.0 器高：4.8	外：浅黄橙 10YR8/4 内：浅黄橙 10YR8/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：ナデ 内面：ナデ	
144	須恵器 高杯 (脚部)	SK-B203	口径：10.0 器高：8.6	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：カキメ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
145	韓式系 軟質土器 甑	SK-B203	残長：4.7 残幅：5.2 厚　：0.4	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい橙 7.5YR6/4 断：にぶい橙 7.5YR6/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：斜格子タタキ 内面：ナデ	
146	滑石製 双孔円板	SK-B203	径：3.3 厚：0.5	－	－	－	－	2㎜の孔
147	弥生土器 底部	SK-B204	器高：6.0 底径：9.6	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/3 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密 石英 長石 クサリ 礫	外面：ナデ 内面：ナデ	外面に黒斑あり
148	弥生土器 鉢	SK-B204	器高：5.4 底径：6.8	外：淡橙 5YR8/3 内：黒 N2/ 断：黒 N2/	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ナデ 内面：ナデ	
149	須恵器系 土師器 高杯 (杯身)	SK-B205	口径：20.0 器高：5.0	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR7/6 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母 クサリ 礫	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面に黒斑あり
150	須恵器系 土師器 高杯 (杯身)	SK-B205	口径：18.4 器高：5.0	外：橙 5YR7/6 内：橙 5YR7/6 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密 石英 長石 金雲母 クサリ 礫	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	脚部接合部に刻み目あり 外面わずかに黒斑あり
151	韓式系 軟質土器 甕	SK-B207	口径：18.4 器高：11.6	外：浅黄 2.5Y7/3 内：浅黄 2.5Y7/3 断：浅黄 2.5Y7/3	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ 内面：ナデ	
152	製塩土器	SK-B218	口径：4.6 器高：2.4	外：浅黄橙 7.5YR8/4 内：浅黄橙 7.5YR8/4 断：浅黄橙 7.5YR8/4	良好	密	外面：タタキ 内面：ナデ	SB-B101 ？
153	須恵器 杯身	SK-B222	口径：12.0 器高：3.0	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
154	須恵器 杯身	SK-B223	口径：12.4 器高：3.2	外：灰 N6/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
155	須恵器 杯身	SP-B2103	口径：12.4 器高：2.8	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰褐 5YR5/2	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	SB-B101
156	初期須恵器 高杯蓋	SP-B2104	厚：0.6	外：灰 N5/0 内：灰 N5/0 断：灰赤 10R5/2	堅緻	密	外面：波状文 内面：回転ナデ	SB-B101

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（９）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
157	須恵器系土師器高杯(杯身)	SP-B2143	口径：28.8 器高：2.6	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6	良好	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	SB-B102
158	土師器甕	SP-B2146	口径：17.6 器高：5.8	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：にぶい黄橙 10YR6/3 断：にぶい黄橙 10YR6/3	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ	SB-B102
159	須恵器蓋	SP-B2146	口径：11.0 器高：5.2	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	SB-B102
160	須恵器高杯(脚部)	SP-B2146	器高：5.6 底径：8.4	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1 断：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	SB-B102 円形の透かし孔あり（４方向）
161	須恵器系土師器高杯(脚部)	SP-B242	器高：9.0 底径：12.0	外：浅黄橙 7.5YR8/6 内：浅黄橙 7.5YR8/6 断：浅黄橙 7.5YR8/6	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
162	石錐	SP-B203	長　：2.8 幅　：1.4 厚　：0.5	－	－	－	－	上部欠損 サヌカイト
163	弥生土器鉢	SP-B291	口径：14.8 器高：5.4	外：橙 5YR6/8 内：橙 5YR6/8 断：黒褐 10YR3/1	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：列点文 内面：ナデ	
164	土師器壺	第Ⅱ層	口径：18.4 器高：5.0	外：灰白 10YR8/2 内：灰白 10YR8/2 断：灰白 10YR8/2	良好	密 石英 長石	外面：ナデ 内面：ナデ	
165	須恵器系土師器杯身	第Ⅱ層	受部径：11.8	外：橙 5YR7/8 内：橙 5YR7/8 断：淡橙 5YR8/3	良好	密 石英 長石 角閃石	外面：僅かに回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
166	須恵器高杯(脚部)	第Ⅱ層	器高：5.8 底径：8.4	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：カキメ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
167	韓式系軟質土器甕	第Ⅱ層	長　：3.5 幅　：4.3 厚　：0.6	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6 断：橙 7.5YR6/6	良好	密 長石 角閃石 金雲母	外面：斜格子タタキ 内面：ナデ	
168	韓式系硬質土器	第Ⅱ層	長　：5.2 幅　：4.6 厚　：0.8	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：格子状タタキ 沈線 内面：ナデ	
169	石鏃	第Ⅱ層	長　：2.4 幅　：1.5 厚　：0.4	－	－	－	－	サヌカイト
170	石鏃	第Ⅱ層	長　：2.2 幅　：1.3 厚　：0.3	－	－	－	－	サヌカイト
171	土師器壺	第Ⅲ層	頸部径：9.2 胴部径：13.2 器高：8.4	外：橙 2.5YR6/6 内：橙 2.5YR7/6 断：淡赤橙 2.5YR7/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
172	土師器甕	第Ⅲ層	口径：15.0 器高：5.0	外：オリーブ黒 7.5Y3/1 内：灰白 7.5Y7/2 断：にぶい橙 7.5YR6/4	良好	密 石英 長石 金雲母 クサリ礫	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
173	土師器甕	第Ⅲ層	口径：18.6 器高：8.4	外：明黄褐 10YR7/6 内：明黄褐 10YR7/6 断：明黄褐 10YR7/6	良好	密 石英 長石 クサリ礫	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	体部外面に黒斑あり
174	土師器甕	第Ⅲ層	口径：20.0 器高：9.4	外：明黄褐 10YR6/6 内：明黄褐 10YR6/6 断：明黄褐 10YR6/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ	

第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（10）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
175	土師器 甕	第Ⅲ層	口径：17.2 器高：8.4	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ	
176	土師器 甕	第Ⅲ層	口径：14.0 器高：7.0	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6	良好	密 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
177	土師器 甕	第Ⅲ層	口径：14.8 器高：4.4	外：にぶい褐 7.5YR5/3 内：にぶい褐 7.5YR5/3 断：にぶい褐 7.5YR5/3	良好	密 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
178	土師器 甕	第Ⅲ層	口径：10.8 器高：4.8	外：明黄褐 10YR7/6 内：明黄褐 10YR7/6 断：明黄褐 10YR7/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
179	須恵器系 土師器 高杯 (杯身)	第Ⅲ層	口径：17.4 器高：5.0	外：浅黄橙 7.5YR8/6 内：浅黄橙 7.5YR8/6 断：浅黄橙 7.5YR8/6	良好	密 長石 クサリ 礫	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
180	土師器 高杯 (脚部)	第Ⅲ層	器高：10.8 底径：13.8	外：橙 5YR6/6 内：橙 5YR6/6 断：橙 5YR6/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
181	土師器 高杯 (脚部)	第Ⅲ層	器高：5.2 底径：9.4	外：橙 2.5YR7/6 内：橙 2.5YR7/6 断：淡橙 5YR8/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：ヘラナデ 内面：粗いタタキ状ハケメ	端部に黒斑あり
182	土師器 高杯 (脚部)	第Ⅲ層	器高：7.2 底径：9.8	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：ヘラナデ 内面：ハケメ、シボリ目	
183	須恵器系 土師器 高杯 (脚部)	第Ⅲ層	器高：3.4 底径：11.6	外：黄橙 7.5YR7/8 内：黄橙 7.5YR7/8 断：浅黄橙 7.5YR8/6	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
184	土師器 コップ形 土器	第Ⅲ層	口径：7.0 器高：3.2	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：にぶい黄橙 10YR7/3 断：黒褐 10YR3/2	良好	密 石英 長石 角閃石	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
185	初期須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：16.6 器高：3.6	外：赤灰 2.5YR6/1 内：赤灰 2.5YR6/1 断：赤灰 2.5YR6/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面に自然灰付着
186	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：12.2 器高：4.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/ （中：赤灰 10R6/2）	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
187	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：12.6 器高：4.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
188	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：14.0 器高：4.4	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面に自然釉あり
189	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：12.4 器高：5.0	外：灰 5Y6/1 内：灰 N6/ 断：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
190	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：15.8 器高：5.0	外：灰 10Y6/1 内：灰オリーブ 5Y6/2 断：灰 10Y6/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
191	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：15.2 器高：5.0	外：灰 10Y6/1 内：灰オリーブ 5Y6/2 断：灰 10Y6/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	２条一対の線刻が２か所あり
192	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：16.6 器高：4.0	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
193	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：15.4 器高：5.0	外：灰 7.5Y6/0 内：灰 7.5Y6/0 断：灰 7.5Y6/0	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	

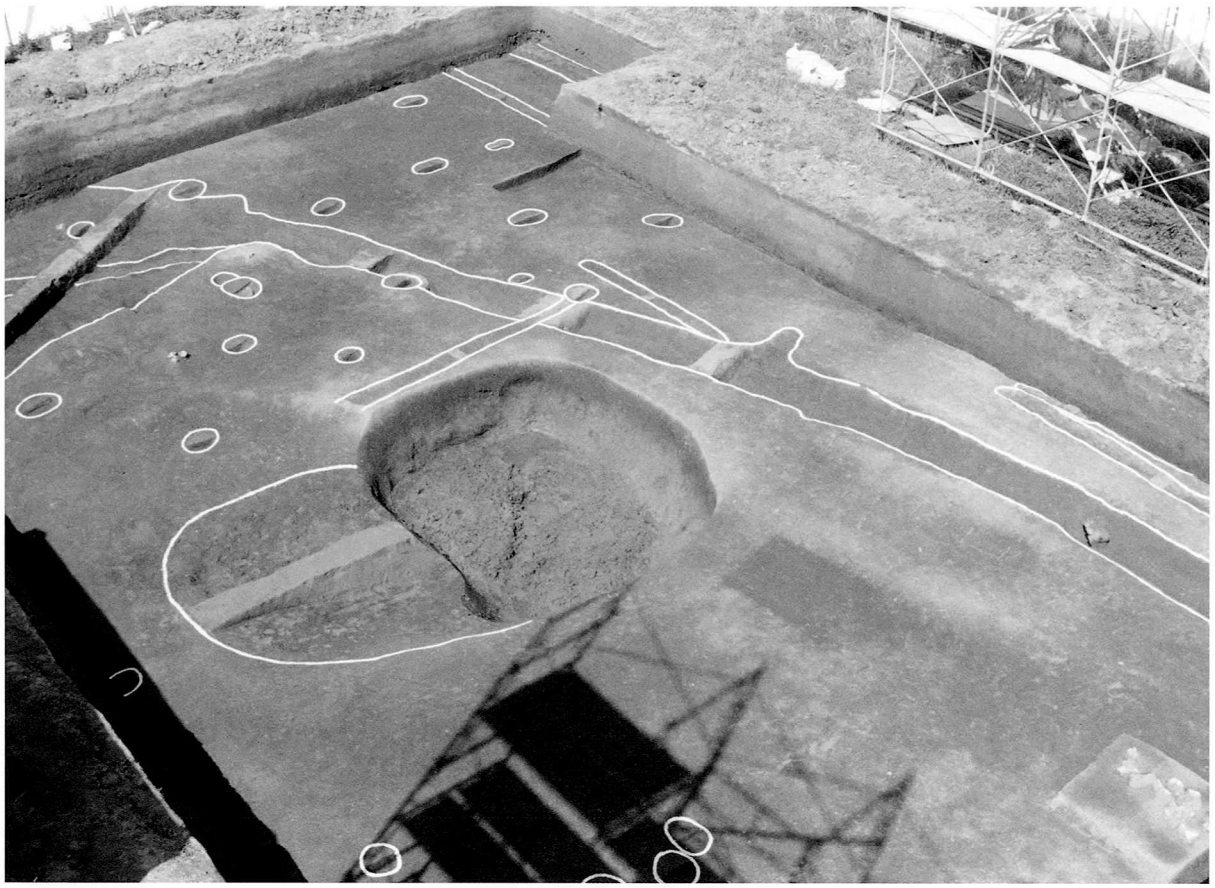
第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（11）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
194	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径：13.6 器高：3.4	外：灰 N5/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
195	須恵器 高杯蓋	第Ⅲ層	口径：12.8 器高：5.4	外：灰 N6/ 内：灰 N5/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
196	須恵器 高杯蓋	第Ⅲ層	口径：14.0 器高：5.4	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
197	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：10.6 器高：4.0	外：灰 5Y6/1 内：灰 5Y6/1 断：灰 5Y6/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
198	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：11.0 器高：3.6	外：灰 N5/ 内：灰赤 2.5YR5/2 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	一部に自然灰付着 杯蓋片溶着
199	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：13.6 器高：5.0	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
200	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：13.0 器高：4.6	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
201	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：14.2 器高：4.4	外：灰 N6/ 内：灰 N5/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
202	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：14.0 器高：4.8	外：灰白 7.5Y7/1 内：灰白 7.5Y7/1 断：灰白 7.5Y7/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
203	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：13.6 器高：5.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
204	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：12.2 器高：3.4	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	
205	須恵器 杯身	第Ⅲ層	口径：10.0 器高：3.6	外：灰白 7.5Y7/1 内：灰白 7.5Y7/1 断：灰白 7.5Y7/1	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	底外面にヘラ記号あり
206	須恵器 杯身	第Ⅲ層	器高：2.2 底径：11.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
207	須恵器 杯身	第Ⅲ層	器高：2.2 底径：10.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
208	須恵器 杯身	第Ⅲ層	器高：2.2 底径：17.2	外：灰白 2.5GY8/1 内：灰白 2.5GY8/1 断：灰白 2.5GY8/1	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
209	須恵器 壺	第Ⅲ層	器高：4.8 底径：9.8	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/ （内：灰赤 7.5R5/2）	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
210	須恵器 甕	第Ⅲ層	口径：15.8 器高：7.2	外：灰白 N8/ 内：灰白 N8/ 断：灰白 N8/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面と頸部外面に自然釉あり
211	須恵器 高杯 （杯身）	第Ⅲ層	口径：16.0 器高：5.6	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面わずかに自然灰付着 置き跡？
212	須恵器 高杯 （脚部）	第Ⅲ層	器高：4.6 底径：8.4	外：灰 N6/ 内：青灰 5B6/1 断：灰赤 7.5R5/2	堅緻	密	外面：カキメ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
213	須恵器 高杯 （脚部）	第Ⅲ層	器高：4.4 底径：8.4	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：不明瞭なカキメ 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
214	須恵器 高杯 （脚部）	第Ⅲ層	器高：3.8 底径：8.8	外：灰 N5/ 内：灰 N5/ 断：灰 N5/	堅緻	密	外面：端部に沈線 内面：回転ナデ	方形の透かし孔あり（３方向）
215	須恵器 高杯 （脚部）	第Ⅲ層	口径：11.0 器高：4.0	外：灰白 N7/ 内：灰白 N7/ 断：灰白 N7/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	

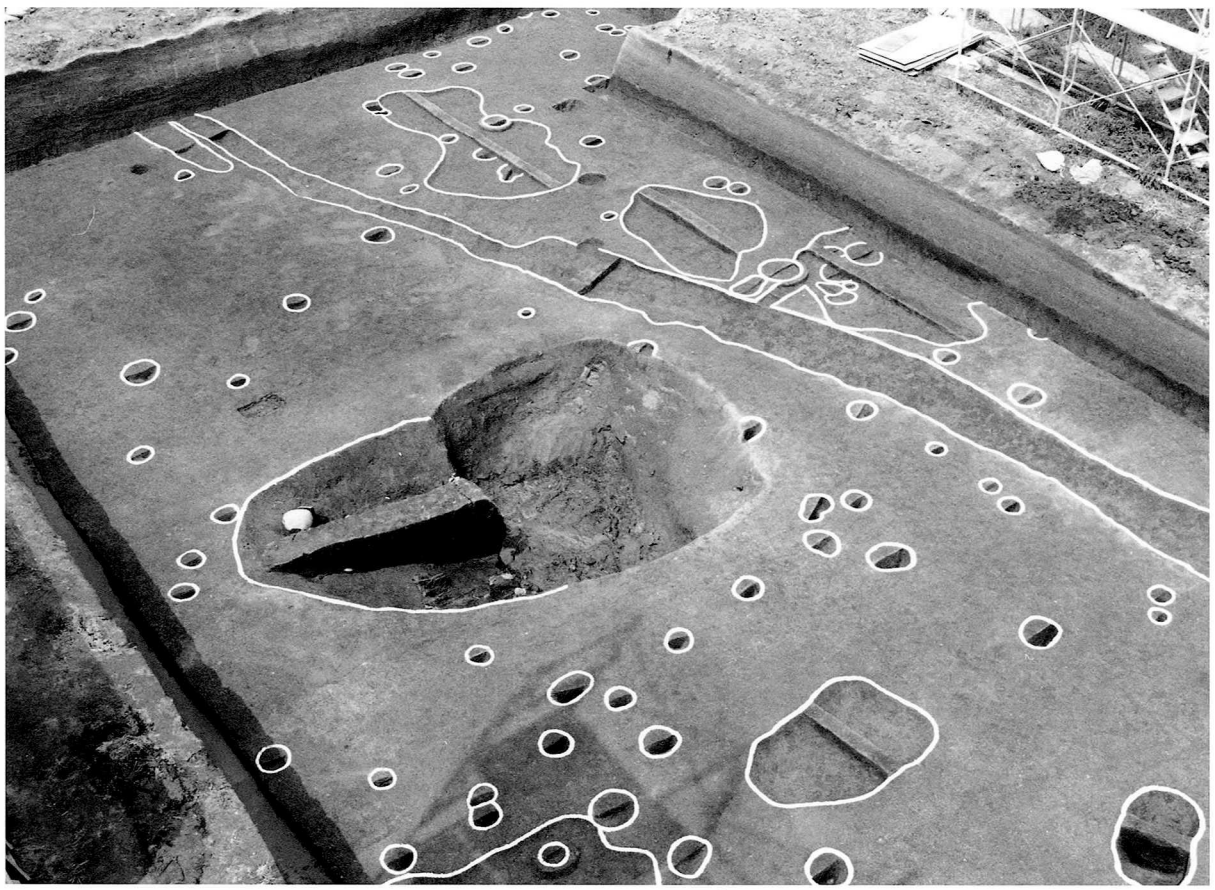
第１表　ＨＪＮ９４－１・９６－１調査出土遺物一覧表（12）

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
216	須恵器 高杯 (脚部)	第Ⅲ層	口径：15.0 器高：8.0	外：灰 N5/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：若干、カキメ 内面：回転ナデ	
217	初期須恵器 樽形瓶	第Ⅲ層	側面径： 11.2	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
218	韓式系 硬質土器	第Ⅲ層	長　：6.6 幅　：3.6 厚　：1.1	外：赤灰 7.5R6/2 内：灰 N6/ 断：赤灰 7.5R6/2	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
219	韓式系 軟質土器 甑	第Ⅲ層	長　：5.3 幅　：5.8 厚　：0.7	外：橙 7.5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6 断：橙 7.5YR6/6	良好	密 長石 角閃石 金雲母	外面：タタキ、沈線 内面：ナデ	
220	韓式系 軟質土器 甑	第Ⅲ層	長　：3.7 幅　：3.5 厚　：0.6	外：明褐 7.5YR5/6 内：明褐 7.5YR5/6 断：明褐 7.5YR5/6	良好	密 石英 長石 金雲母	外面：タタキ、沈線 内面：ナデ	
221	製塩土器	第Ⅲ層	口径：4.6 器高：3.0	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/3 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	洗練された胎土
222	製塩土器	第Ⅲ層	口径：4.0 器高：2.8	外：浅黄橙 7.5YR8/6 内：浅黄橙 7.5YR8/6 断：浅黄橙 7.5YR8/6	良好	密 クサリ 礫	外面：ナデ 内面：ナデ	
223	製塩土器	第Ⅲ層	胴部径：5.2 器高：4.4	外：灰白 5Y7/2 内：灰白 5Y7/2 断：灰白 5Y7/2	良好	密	外面：タタキ 内面：ナデ	
224	製塩土器	第Ⅲ層	胴部径：6.2 器高：3.8	外：灰白 10YR8/2 内：灰白 10YR8/2 断：灰白 10YR8/2	良好	密 石英 長石	外面：タタキ 内面：ナデ	
225	製塩土器	第Ⅲ層	口径：11.4 器高：5.2	外：橙 5YR7/8 内：橙 5YR7/8 断：橙 5YR7/8	良好	密 石英 長石 角閃石	外面：ナデ 内面：ユビオサエ	
226	滑石製 紡錘車	第Ⅲ層	径　：4.2 厚　：0.9	－	－	－	－	使用痕
227	砥石	第Ⅲ層	長　：30.6 幅　：5.6 厚　：5.0	－	－	－	－	使用痕 黒色物付着
228	縄文土器	Ａ区 掘削残土	長　：9.4 幅　：9.0 厚　：0.6	外：灰白 10YR8/2 内：にぶい橙 7.5YR7/4 断：灰白 10YR8/2	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母 クサリ 礫	外面：ナデ、半裁竹管による沈線 内面：ナデ	後期
229	土師器 小型壺	Ａ区 側溝	口径：8.6 頸部径：8.0 胴部径：9.4 器高：8.4	外：橙 7.5YR7/6 内：橙 7.5YR7/6	良好	密 石英 長石 角閃石 クサリ 礫	外面：ナデ 内面：ナデ	外面が摩耗
230	土師器 小型壺	Ｂ区 側溝	口径：9.0 頸部径：7.8 胴部径：9.4 器高：8.0	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/4	良好	密 石英 長石 角閃石 金雲母	外面：ハケメ 内面：ナデ、明瞭な粘土紐痕	外面の口縁から底部にかけて黒班あり
231	須恵器 杯蓋	Ａ区 側溝	口径：12.8 器高：4.4	外：灰 N6/ 内：灰 N6/ 断：灰 N6/	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内面に黒色物質あり
232	韓式系 軟質土器 甑	Ａ区 側溝	長　：5.6 幅　：6.6 厚　：0.8	外：浅黄橙 10YR8/3 内：浅黄橙 10YR8/3 断：浅黄橙 10YR8/3	良好	密 石英 長石 クサリ 礫	外面：タタキ 内面：ナデ	
233	打製石鏃	Ａ区 掘削残土	長　：17.6 幅　：15.6 厚　：3.2	－	－	－	－	

図版１　ＨＪＮ９４－１　遺構（１）



１．Ａ区第１遺構面全景（南西より）

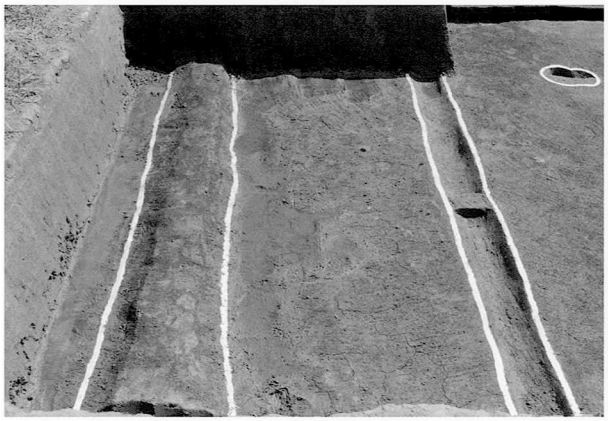


２．Ａ区第２遺構面全景（南西より）

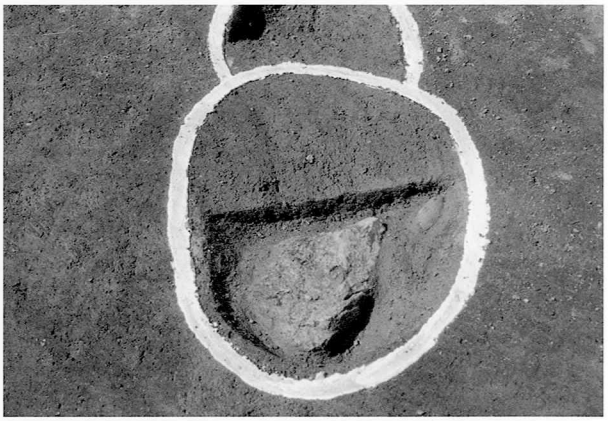
図版２　ＨＪＮ９４－１　遺構（２）

１．ＳＤ－Ａ１０１出土遺物

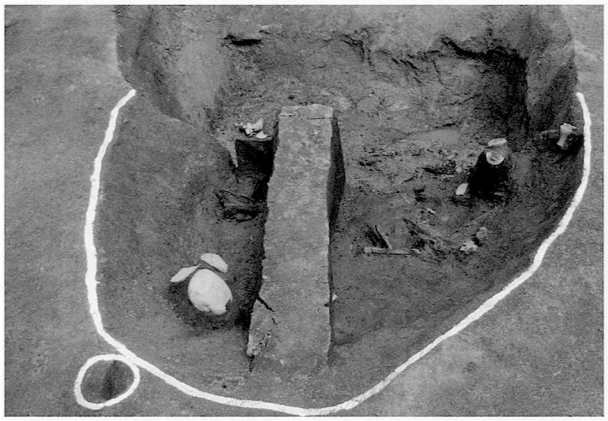
２．ＳＫ－Ａ１０１（南より）



３．畦畔（北より）

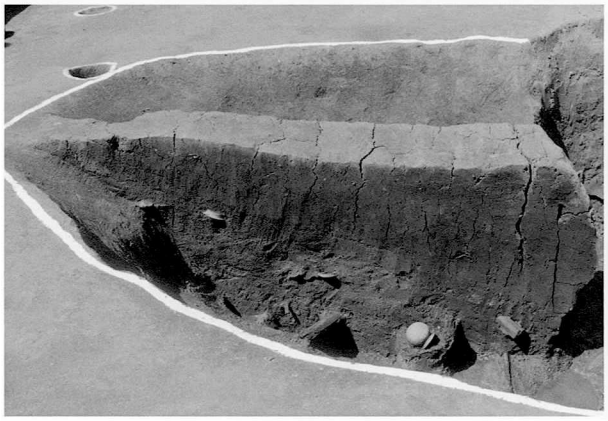


４．ＳＰ－Ａ１１２根石（南より）

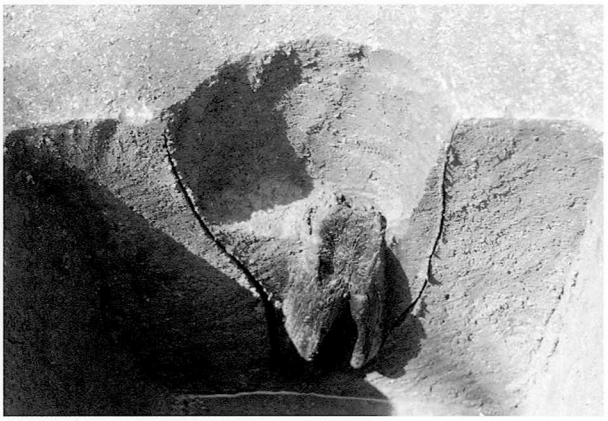


５．ＳＫ－Ａ２０４上層（西より）

６．ＳＫ－Ａ２０４上層遺物出土状況



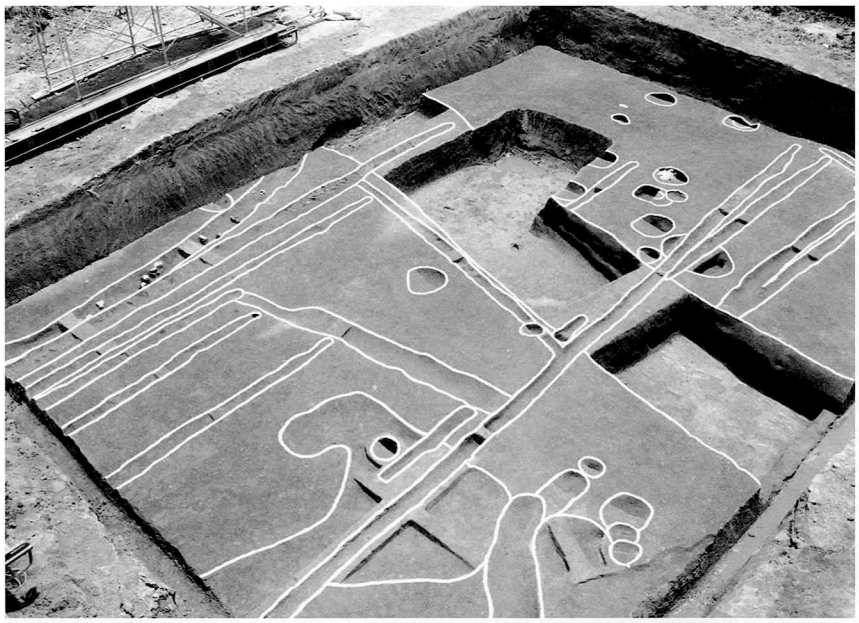
７．ＳＫ－Ａ２０４下層（南より）



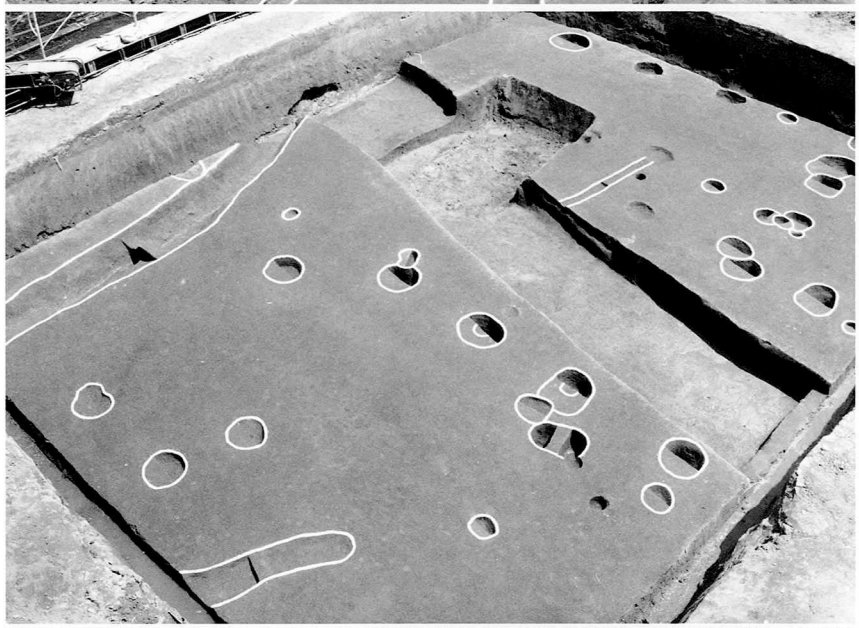
８．ＳＰ－Ａ２５４柱材（南より）

図版３　ＨＪＮ９４－１　遺構（３）

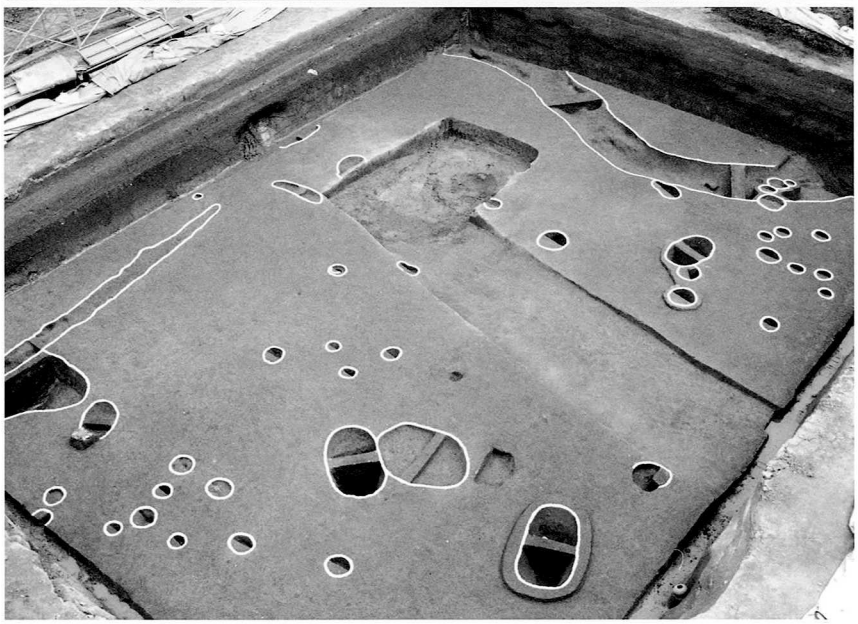
１．Ｂ区第１遺構面全景
（北西より）



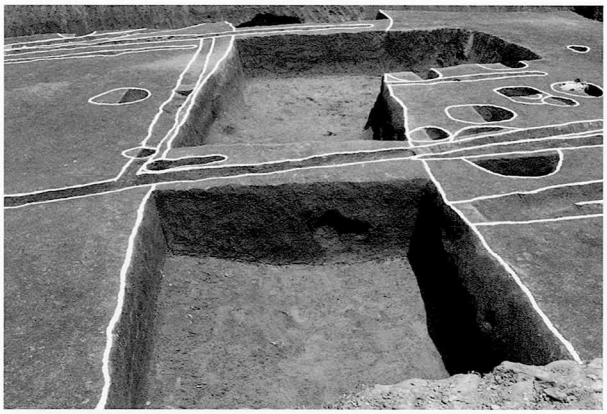
２．Ｂ区第２遺構面全景
（北西より）



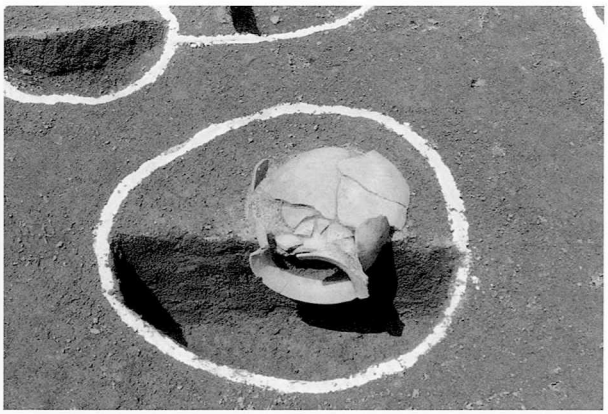
３．Ｂ区第３遺構面全景
（北西より）



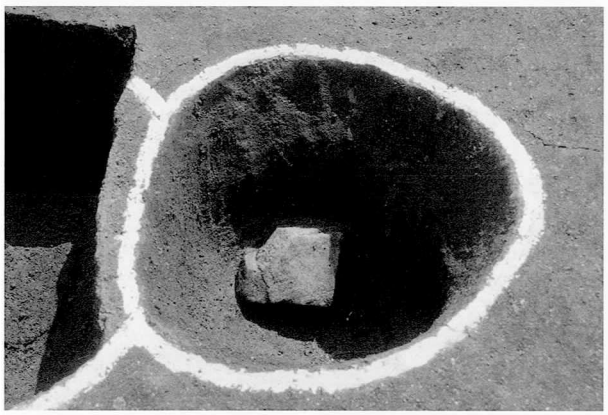
図版4　HJN94－1　遺構（4）



1．ＳＤ－Ｂ１０２（西より）

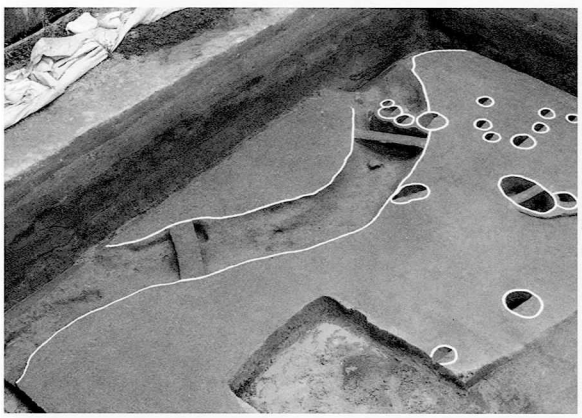


2．ＳＰ－Ｂ１１２遺物出土状況（南より）



3．ＳＰ－Ｂ２２２根石（南より）

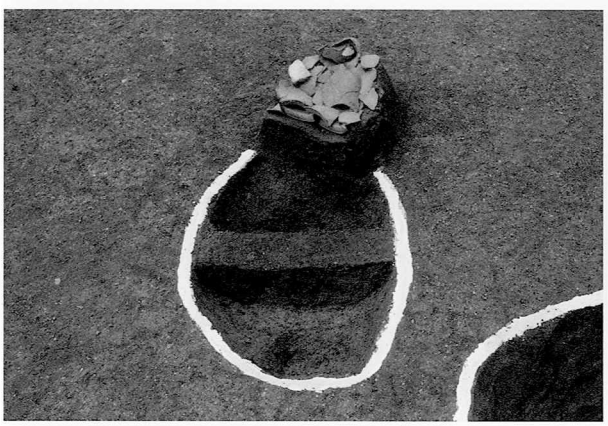
4．ＳＰ－Ｂ２３６柱材（東より）



5．ＳＤ－Ｂ３０３（北東より）

6．ＳＫ－Ｂ３０１（南西より）

7．ＳＫ－Ｂ３０１柱材



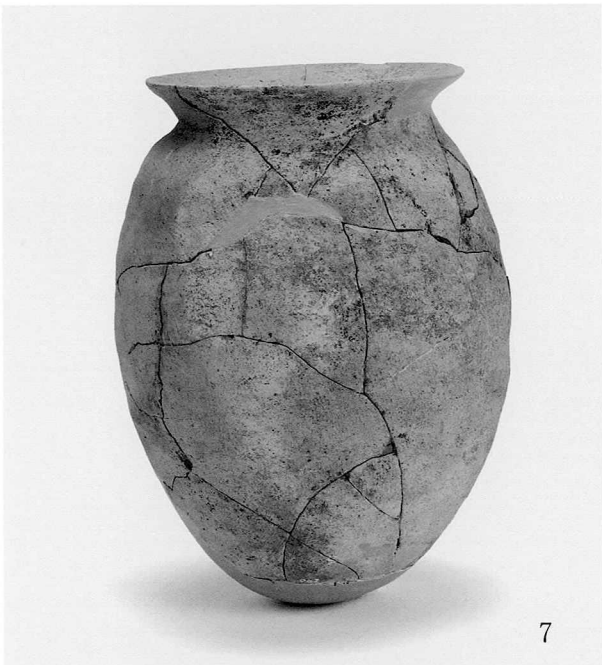
8．ＳＫ－Ｂ３０２（南より）

9．ＳＫ－Ｂ３０５（北より）

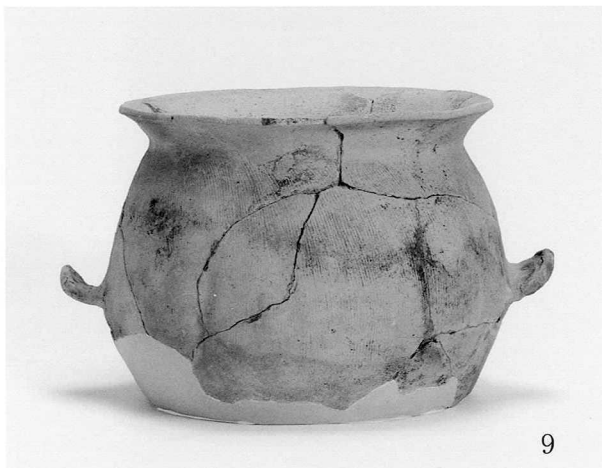
図版5　HJN94－1　出土遺物（1）

1．瓦器　皿

2．須恵器　杯



3．土師器　長胴甕



4．土師器　鍋

5．須恵器　杯

6．須恵器　杯

7．須恵器　杯蓋

8．須恵器　杯身

9．土師器　小型壺

図版6　HJN94－1　出土遺物（2）

1．土師器　小型壺

2．須恵器系土師器　高杯

3．須恵器系土師器　高杯

4．須恵器　杯蓋

5．須恵器　蓋

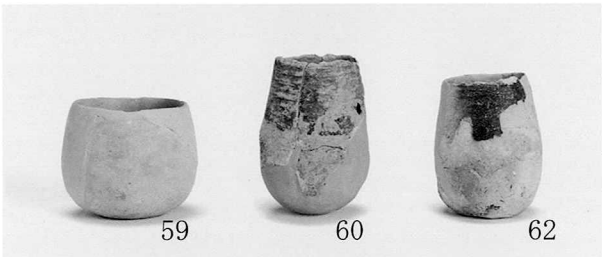
6．須恵器　杯身

7．須恵器　高杯

8．須恵器　高杯

図版7　HJN94－1　出土遺物（3）

1．土師器　小型鉢



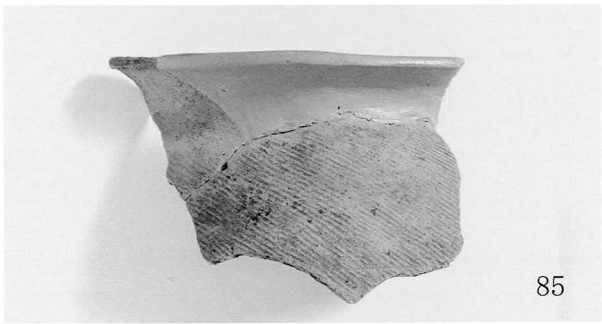
2．土師器　椀（59）、製塩土器（60・62）

3．砥石

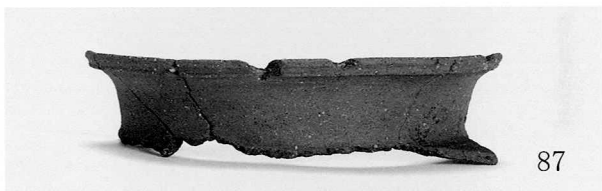
4．弥生土器　甕

5．須恵器　蓋

6．土師器　小型壺



7．韓式系軟質土器　甕

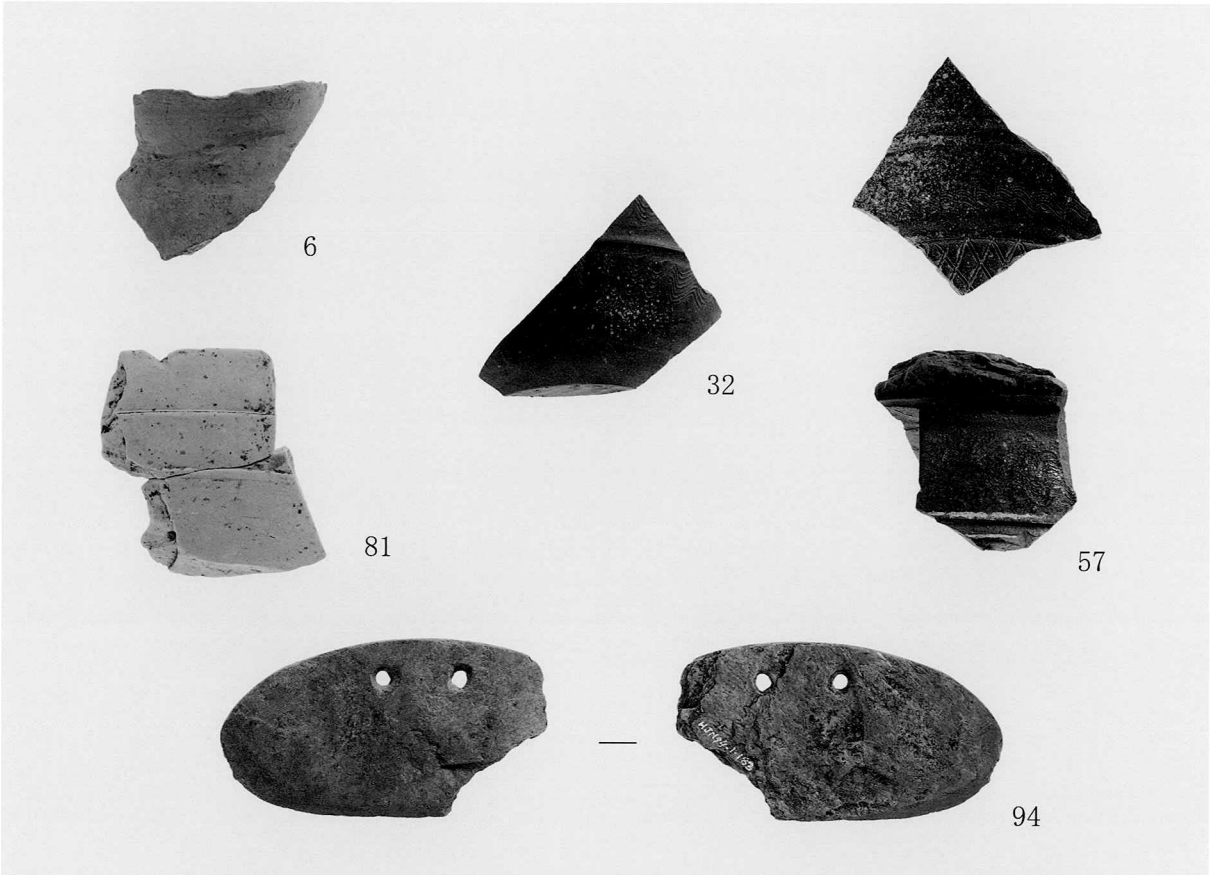


8．土師器　甕

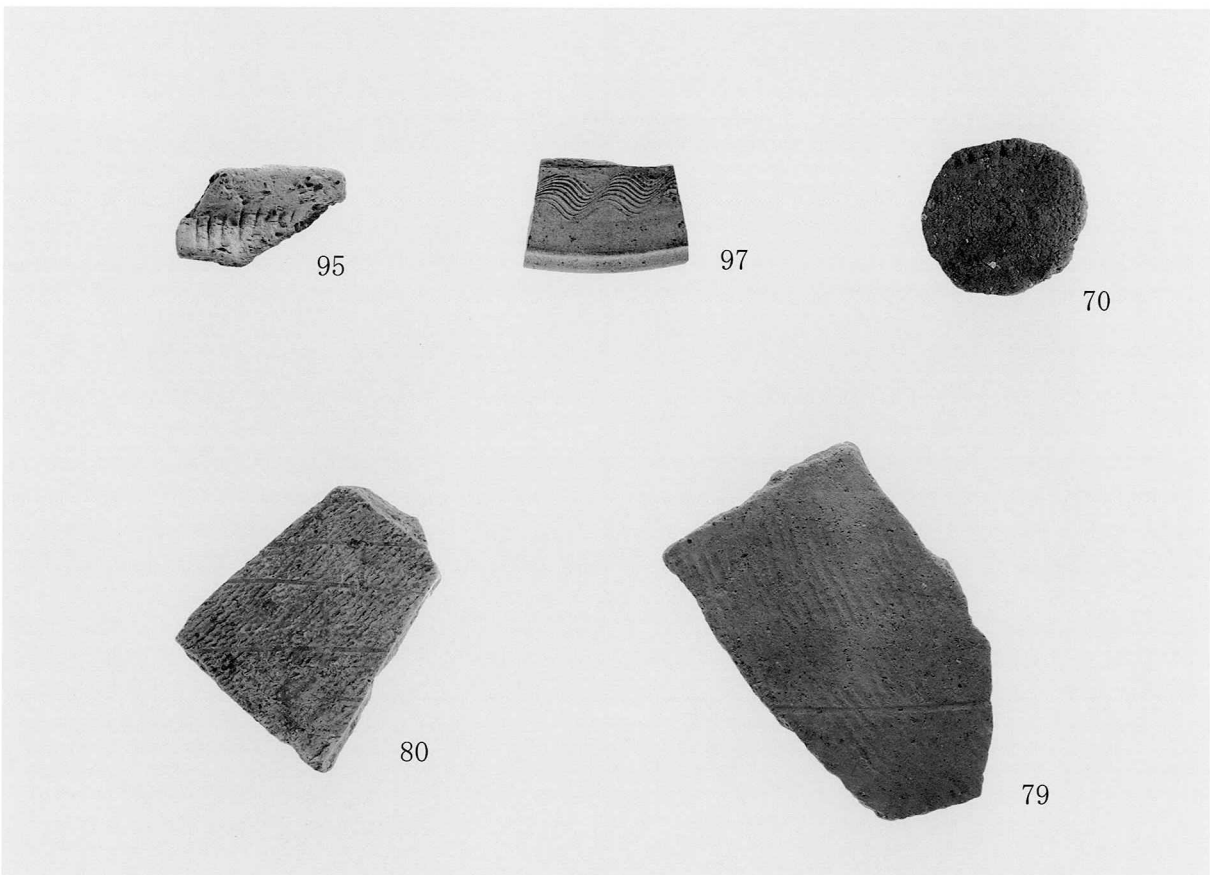
9．初期須恵器　杯身

10．須恵器系土師器　高杯

図版8　HJN94－1　出土遺物（4）

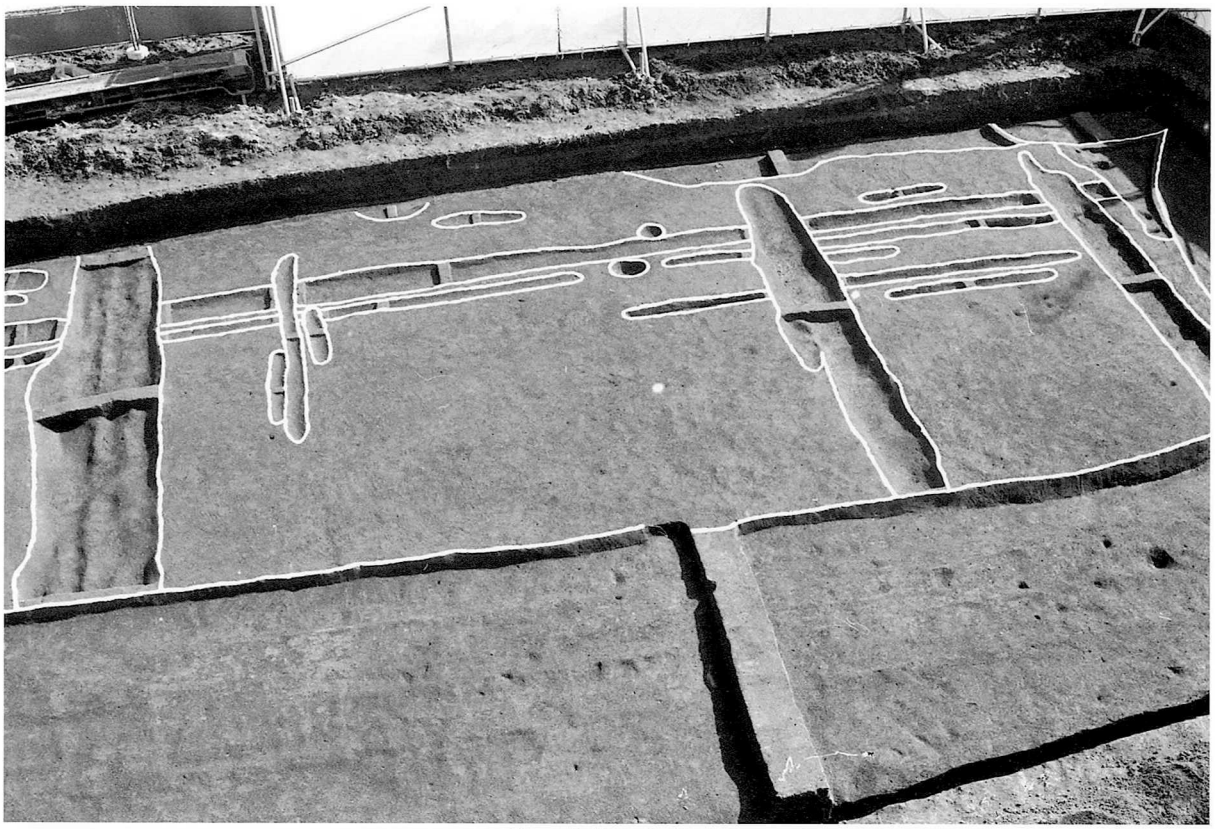


1．土師器　小型甕（6）・高杯（81）、須恵器　鉢（32）・器台（57）、石包丁（94）

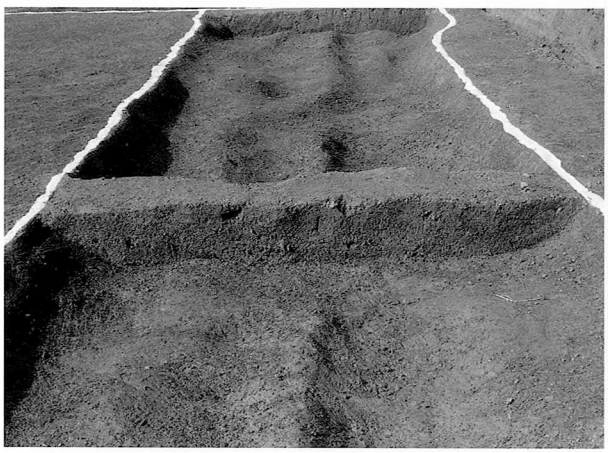


2．縄文土器（95）、須恵器　脚部（97）、土製円板（70）、
韓式系軟質土器　甕（79）、韓式系硬質土器　甕（80）

図版９　ＨＪＮ９６－１　遺構（１）

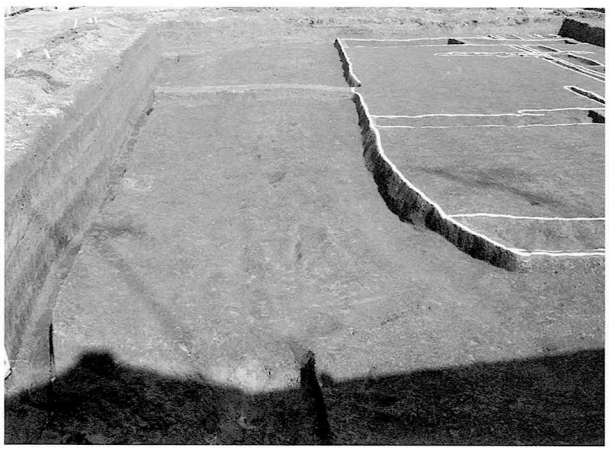


１．Ａ区第１遺構面全景（西より）



２．ＳＤ－Ａ１０１（東より）

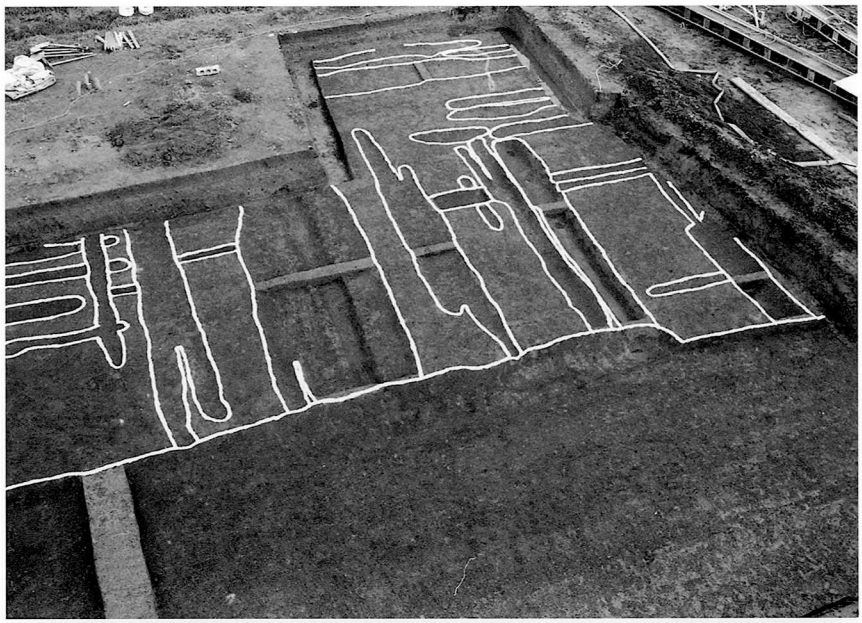
３．ＳＤ－Ａ１０３（東より）



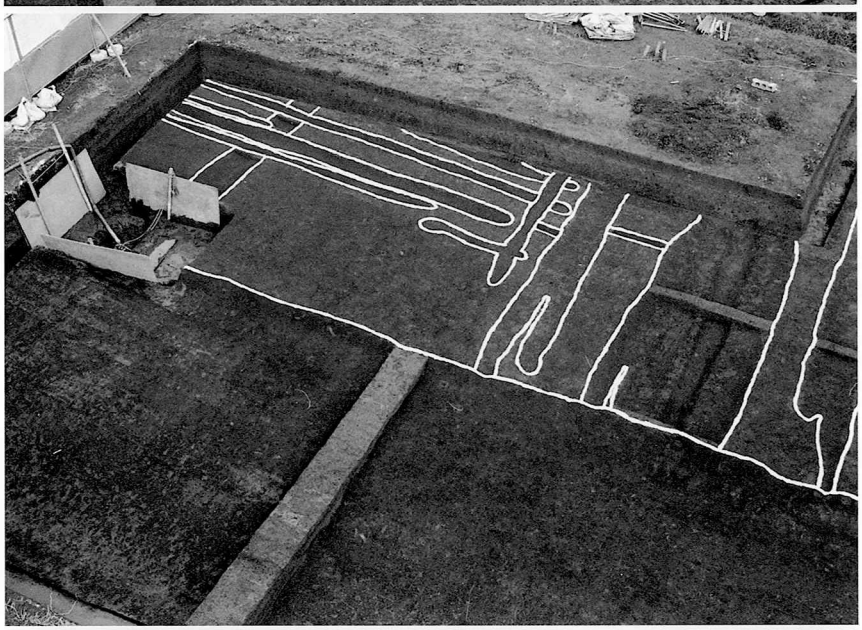
４．ＳＸ－Ａ１０１（南より）

５．ＳＸ－Ａ１０１銭貨出土状況

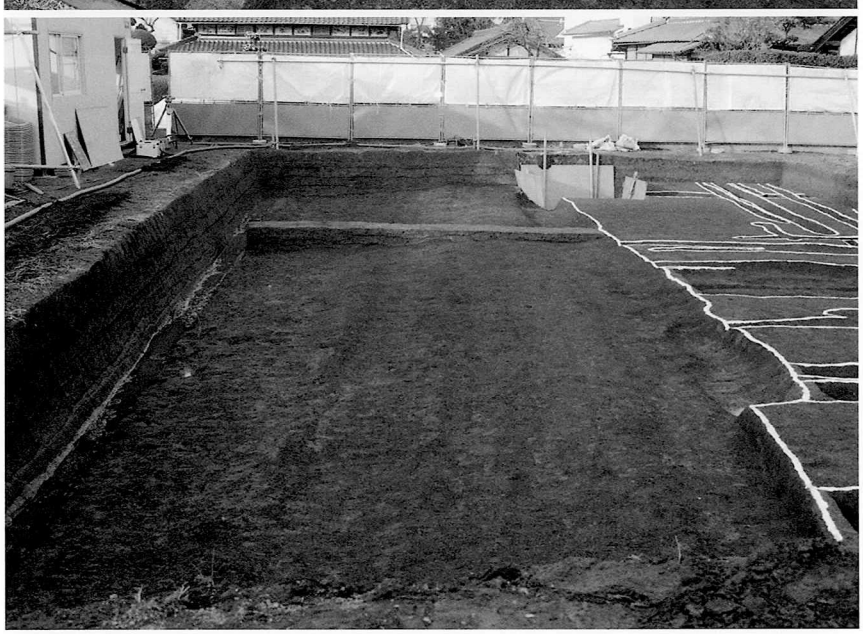
図版10　HJN96－1　遺構（2）



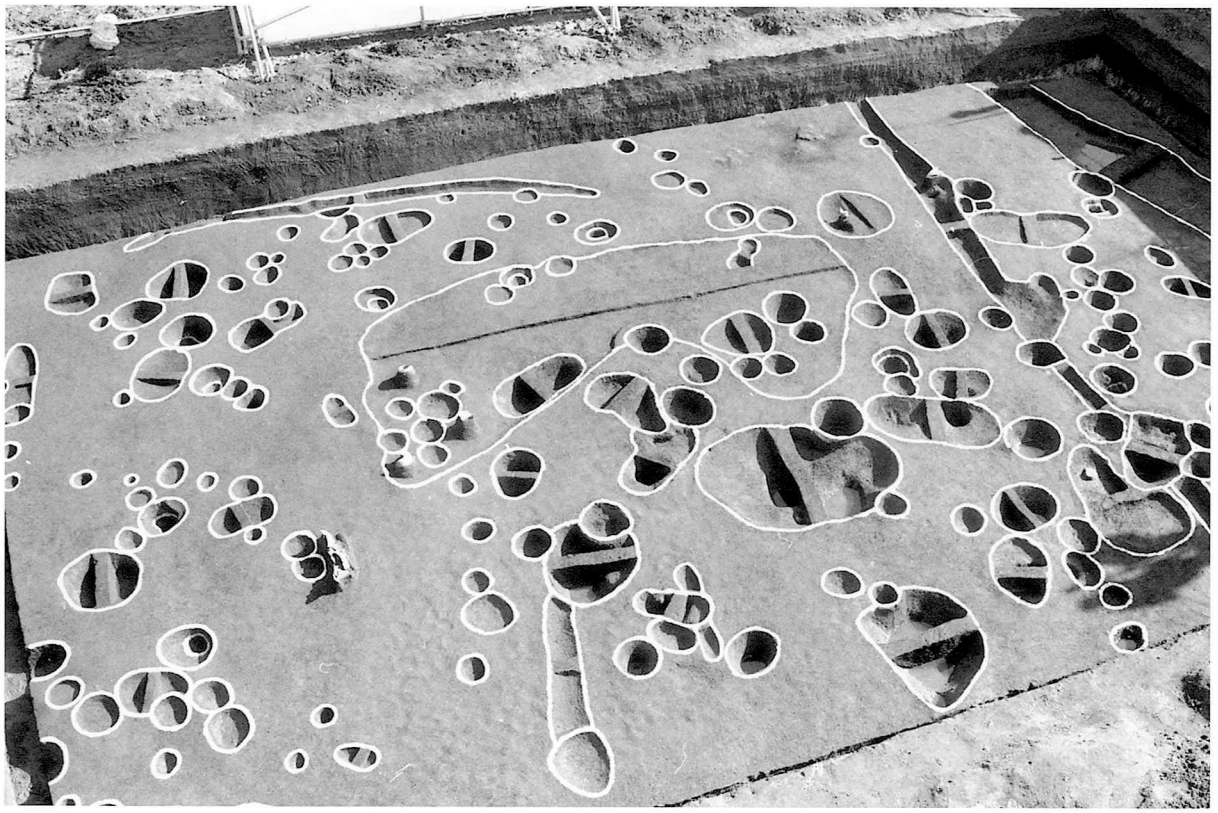
1．Ｂ区第１遺構面南半部
（西より）



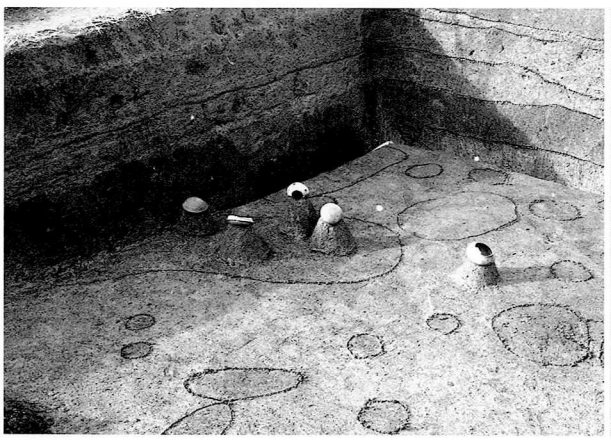
2．Ｂ区第１遺構面北半部
（西より）



3．ＳＸ－Ｂ１０１
（南より）

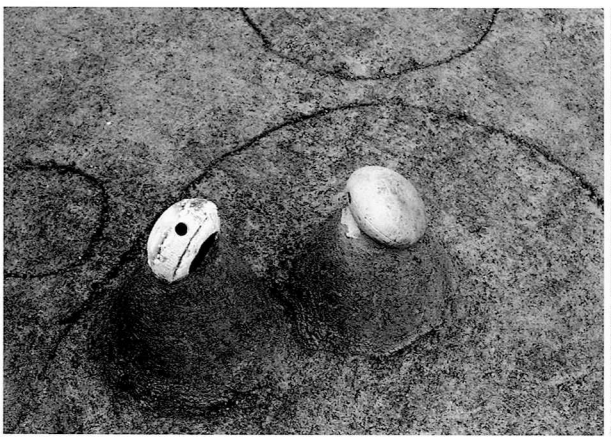


1．A区第２遺構面全景（西より）

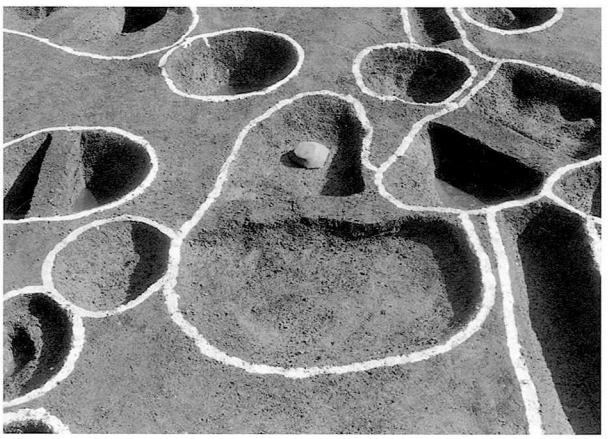


2．SD－A207
遺物出土状況（1）（南東より）

3．SD－A207
遺物出土状況（2）（南東より）

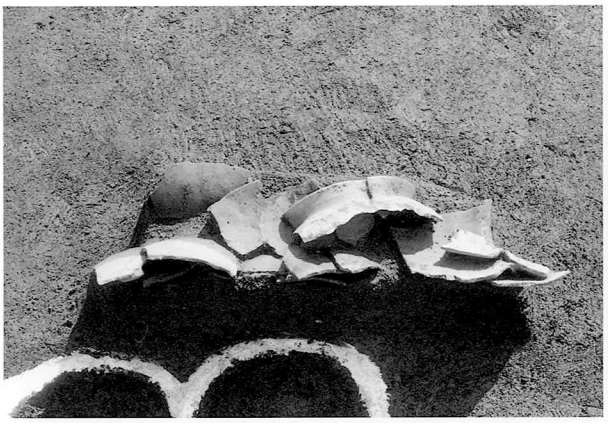


4．SD－A207
遺物出土状況（3）（南東より）

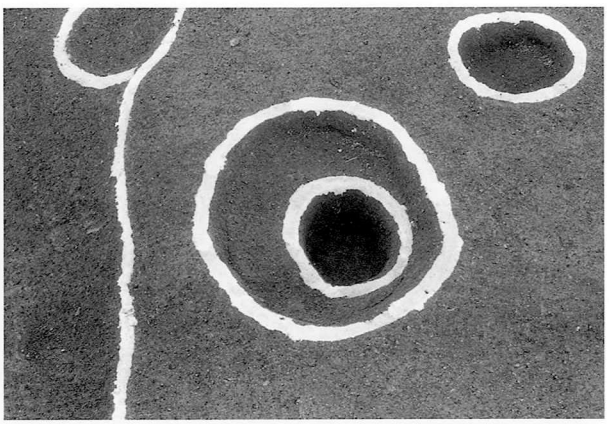


5．SK－A204（西より）

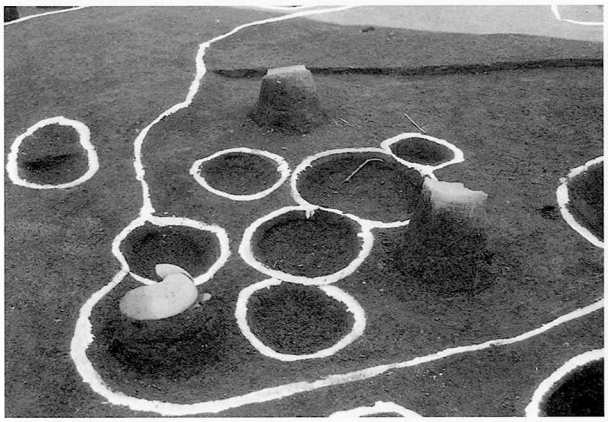
図版12　HJN96－1　遺構（4）



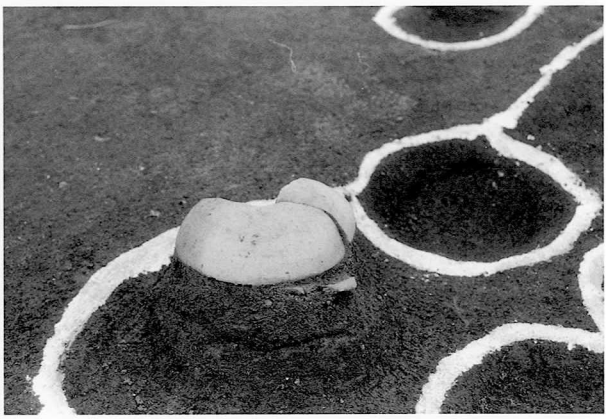
1．A区SI－A201　遺物出土状況（西より）



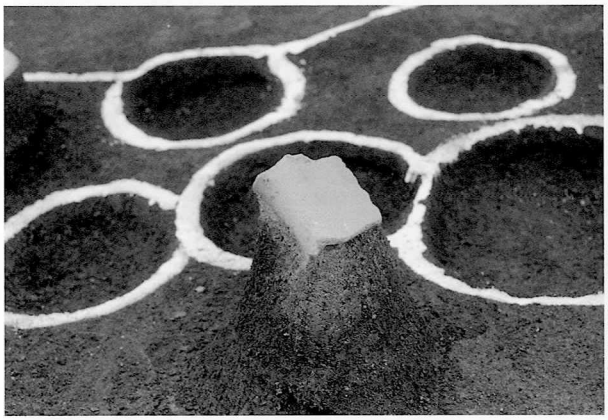
2．SP－A2145（南より）



3．SK－A214　遺物出土状況

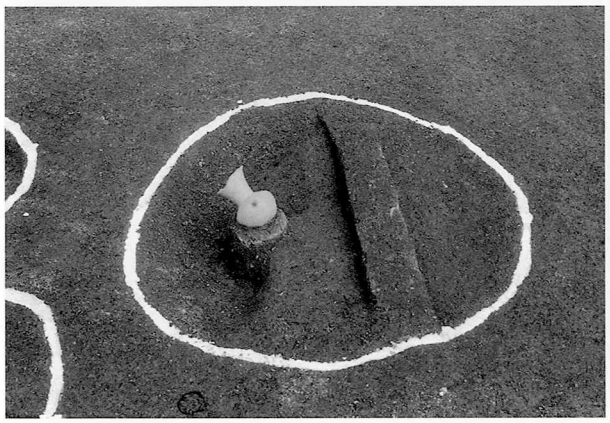


4．SK－A214　遺物出土状況（1）－①

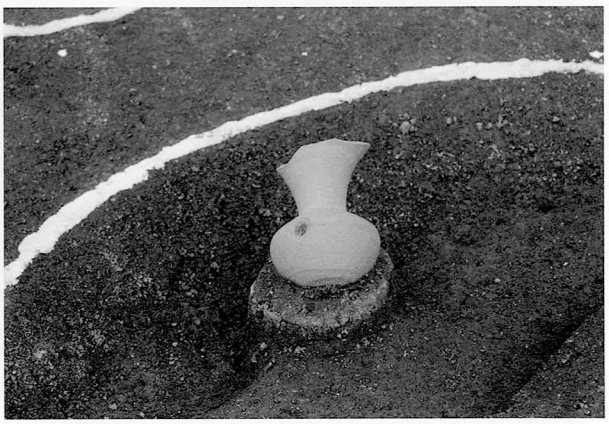


5．SK－A214　遺物出土状況（1）－②

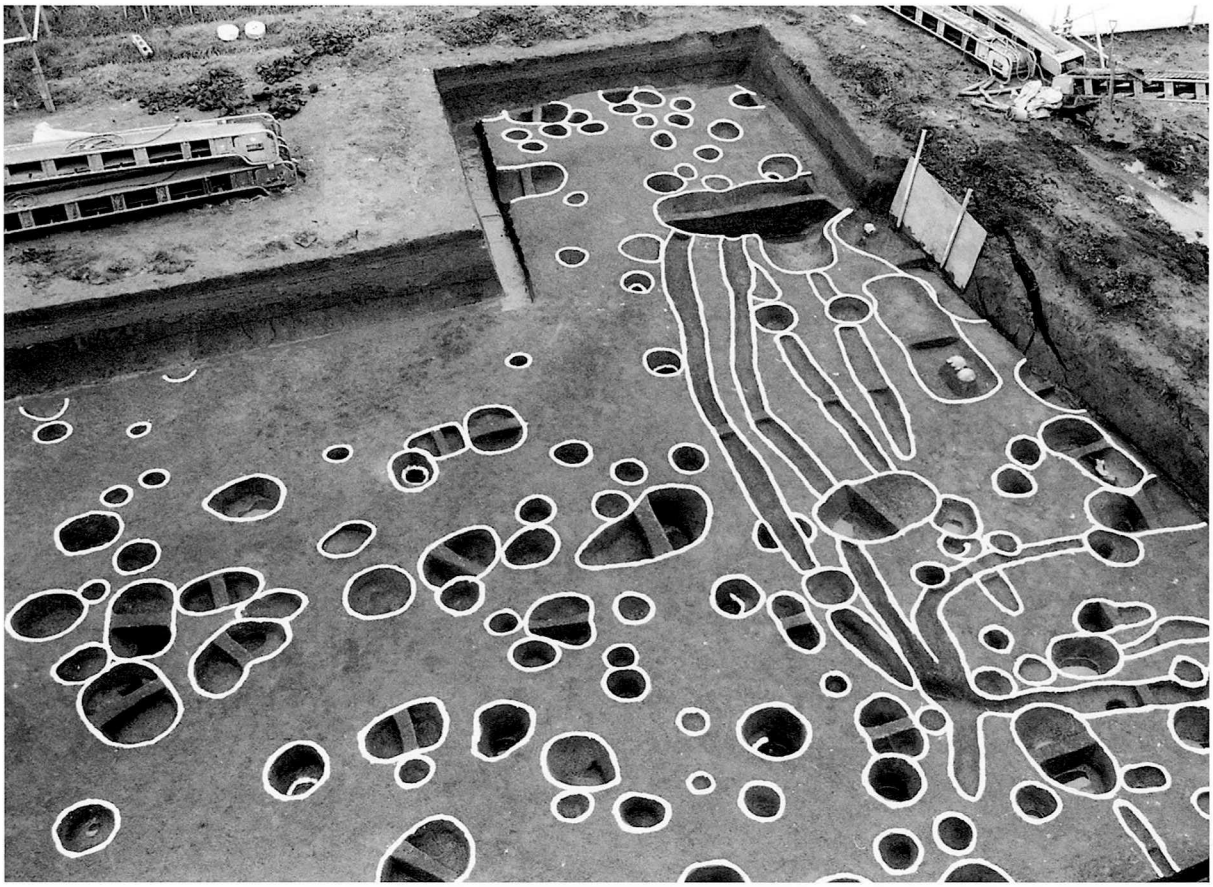
6．SK－A214　遺物出土状況（1）－③



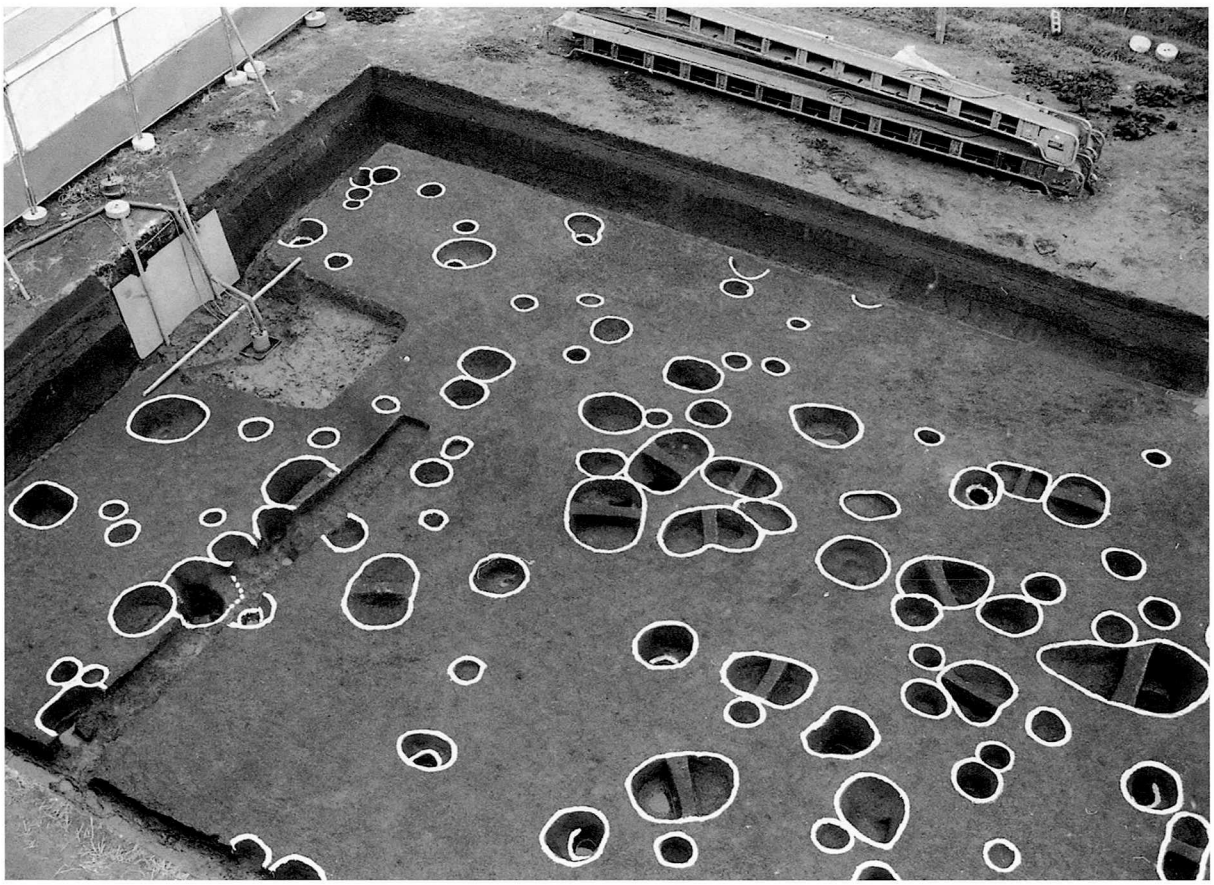
7．SK－A213（西より）



8．SK－A213　遺物出土状況（南より）



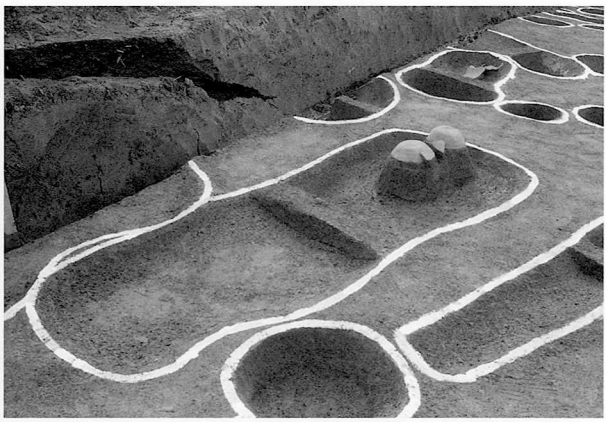
1．B区第２遺構面南半部（西より）



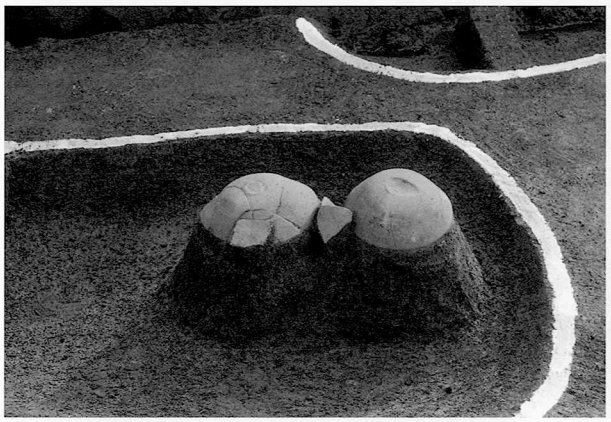
2．B区第２遺構面北半部（西より）

図版14　ＨＪＮ９６－１　遺構（６）

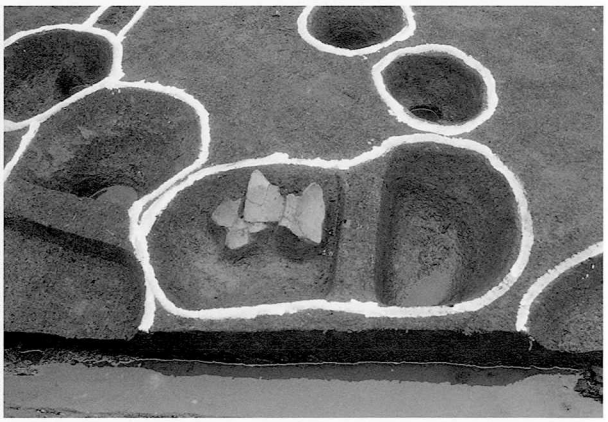
１．ＳＫ－Ｂ２０４（南より）



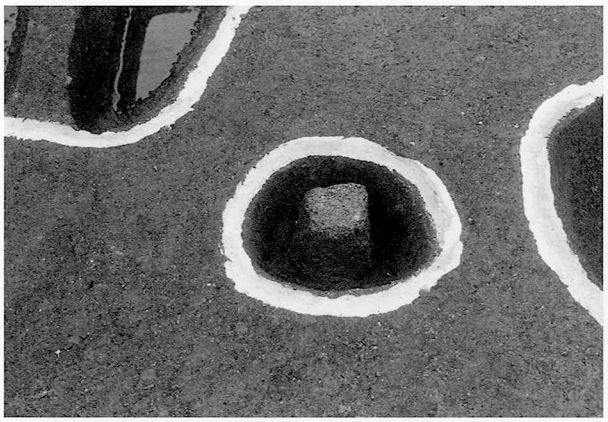
２．ＳＫ－Ｂ２０５（東より）



３．ＳＫ－Ｂ２０５　遺物出土状況

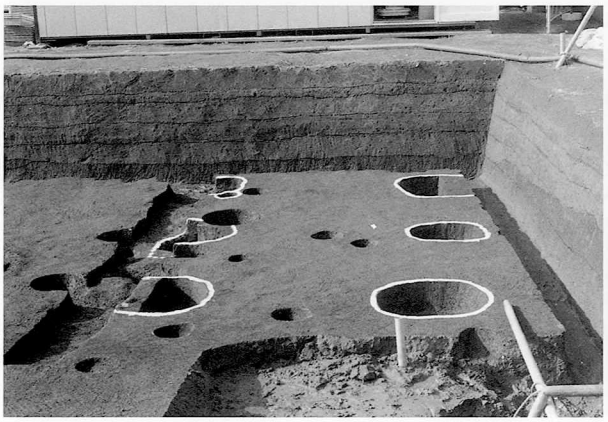


４．ＳＫ－Ｂ２０７（南より）



５．ＳＰ－Ｂ２７２（南より）

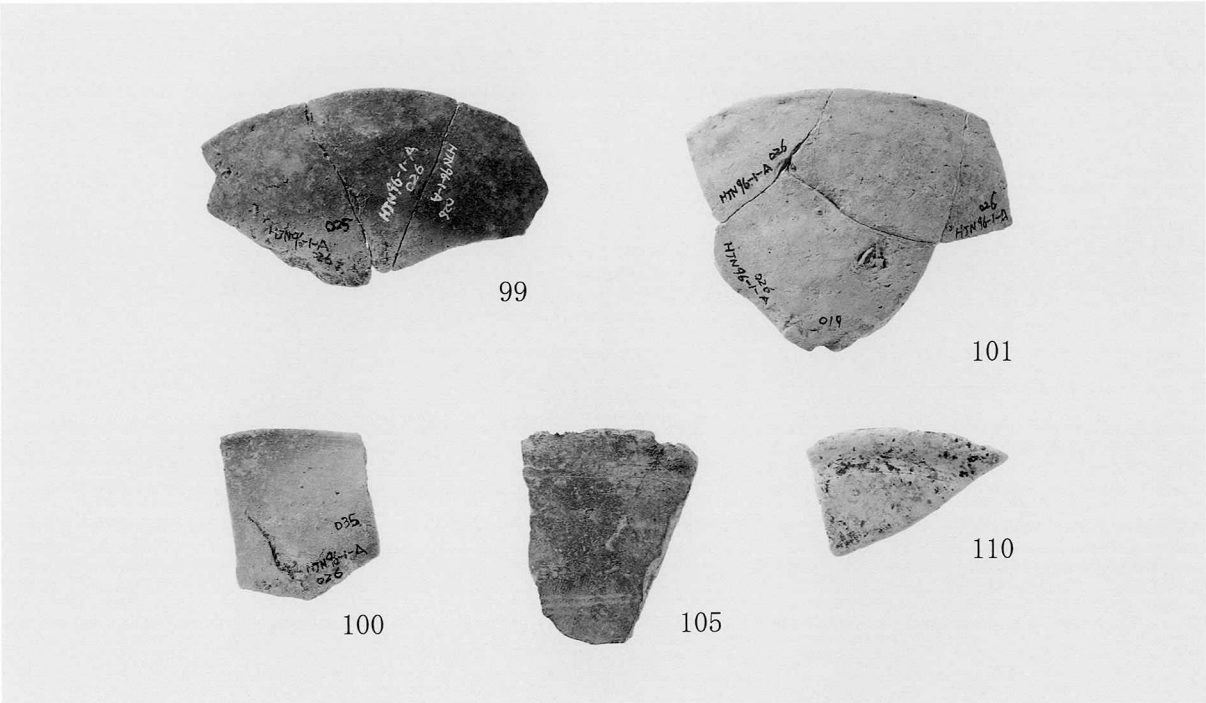
６．ＳＢ－Ｂ２０１（西より）



７．ＳＢ－Ｂ２０２（東より）

８．Ｂ区側溝Ｉ　遺物出土状況（南より）

図版15　HJN96－1　出土遺物（1）



1．瓦器　椀（99～101・110）、土師器　小皿（105）

2．弥生土器　底部

3．須恵器系土師器　杯身

4．須恵器　杯身

5．須恵器系土師器　瓶

6．須恵器　瓶

図版16　HJN96－1　出土遺物（2）

1．弥生土器　鉢

2．須恵器　瓶

3．土師器　長胴甕

4．弥生土器　底部

5．弥生土器　底部

6．須恵器　杯身

7．須恵器系土師器　杯身

8．弥生土器　底部

9．須恵器系土師器　高杯

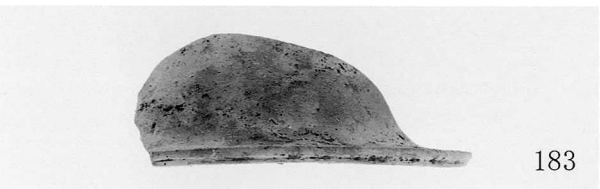
図版17　HJN96－1　出土遺物（3）

1．須恵器系土師器　高杯

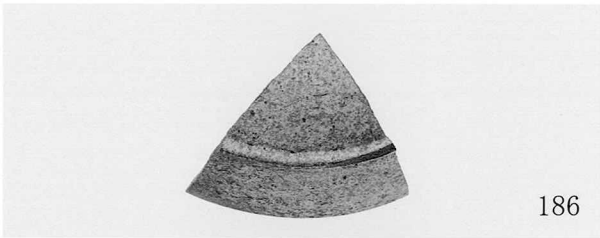
2．須恵器　高杯

3．土師器　壺

4．須恵器　甕



5．須恵器系土師器　高杯



6．須恵器　杯蓋

7．須恵器　杯身

8．須恵器　杯身

9．須恵器　杯身

10．須恵器　杯蓋

11．土師器　高杯

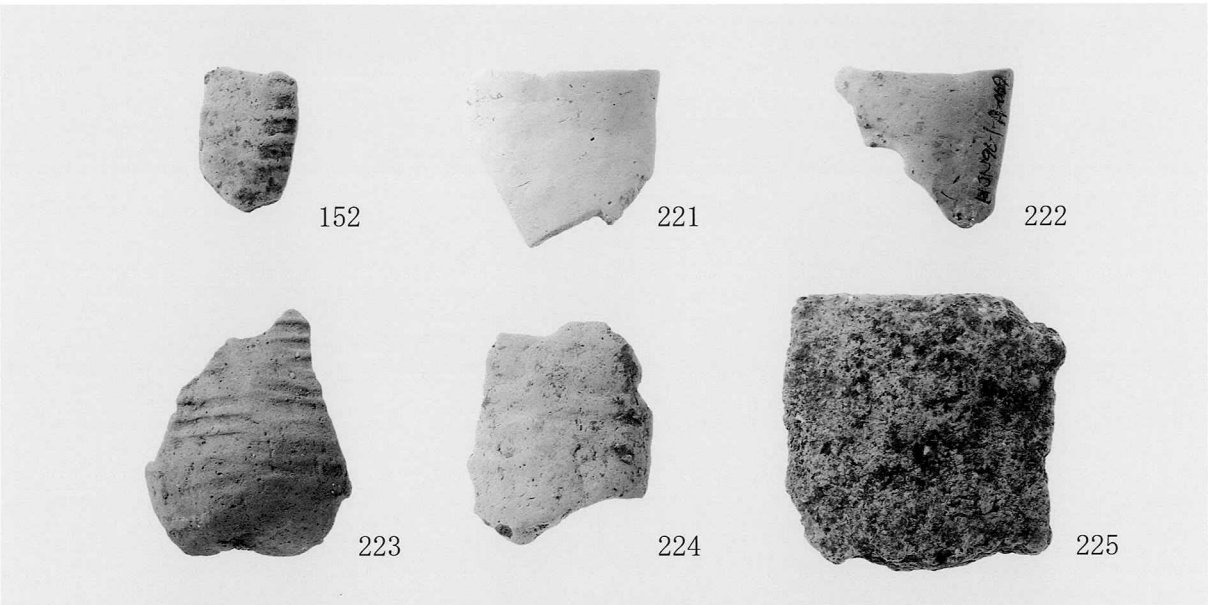
12．土師器　高杯

13．須恵器系土師器　高杯

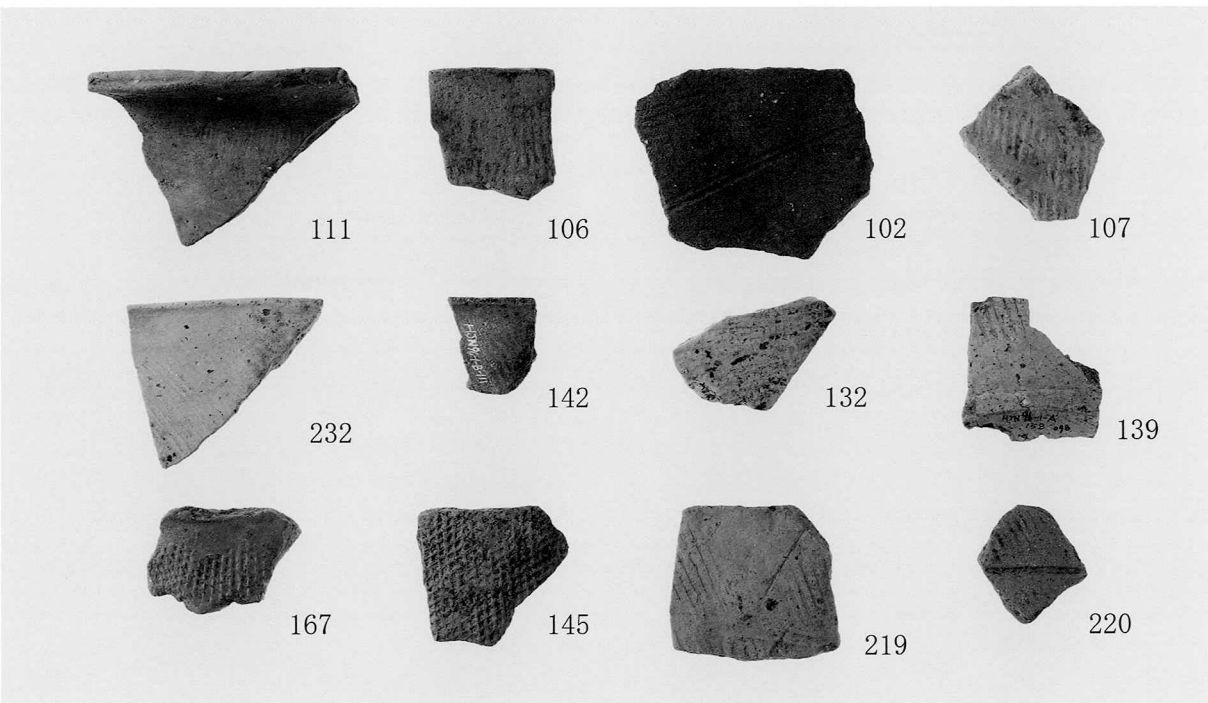
図版18　HJN96－1　出土遺物（4）

1．土師器　小型壺

2．土師器　小型壺

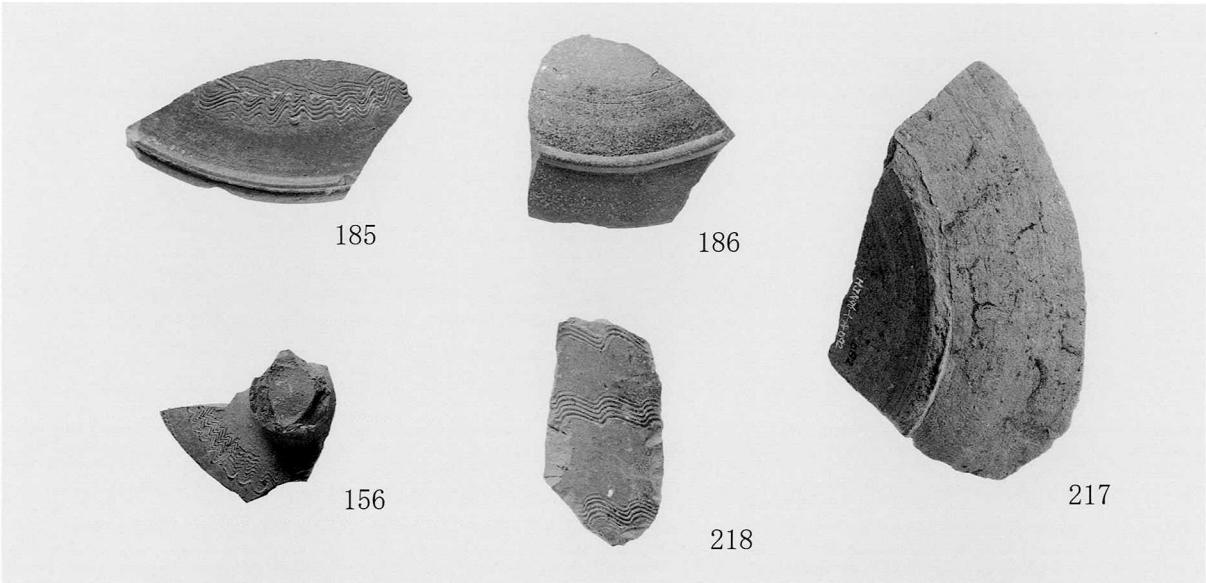


3．製塩土器

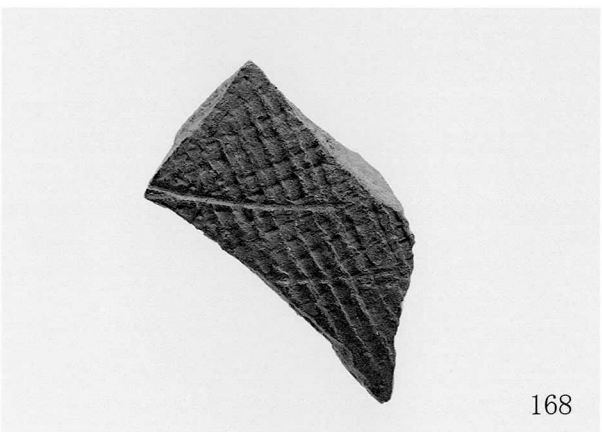


4．弥生土器　壺（111）、韓式系硬質土器（139）、
韓式系軟質土器（102・106・107・132・142・145・167・219・220・232）

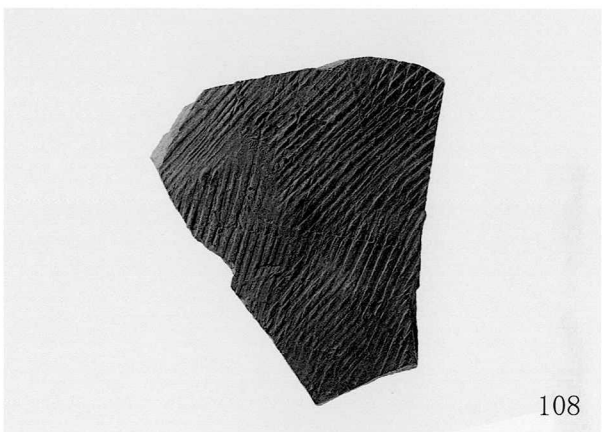
図版19　HJN96－1　出土遺物（5）



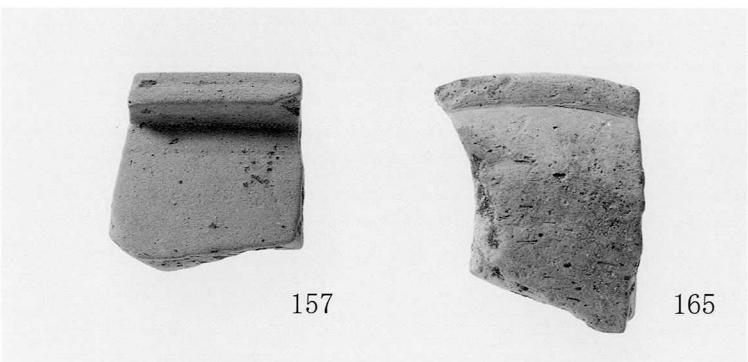
1．初期須恵器　高杯蓋（156）・杯蓋（185・186）・樽型瓶（217）、韓式系硬質土器（218）



2．韓式系硬質土器

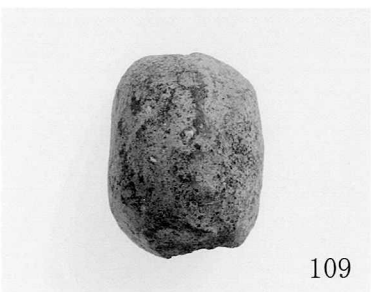


3．韓式系硬質土器

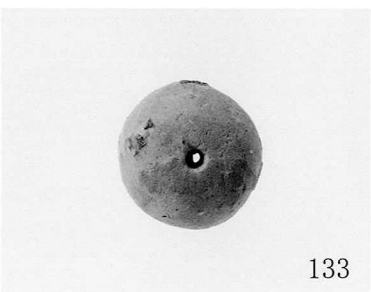


4．須恵器系土師器　高杯（157）・杯身（165）

7．縄文土器　鉢



5．土製紡錘車



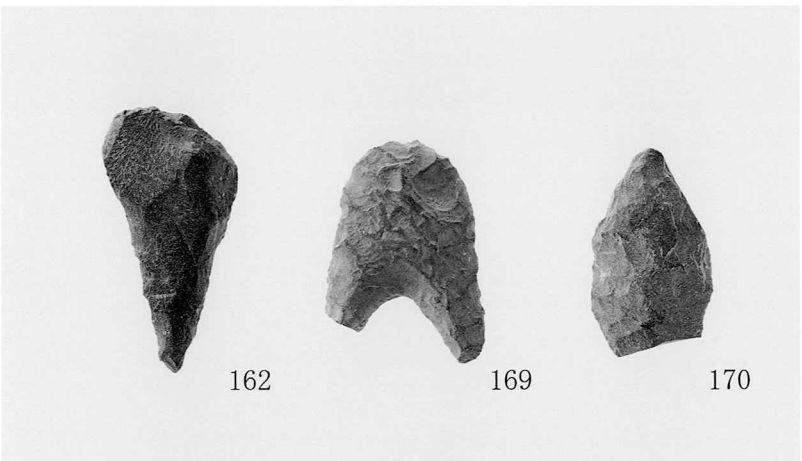
6．土玉

8．縄文土器

図版20　HJN96－1　出土遺物（6）

1．打製石鏃

2．滑石製双孔円板

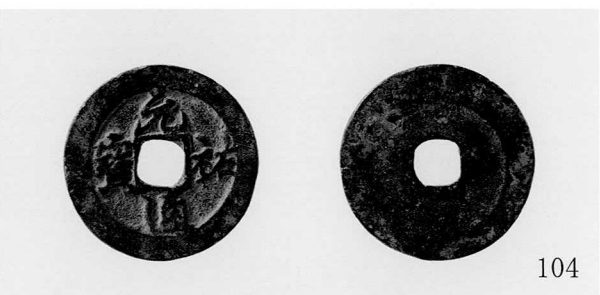


3．石錐（162）、石鏃（169・170）

4．滑石製紡錘車

5．砥石

6．砥石



7．銭貨　元祐通寶

報告書抄録

ふりがな	ほうじょうにしいせき
書名	北条西遺跡
副書名	北条２・６丁目所在共同住宅建設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第38集
編著者名	中達健一
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574-0076　大阪府大東市曙町４番６号　TEL　072-870-9105
発行年月日	平成26（2014）年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
北条西遺跡（ほうじょうにしいせき）（ＨＪＮ９４－１）	大阪府大東市（おおさかふだいとうし）北条２丁目（ほうじょう ちょうめ）	27218	18	34度43分25秒	135度38分30秒	平成６年４月15日～６月８日	455㎡	共同住宅建設
北条西遺跡（ほうじょうにしいせき）（ＨＪＮ９６－１）	大阪府大東市（おおさかふだいとうし）北条２・６丁目（ほうじょう ちょうめ）	27218	18	34度43分26秒	135度38分31秒	平成８年11月７日～12月16日	428㎡	共同住宅建設

所収遺跡名（ふりがな）	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
北条西遺跡（ほうじょうにしいせき）ＨＪＮ９４－１調査	集落	弥生中期以前		縄文土器	
	集落	弥生中期	土坑 ピット	土器、石器 土製円板	動物等を捕獲する落穴を想定させる土坑
	集落	古墳中期	溝、土坑、ピット	土師器、初期須恵器 須恵器、韓式系土器 須恵器系土師器 製塩土器、砥石	渡来系集団の影響を強く受けている集落 井戸祭祀をうかがわせる桃核の大量の出土
	集落	飛鳥～奈良	溝、土坑、ピット 畦畔	土師器、須恵器	
	生産	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
ＨＪＮ９６－１調査	集落	弥生中期以前		縄文土器	
	集落	弥生中期	土坑 ピット	土器、石器 土製円板	
	集落	古墳中期	溝、土坑、ピット 掘立柱建物	土師器、初期須恵器 須恵器、韓式系土器 須恵器系土師器 製塩土器、砥石	渡来系集団の影響を強く受けている集落
	集落	飛鳥～奈良	溝、土坑、ピット	土師器、須恵器	
	生産	中世	鋤溝 段上遺構	土師器、瓦器	

印刷物番号
25 － 53

大東市埋蔵文化財調査報告第38集
北 条 西 遺 跡
－北条２・６丁目所在共同住宅建設に伴う発掘調査報告書－

平成26年３月31日発行

編集・発行　大東市教育委員会
〒574－0076　大東市曙町４番６号
TEL. 072－870－9105
印刷・製本　株式会社　地域文化財研究所
〒578－0941　東大阪市岩田町１丁目17番９号
TEL. 072－968－7321